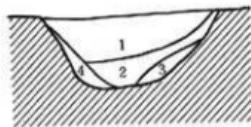
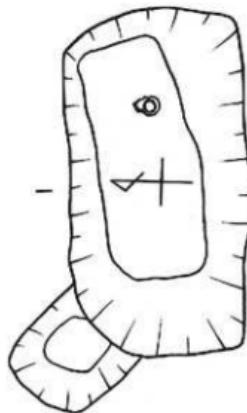


40号土壤剖面

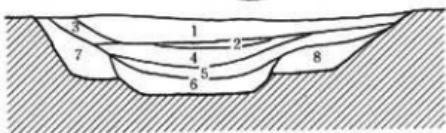
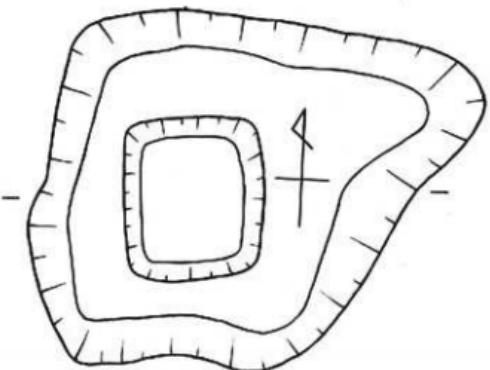
3号·6号·10号·40号土壤剖面



1. 黑色粘土层
2. 暗灰色砂质粘土层
3. 茶褐色砂层
4. 青灰色粘土层
- 6号土壤剖面

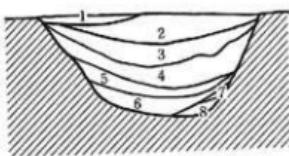
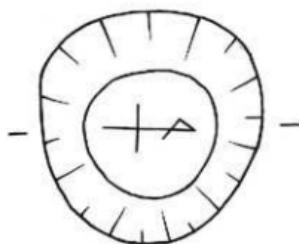


10号土壤剖面

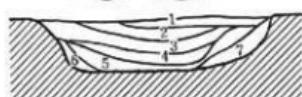
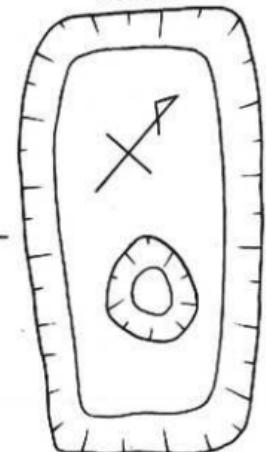


1. 暗灰色粘土层
2. 灰色粘土层
3. 黄褐色砂质土层
4. 黑灰色粘土层
5. 黑灰色粘土层
6. 暗灰色粘土层
7. 黄褐色粘土层
8. 黄褐色粘土层

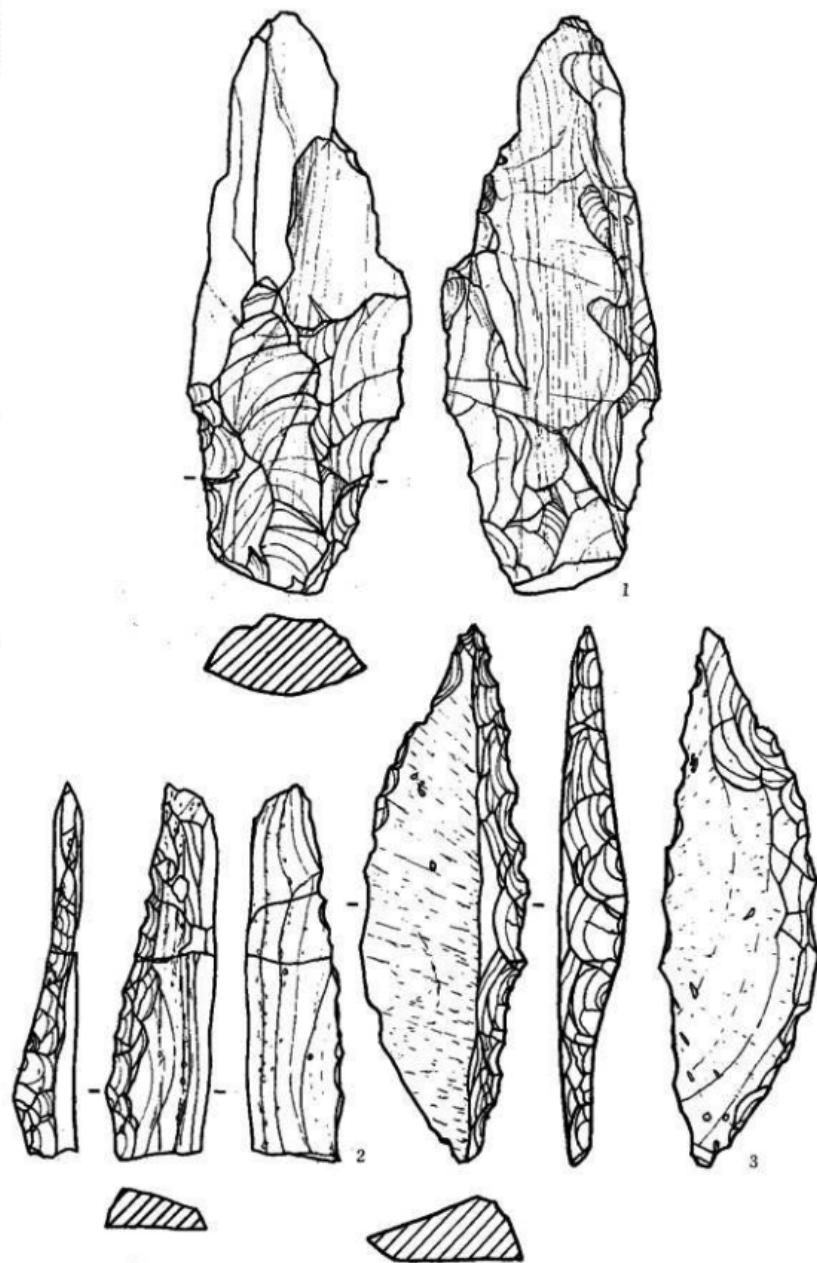
3号土壤剖面

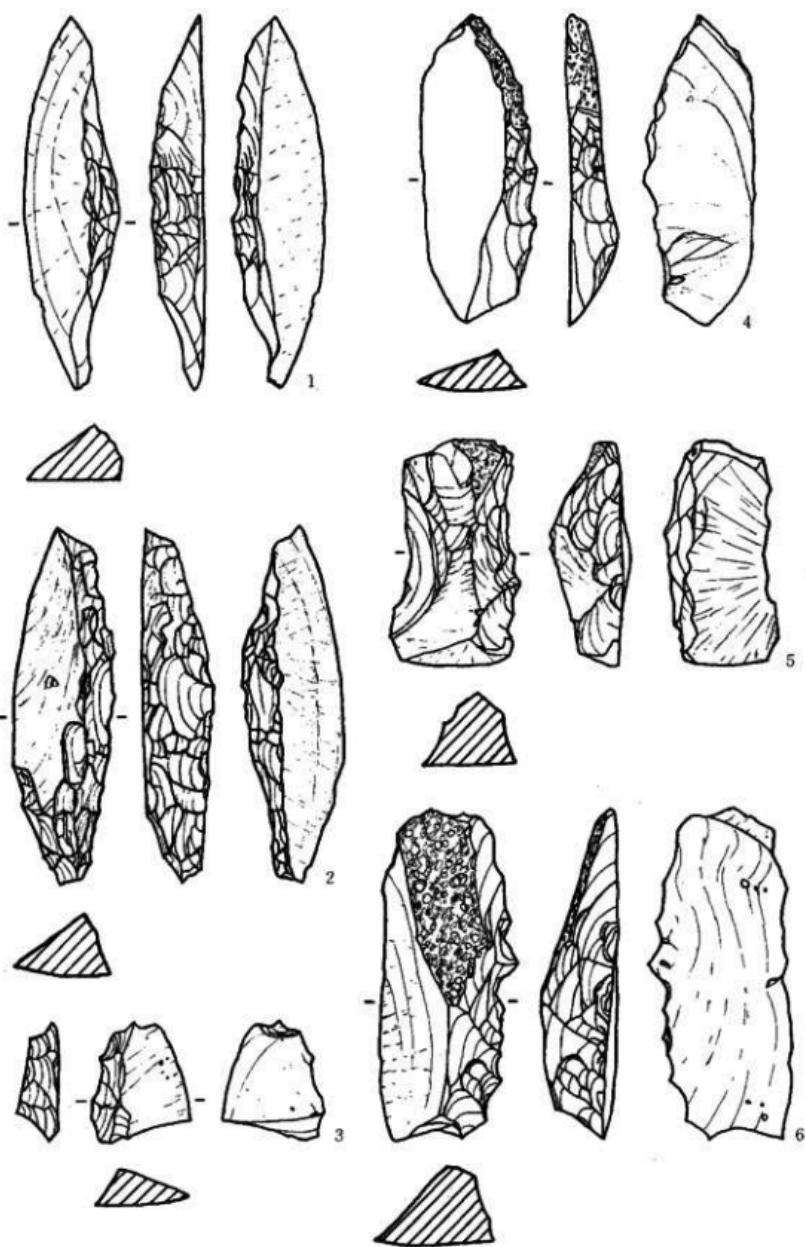


1. 黄褐色粘土层
2. 暗褐色粘土层
3. 黑褐色粘土层
4. 黑色粘土层
5. 黄褐色粘土层
6. 暗灰色粘土层
7. 喀黄褐色粘土层
8. 暗灰色粘土层

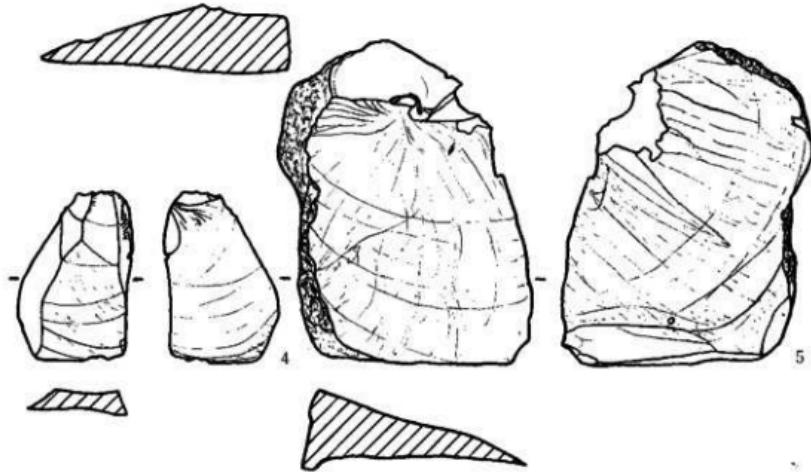
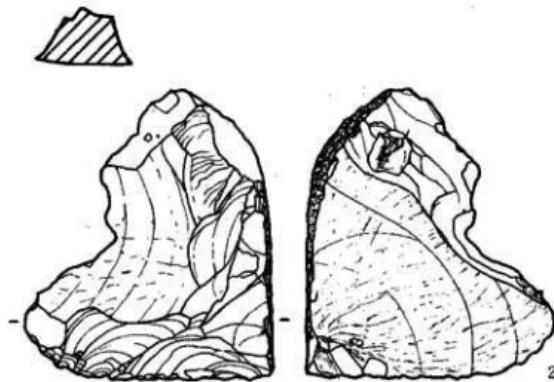
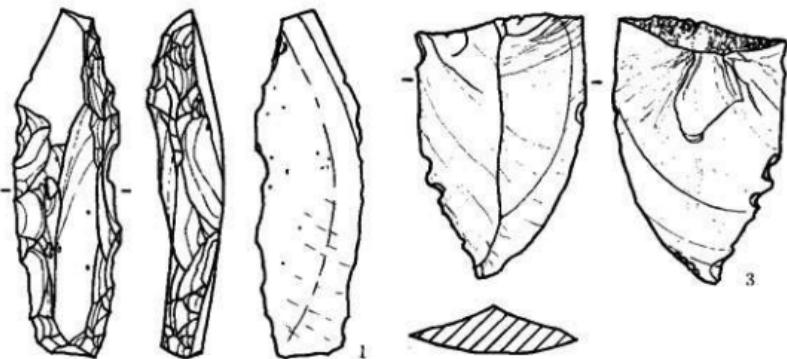


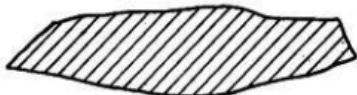
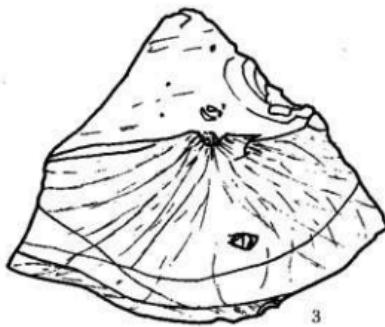
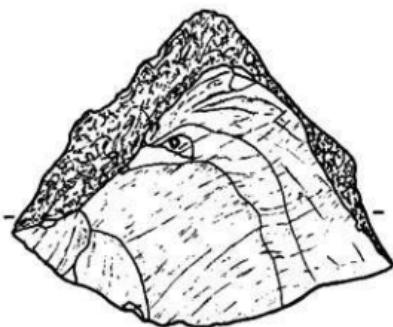
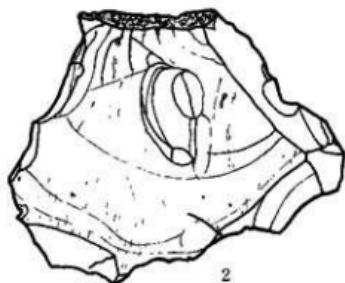
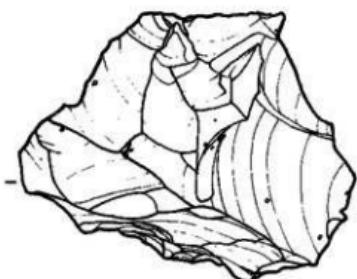
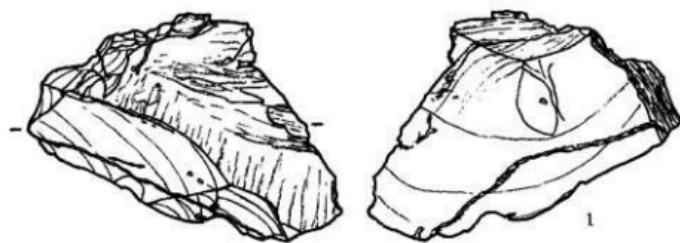
1. 黄褐色粘土层
2. 黑灰色粘土层
3. 黑灰褐色粘土层
4. 黑灰褐色砂质粘土层
5. 黑灰色粘土层
6. 黄褐色砂质土层
7. 黄褐色砂质土层
8. 黄褐色砂质粘土层

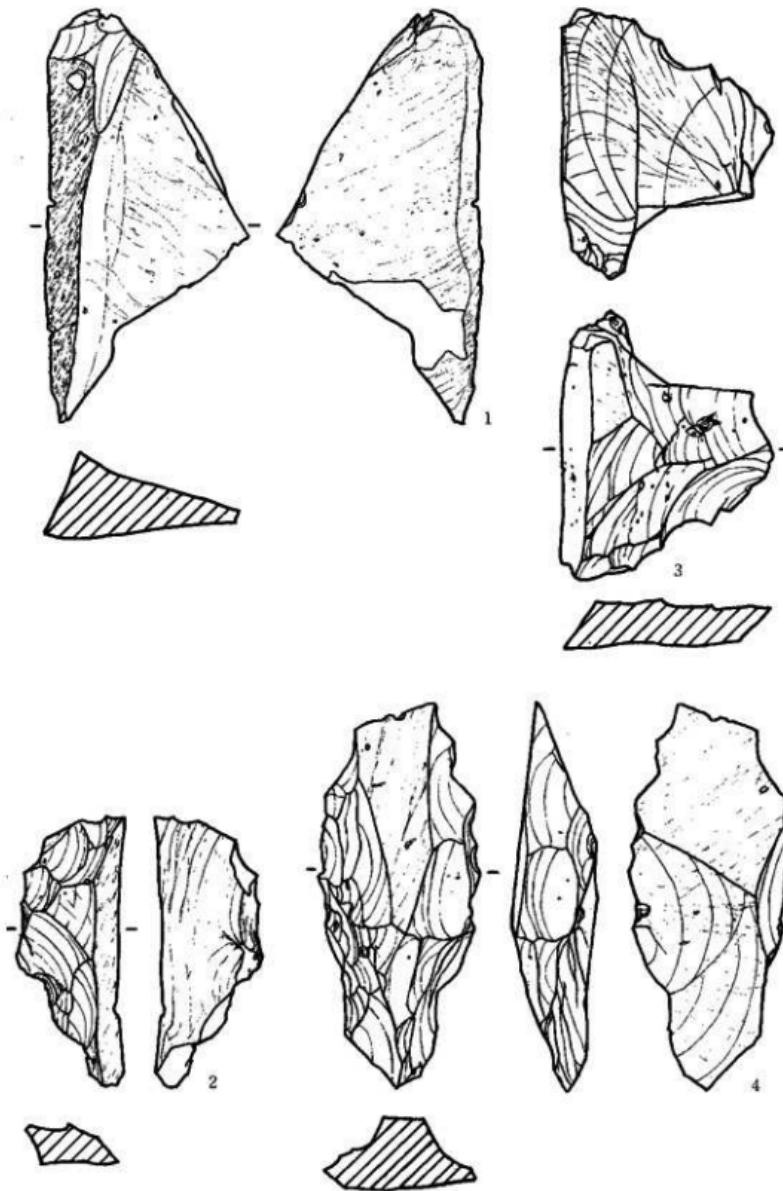


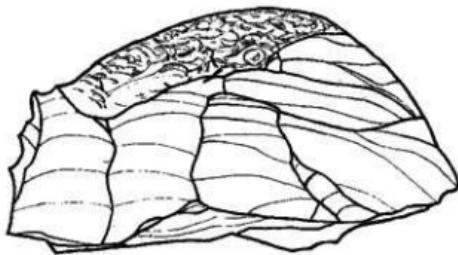
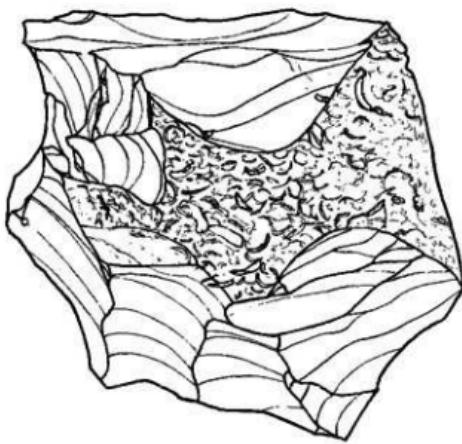


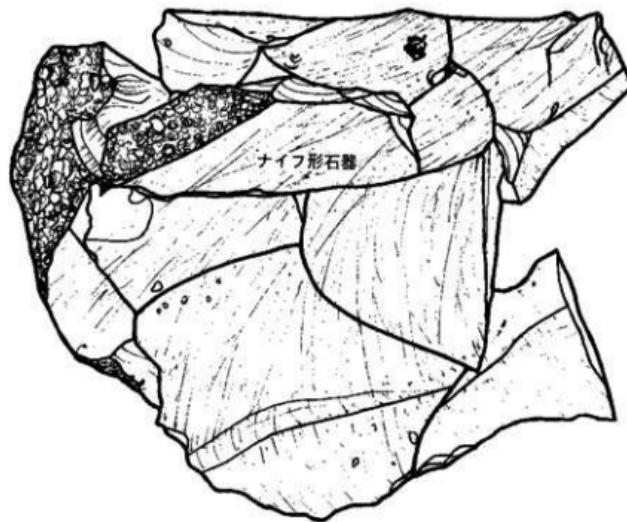
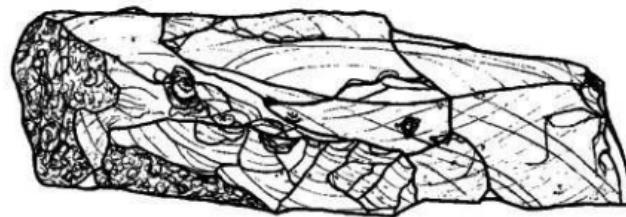
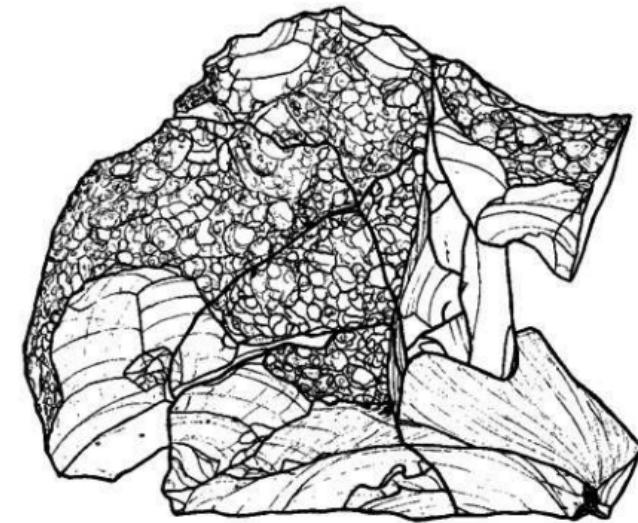
(実大)



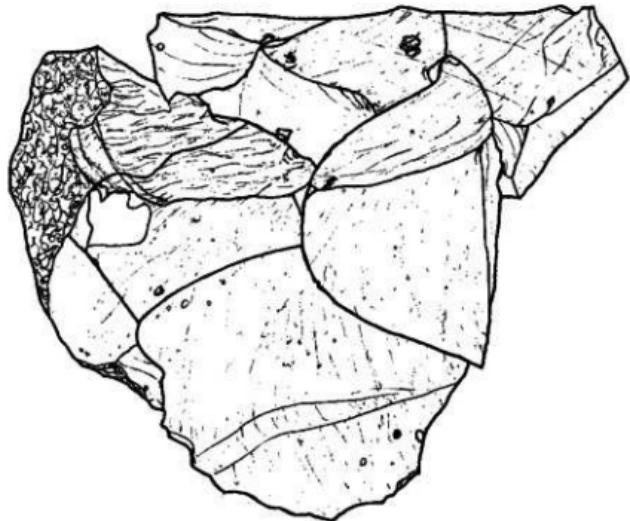
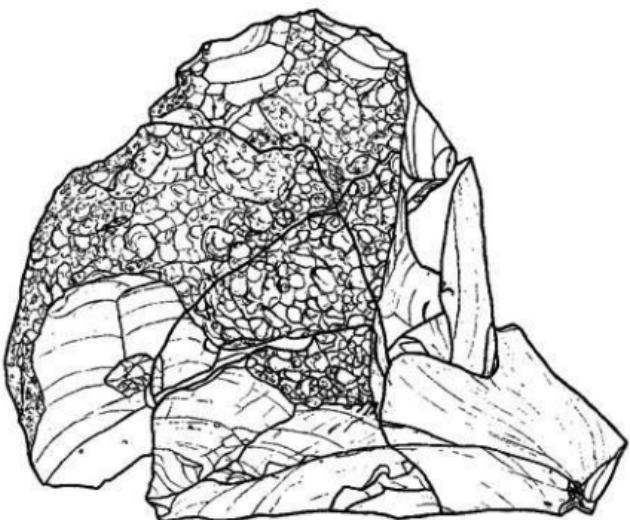


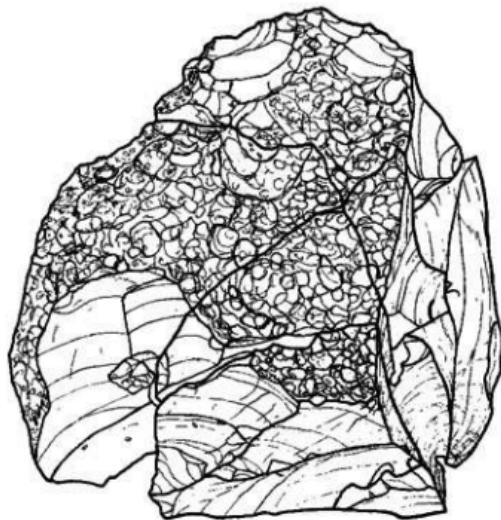




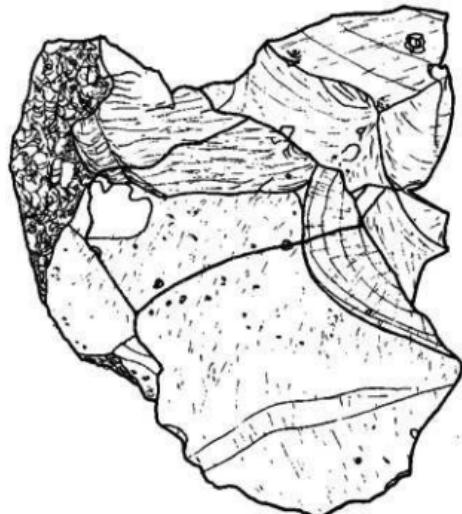


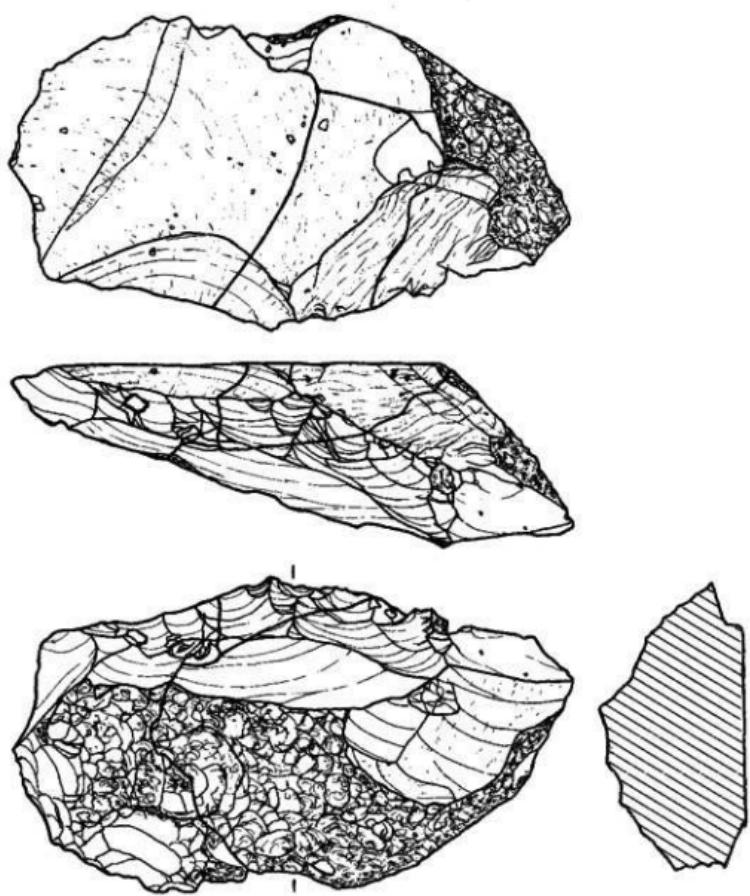
(実大)

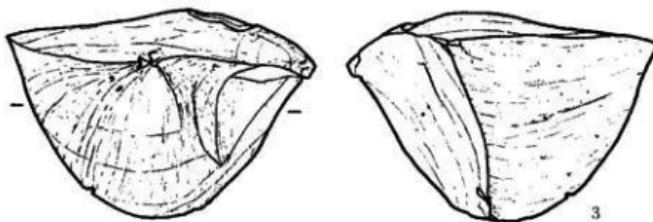
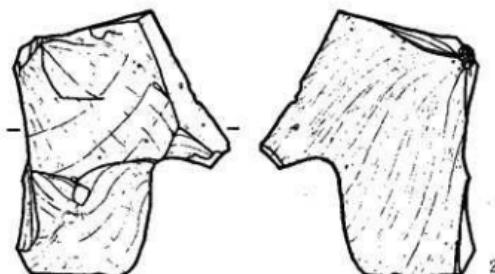
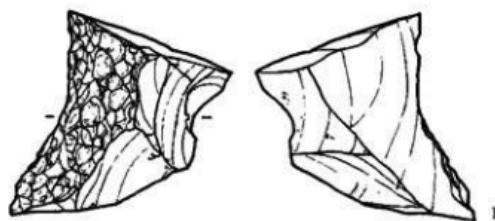


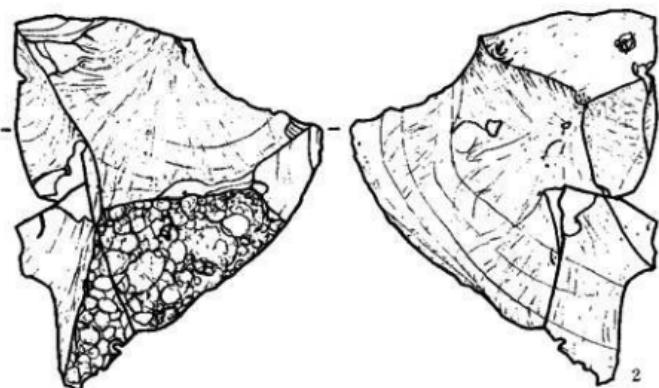
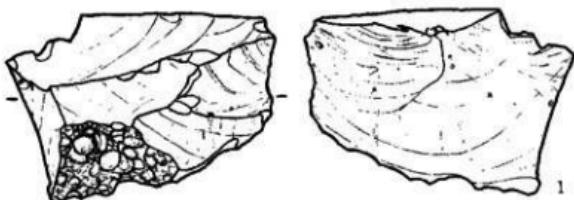


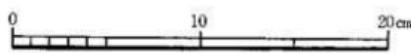
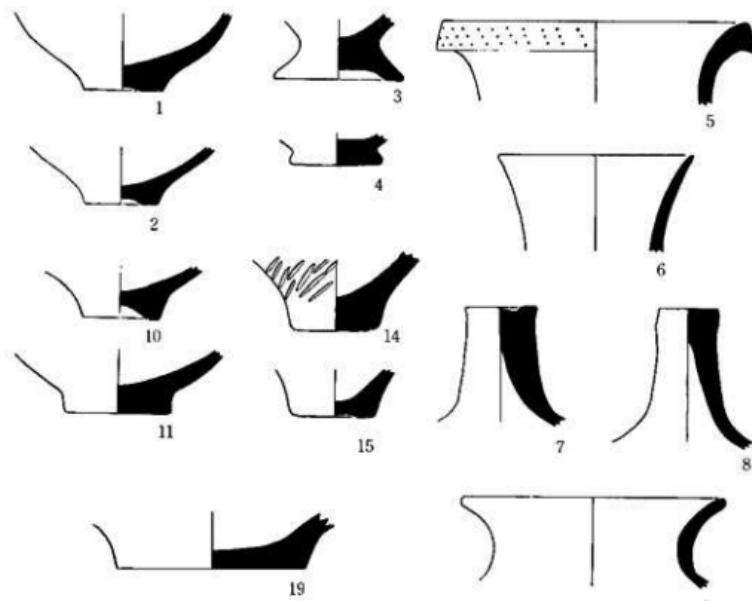








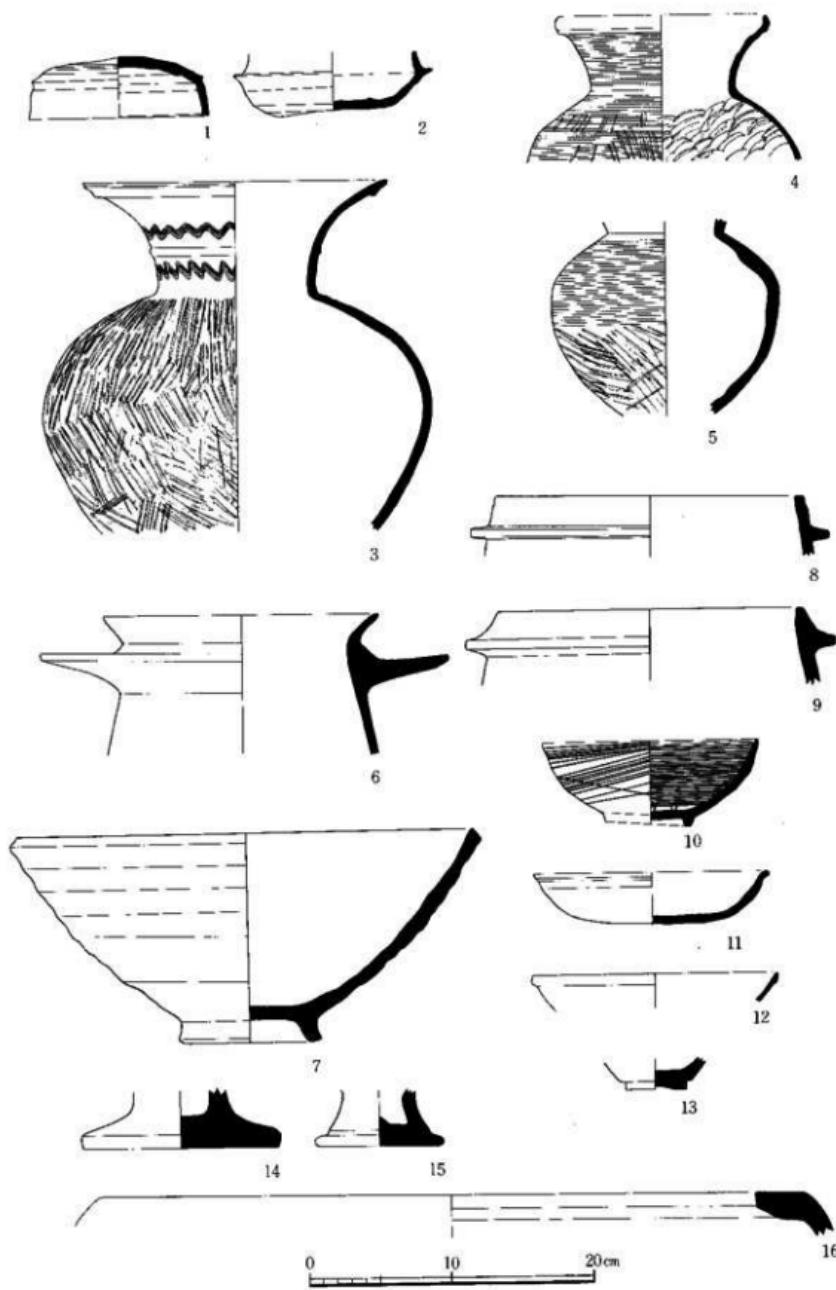




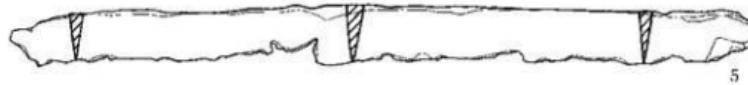
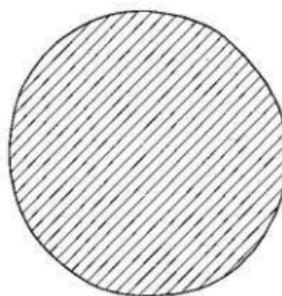
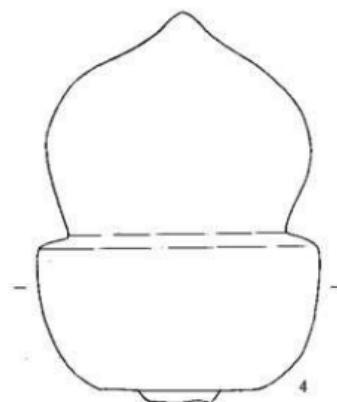
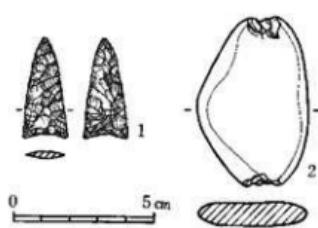
17

18





石錐・石鋸・瓦・五輪塔・鐵刀



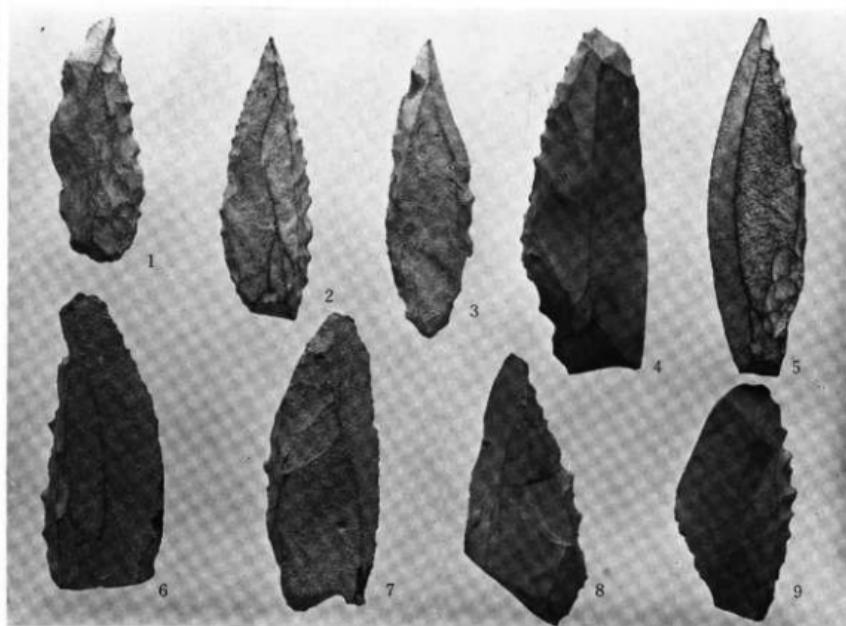
0 5 10 15 cm



a. 遺跡全景（南西側から）

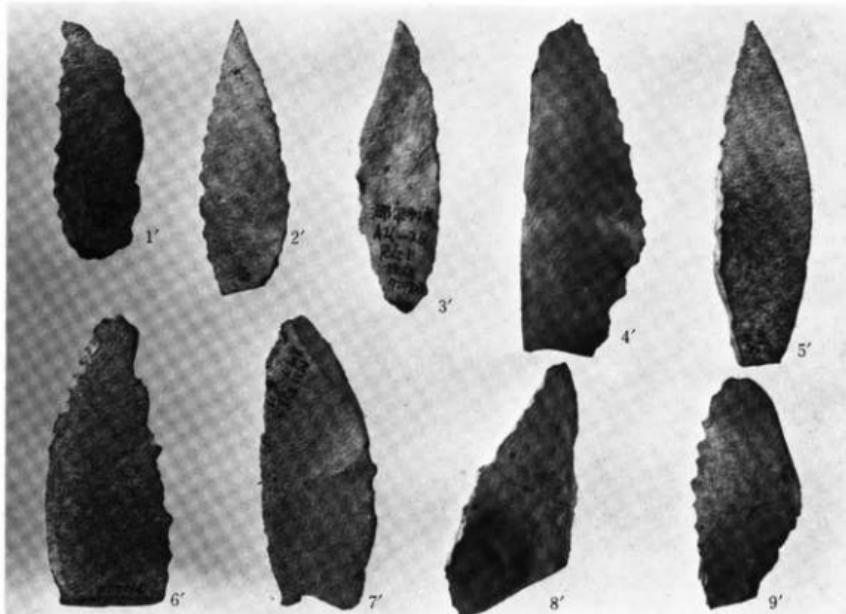


b. 遺物出土状況（A地点）

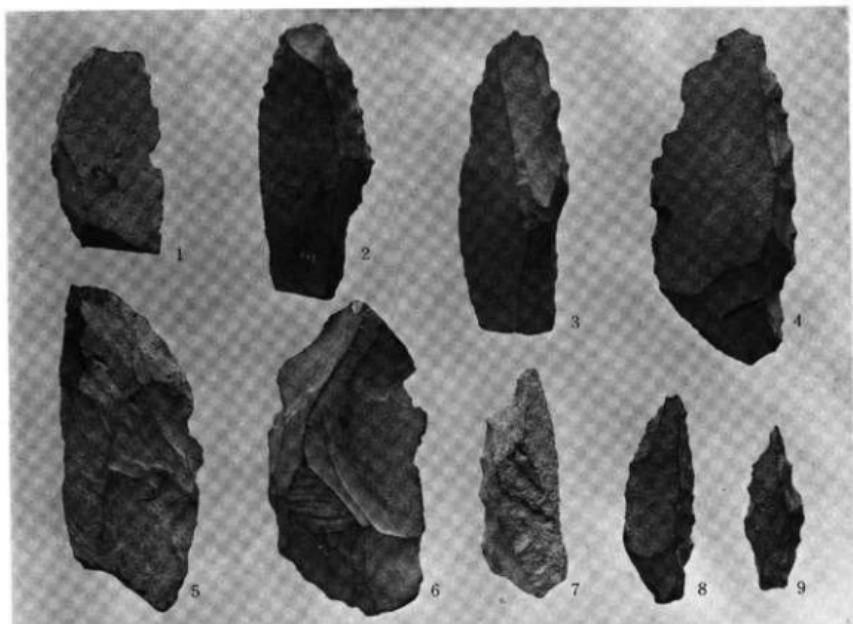


a. ナイフ形石器 (A面)

約3/4

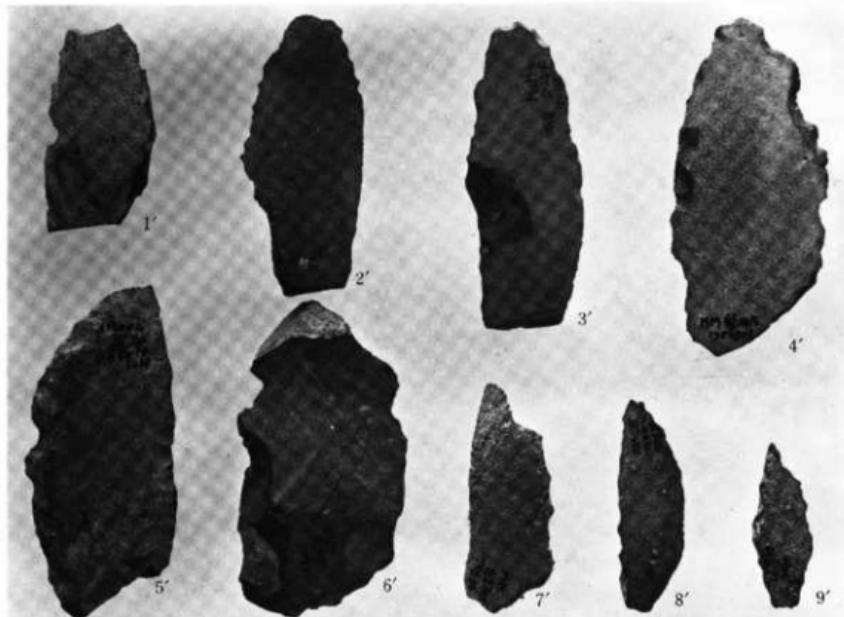


b. 同上 (B面)

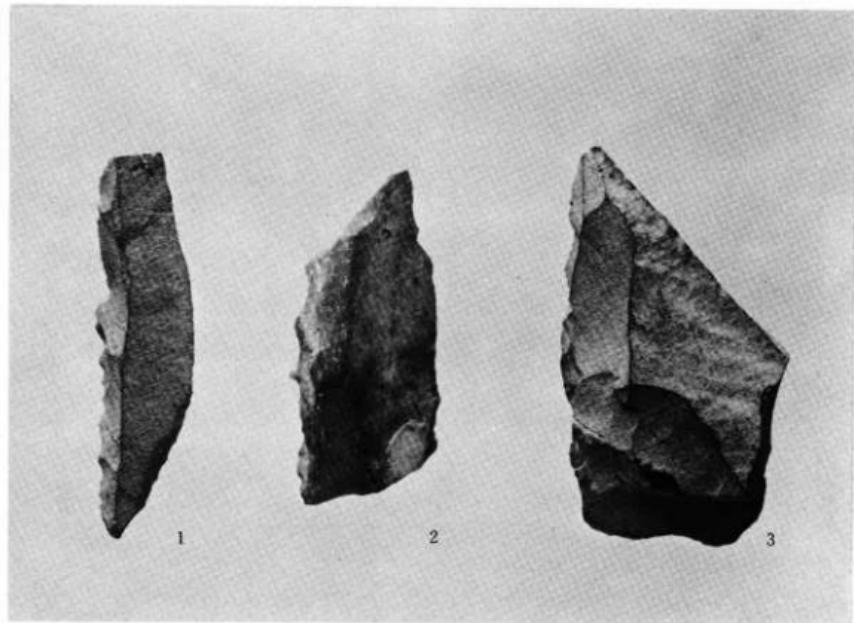


a. ナイフ形石器・削器・搔器 (A面)

約1/4

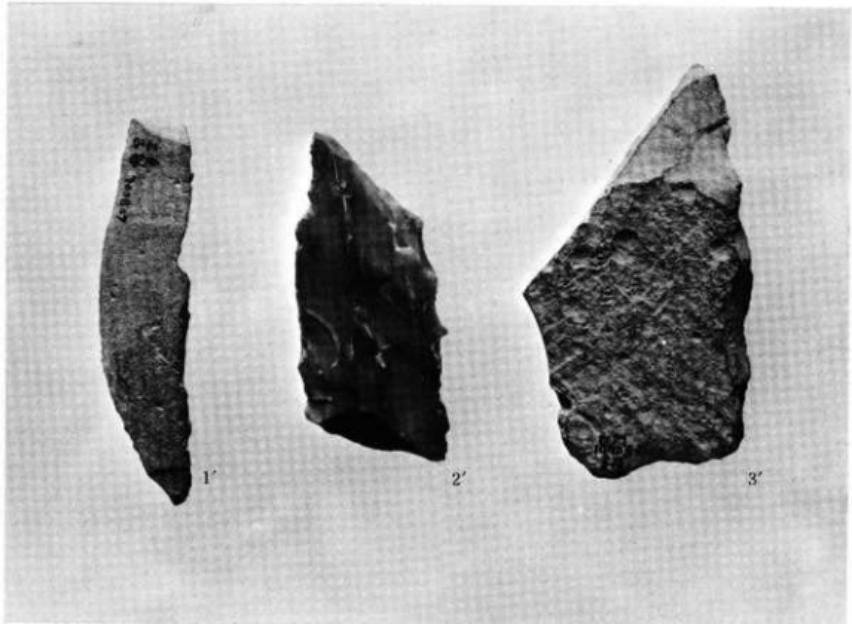


b. 同上 (B面)

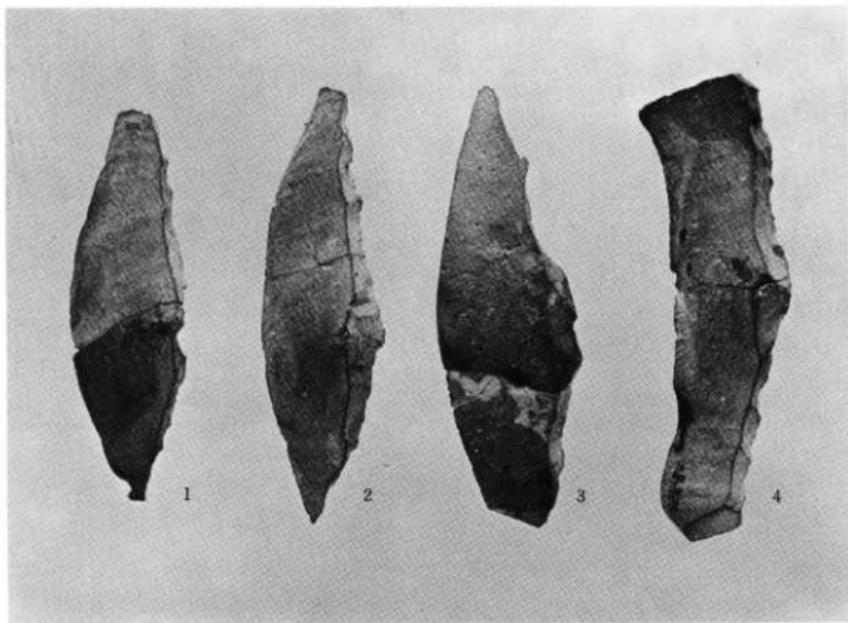


a. ナイフ形石器・石錐・彫器 (A面)

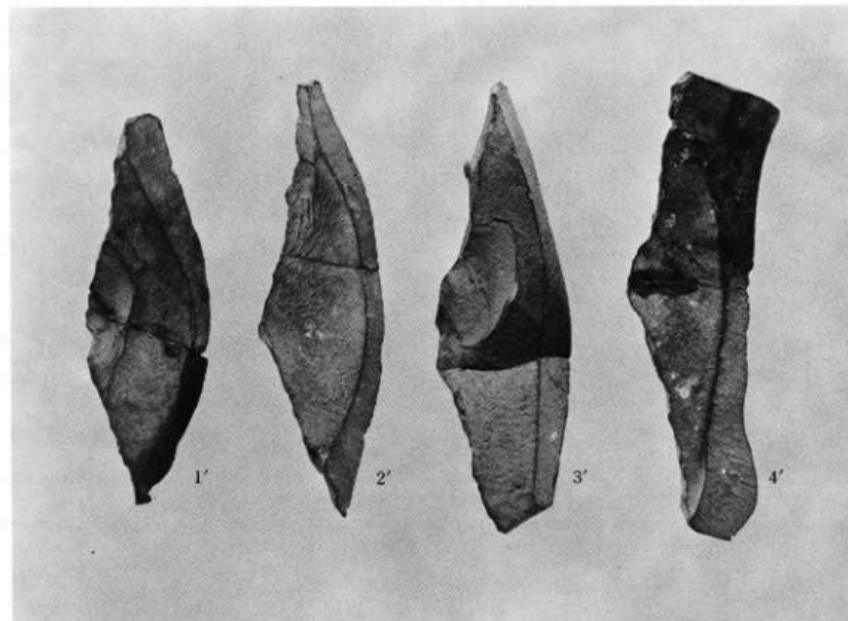
約3%



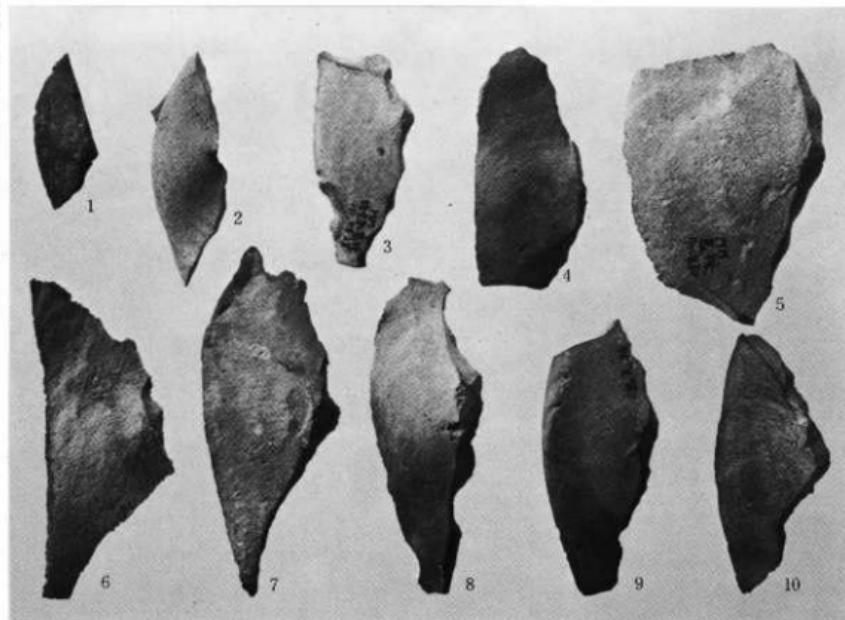
b. 同上 (B面)



a. 翼状剥片 (A面)

約
分

b. 同上 (B面)

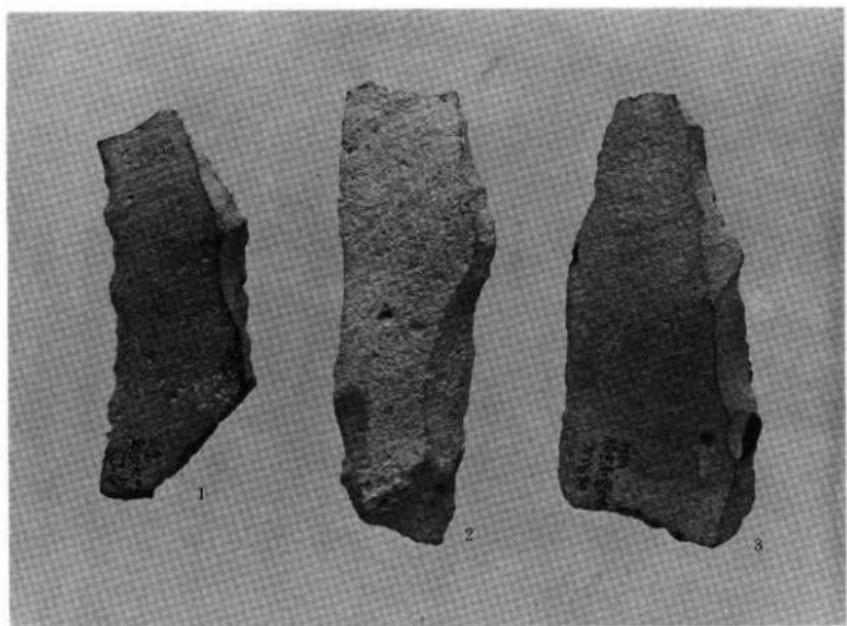


a. 翼状剥片 (A面)

約3%

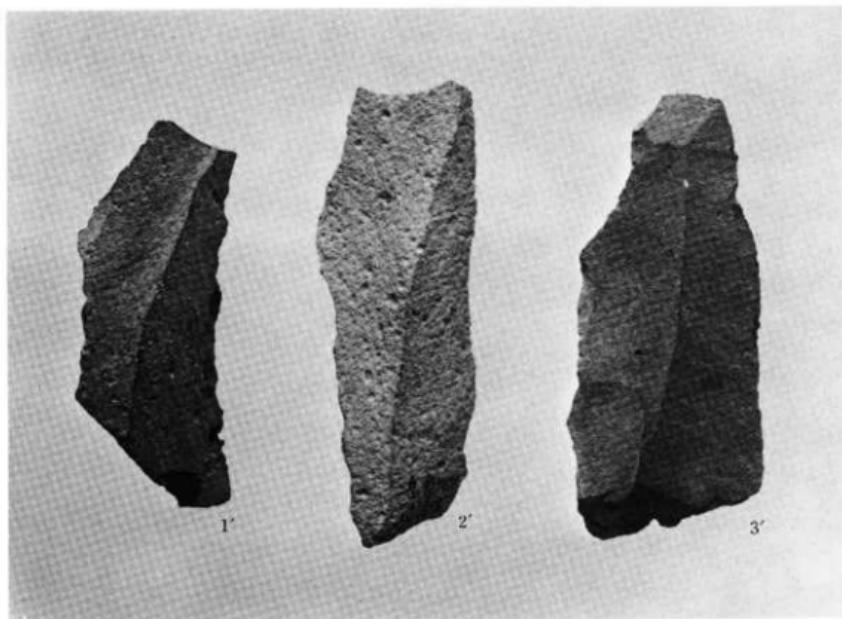


b. 向上 (B面)

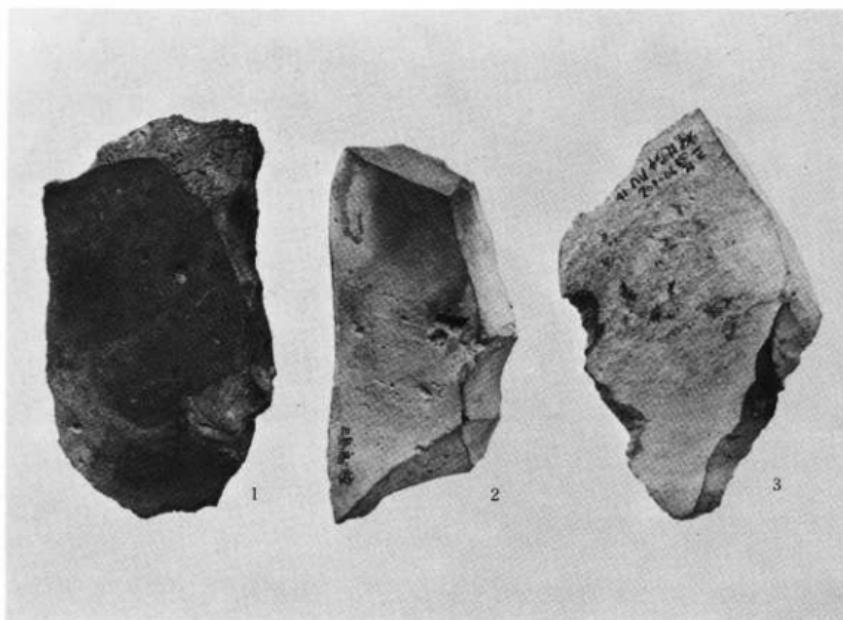


a. 翼状剥片 (A面)

約1/4

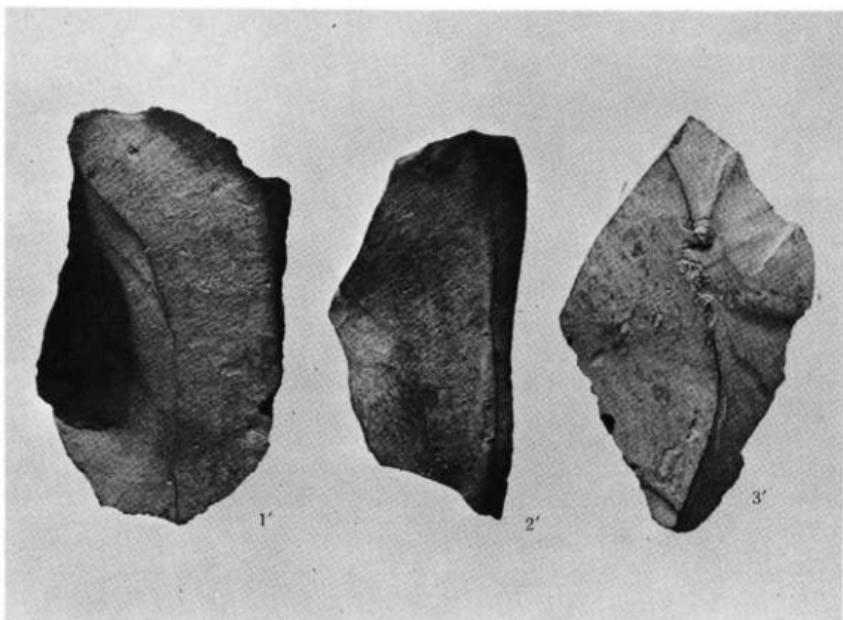


b. 同上 (B面)

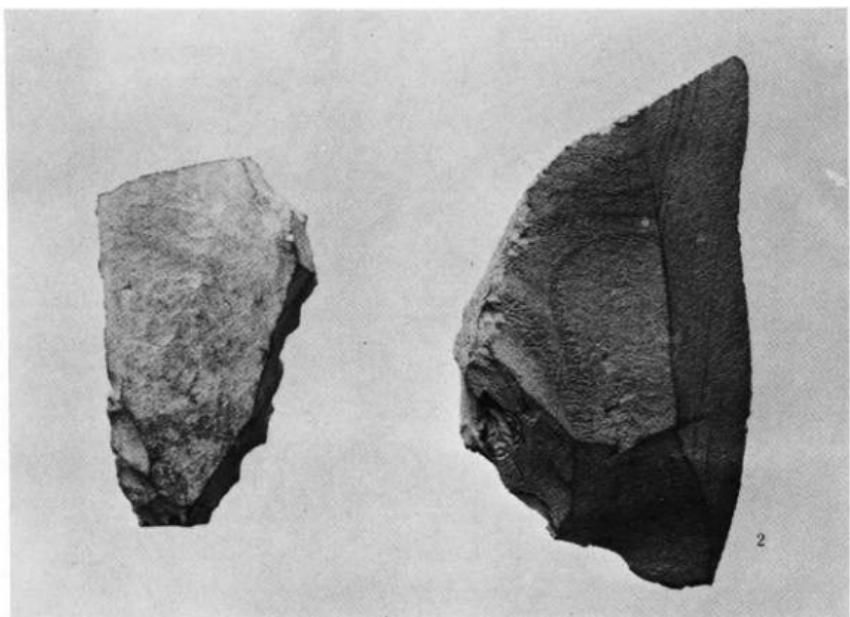


a. 翼状剥片 (A面)

約1/4

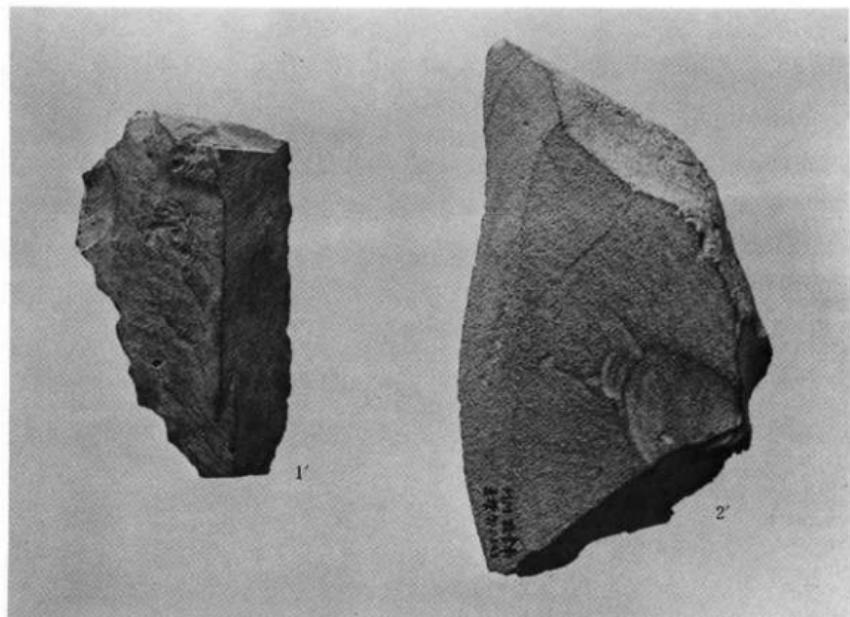


b. 同上 (B面)

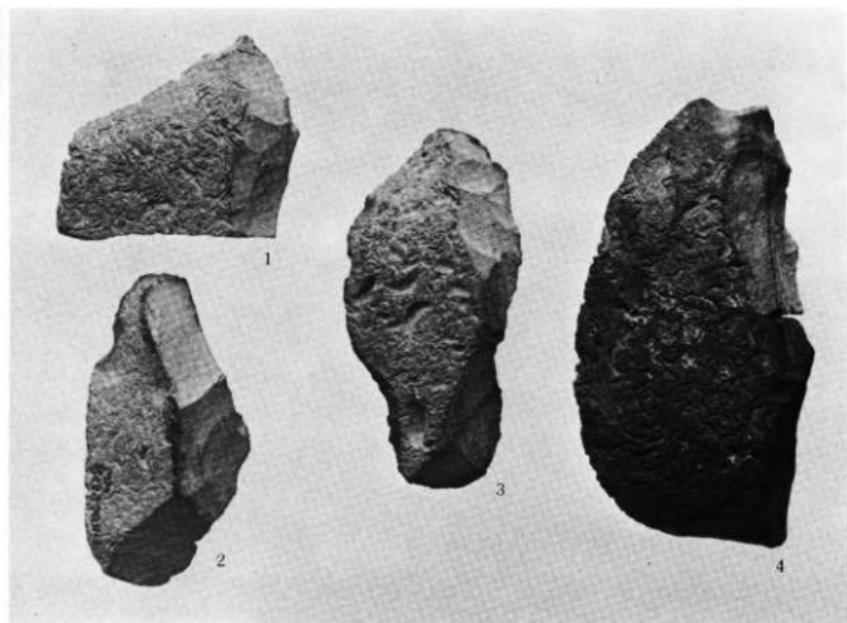


a. 貝狀剝片 (A面)

約X

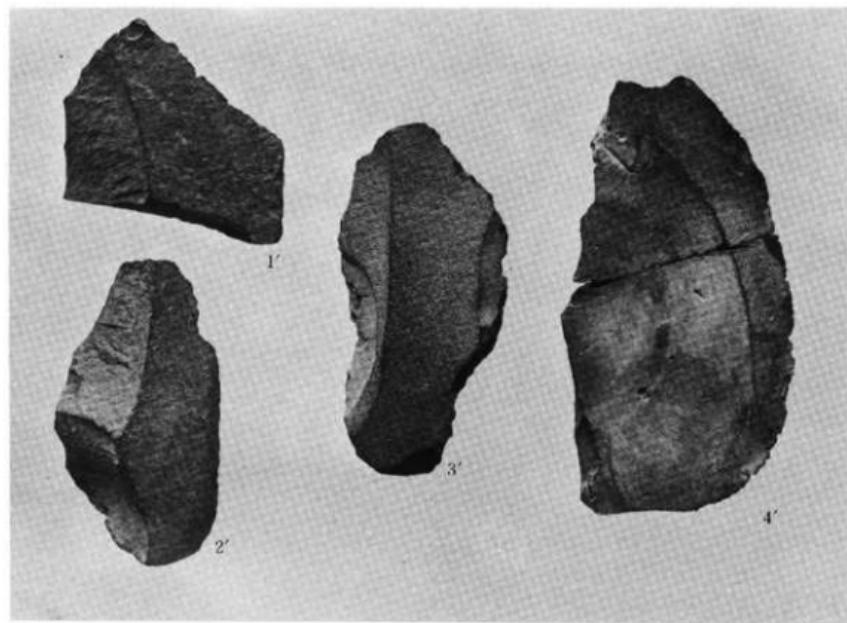


b. 同上 (B面)

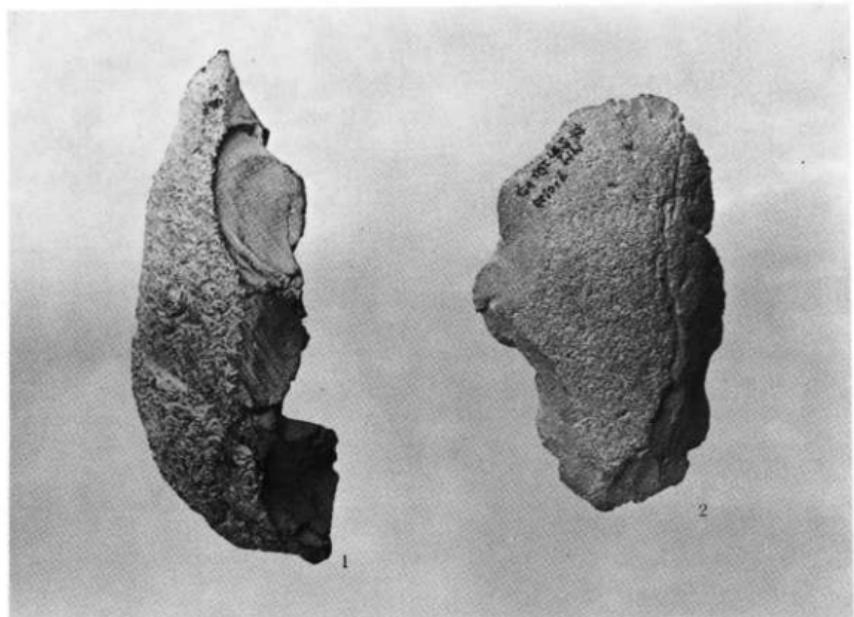


a. 腋状剥片石核 (A面)

約1/4

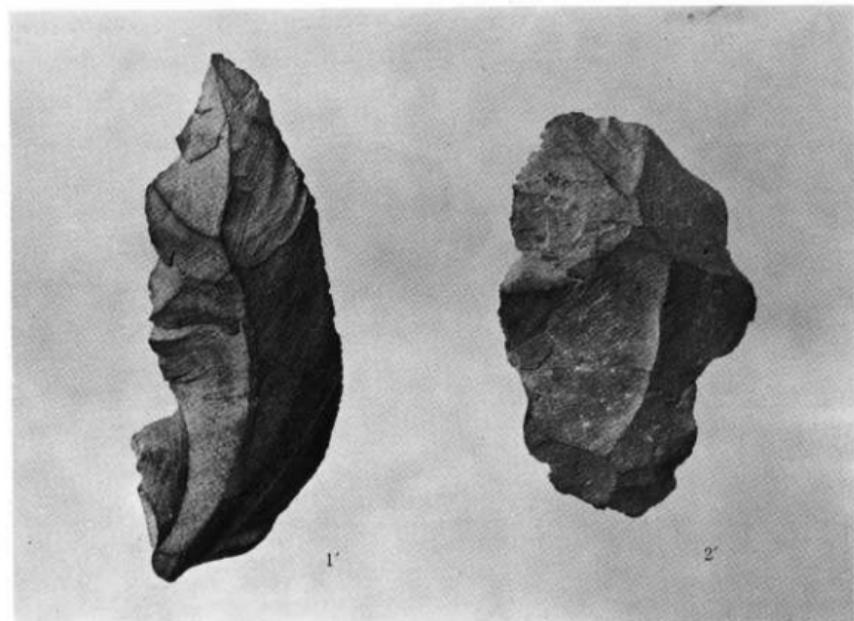


b. 同上 (B面)

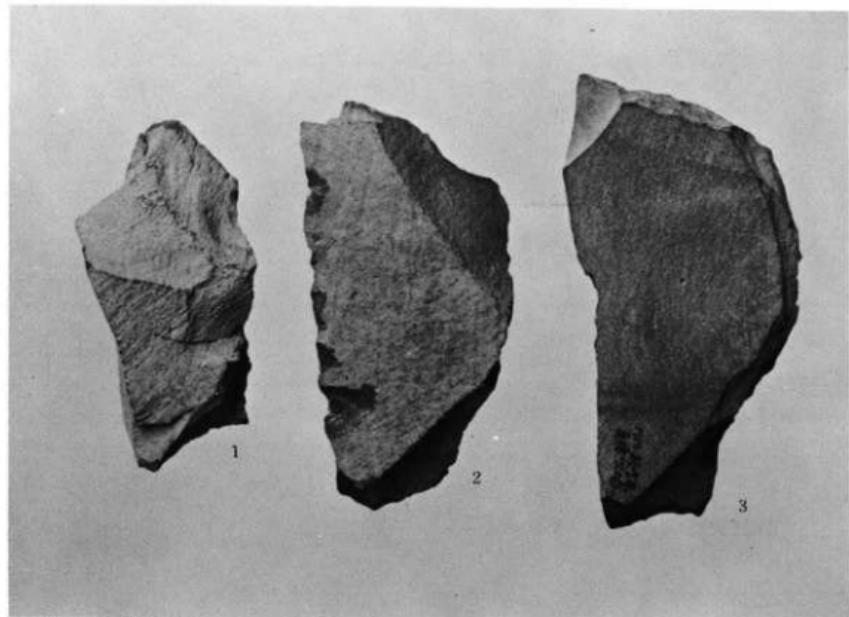


a. 翼状剥片石核 (A面)

約3%

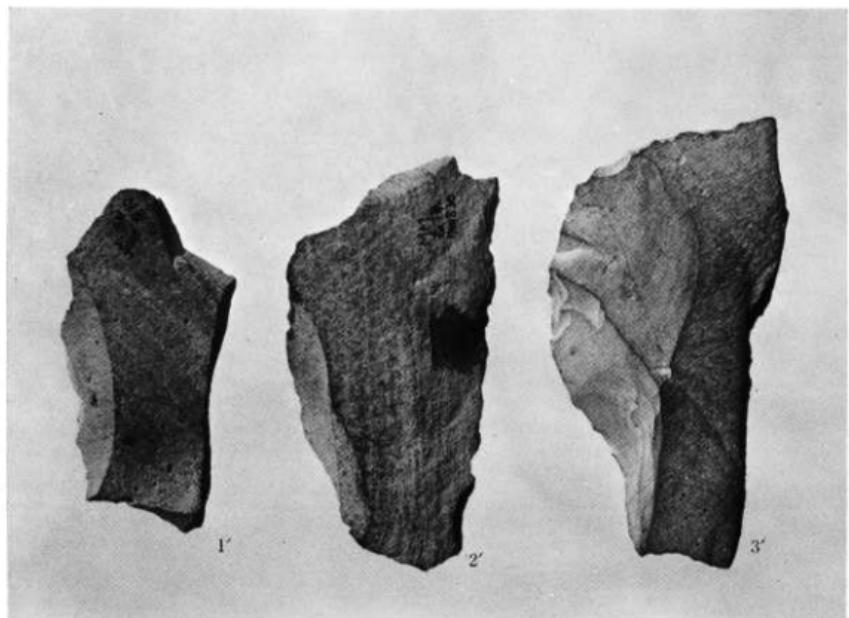


b. 同上 (B面)

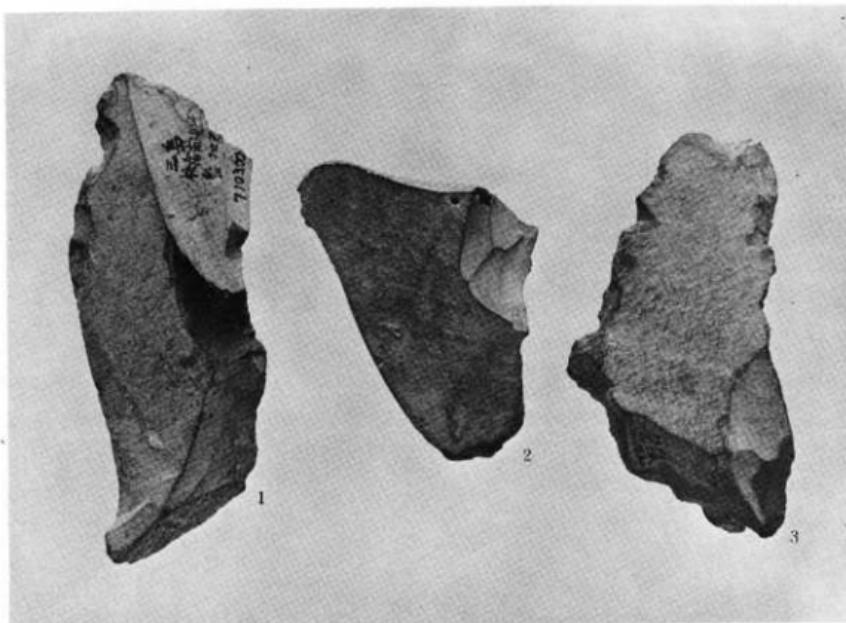


a. 貝狀剥片石核 (A面)

約1/4



b. 同上 (B面)

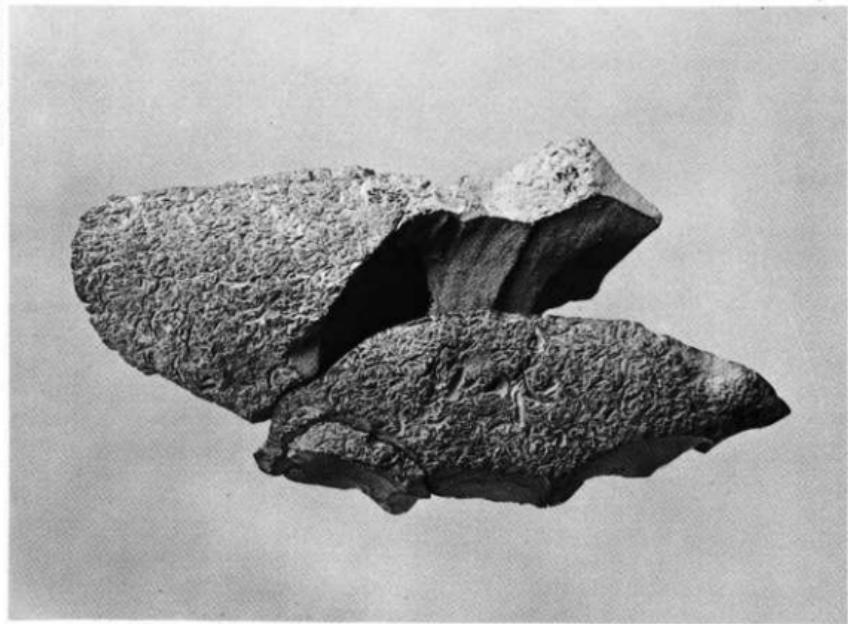


a. 翼状剥片石核 (A面)

約1

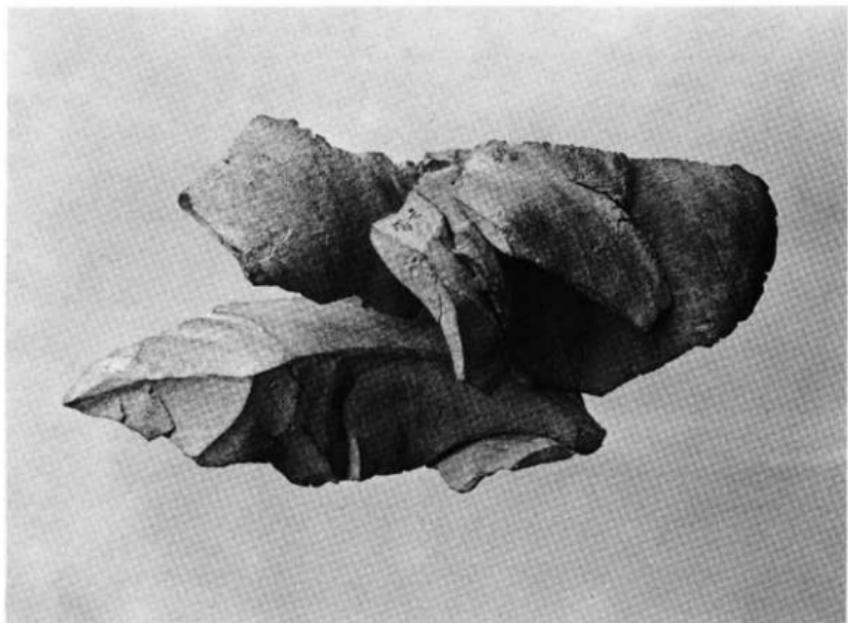


b. 同上 (B面)

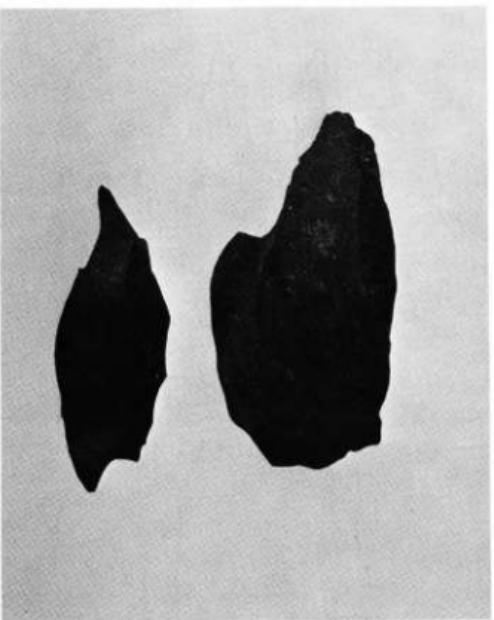


a. 接合資料(A面)

約 1/4



b. 同上 (B面)



a. 接合資料

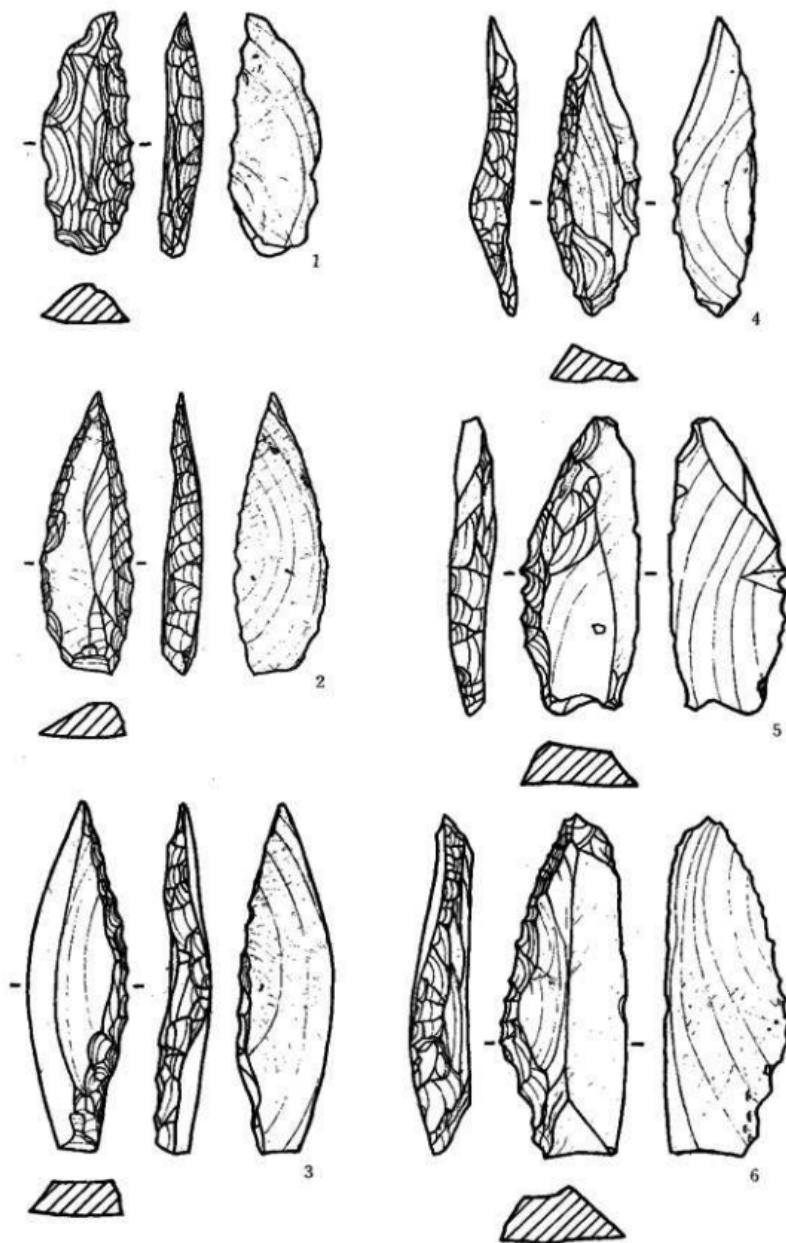
約1/4



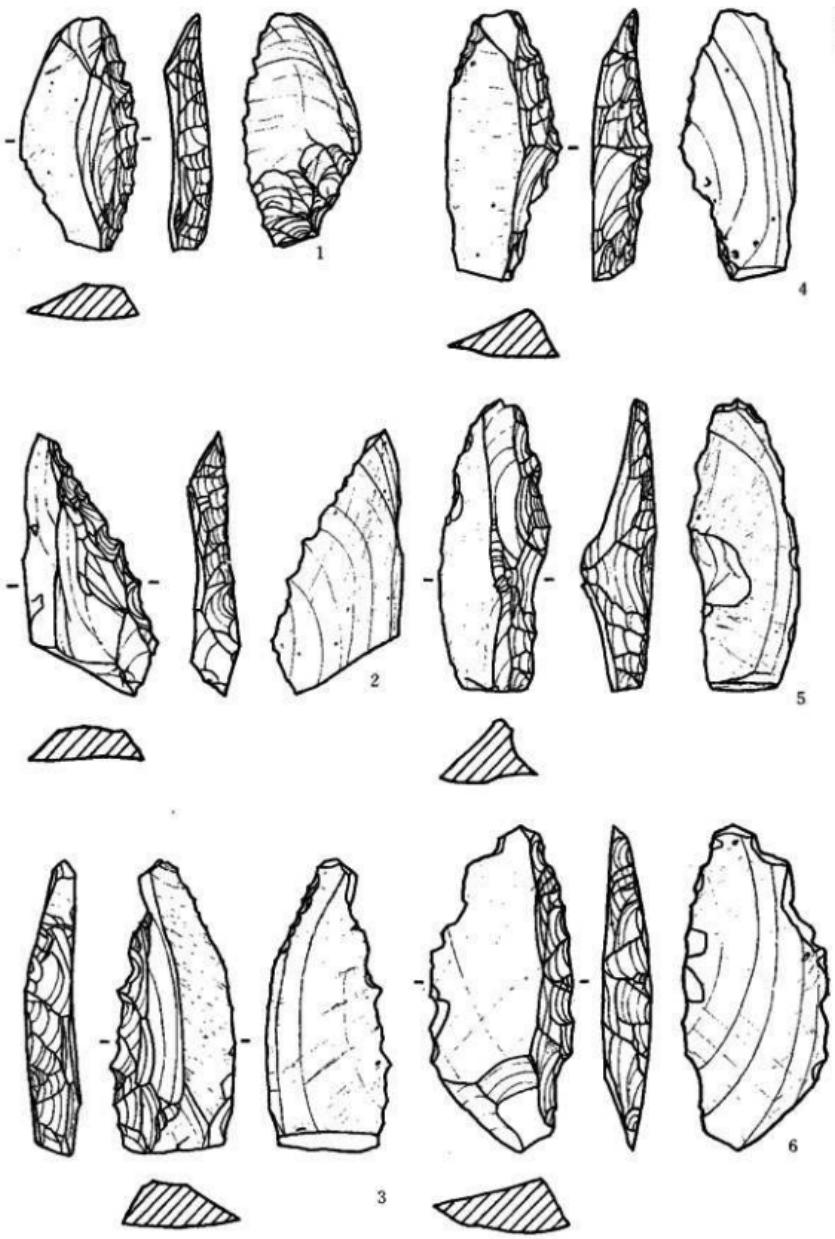
b. 接合資料

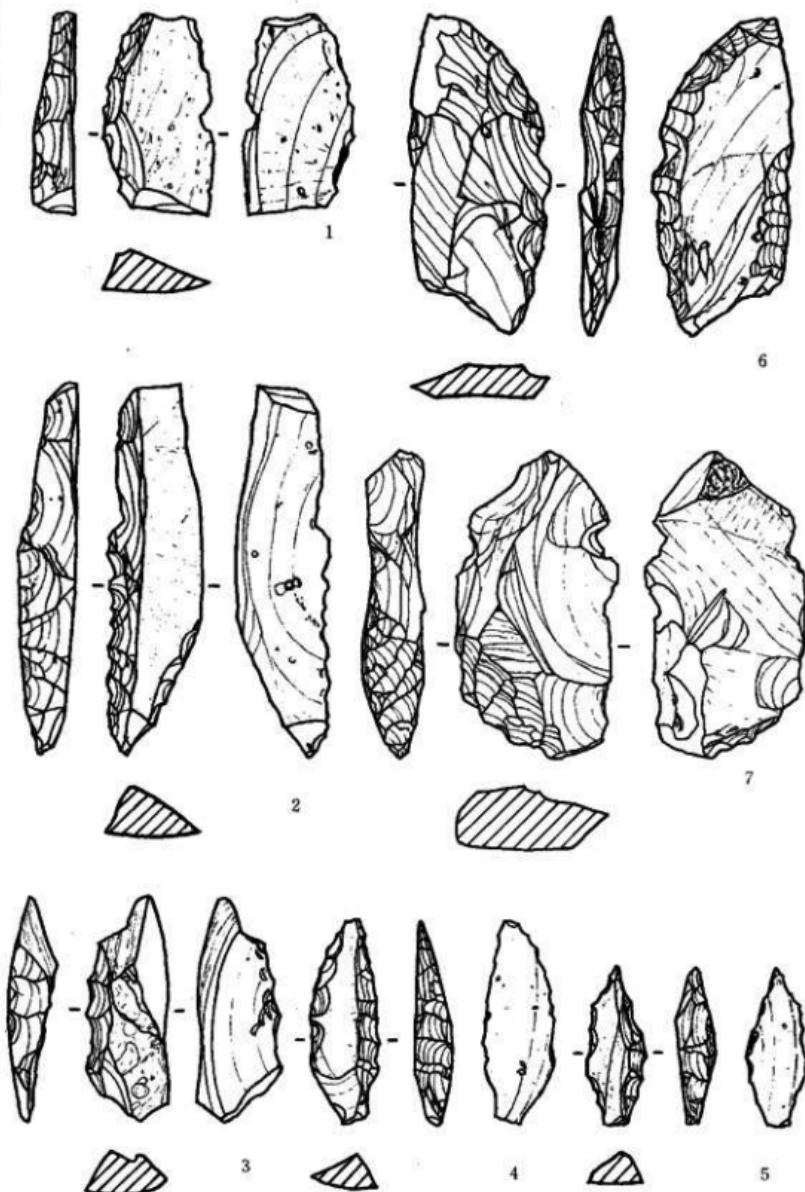
約1/4

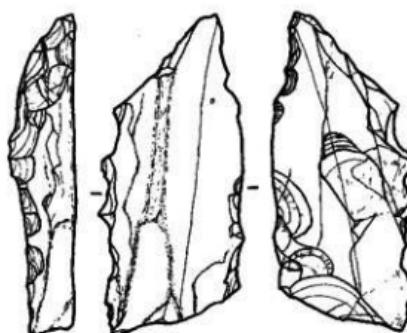




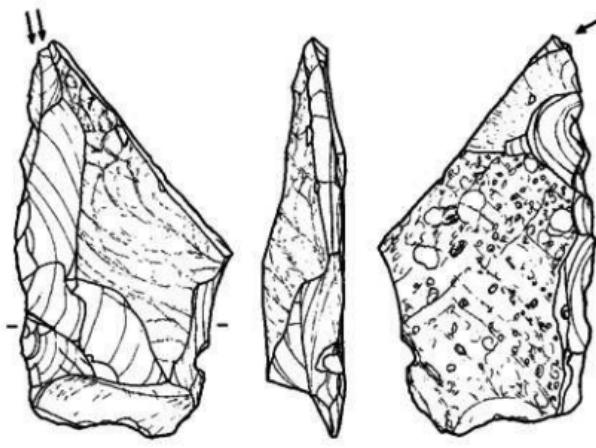
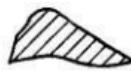
(実大)



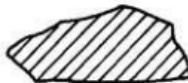




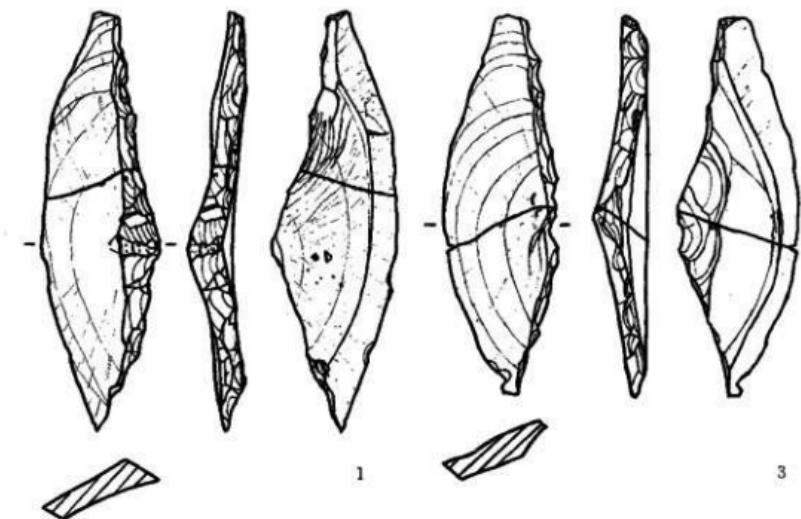
1



2

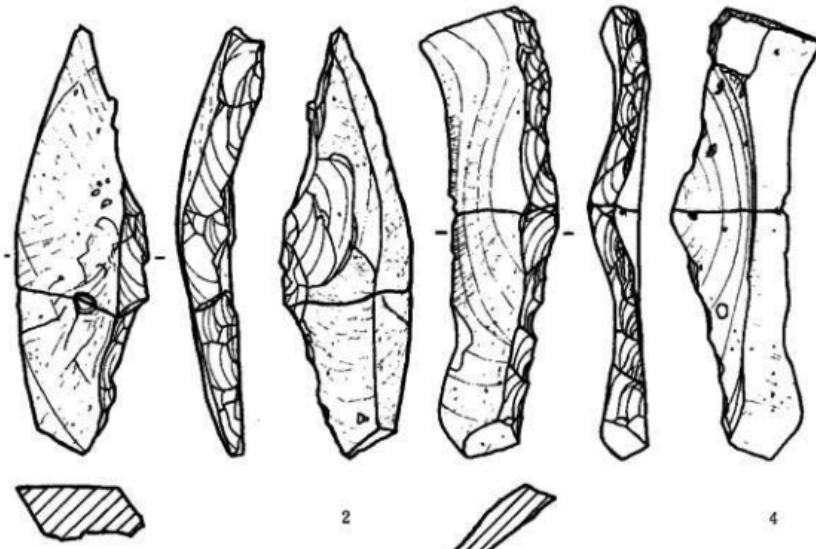


(実大)



1

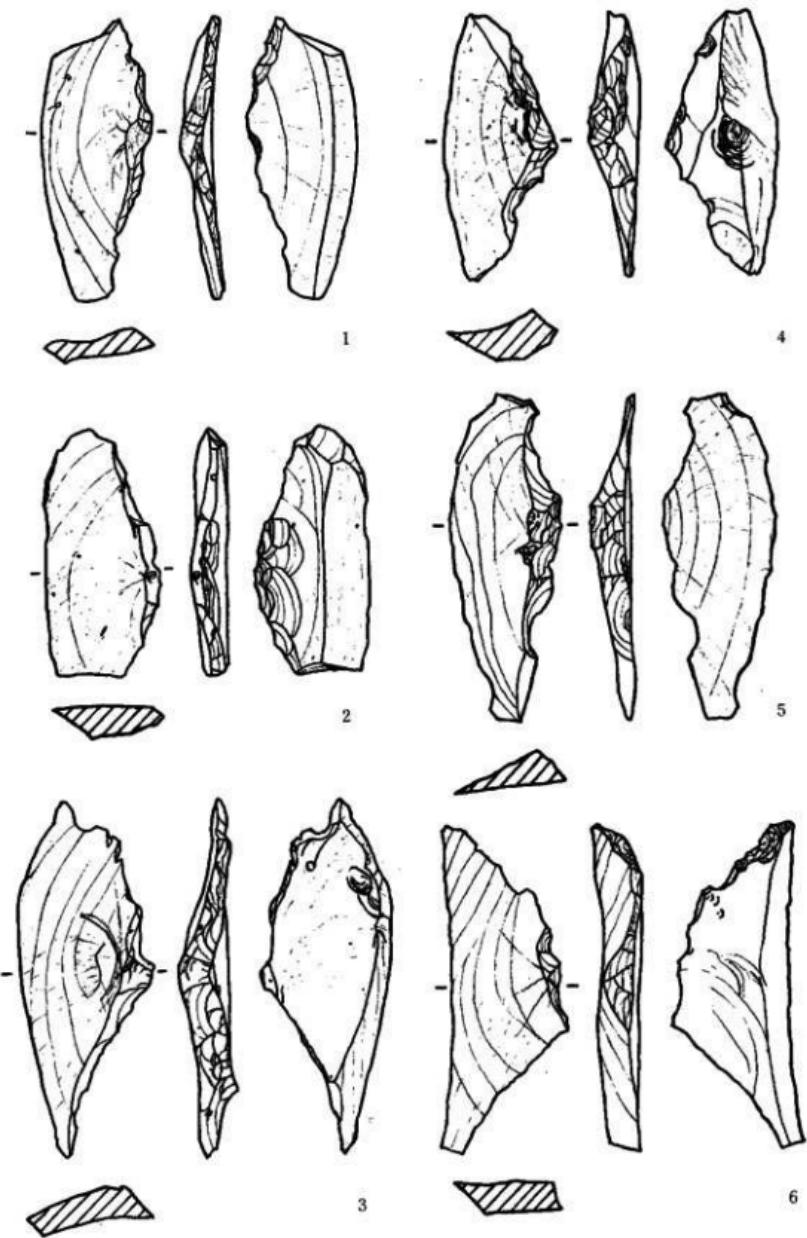
3



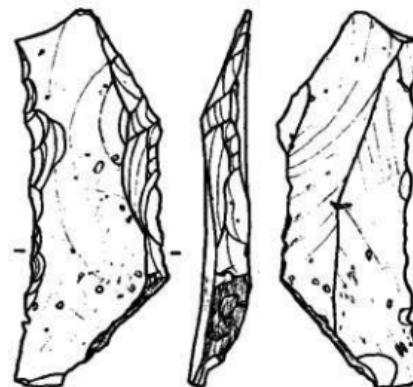
2

4

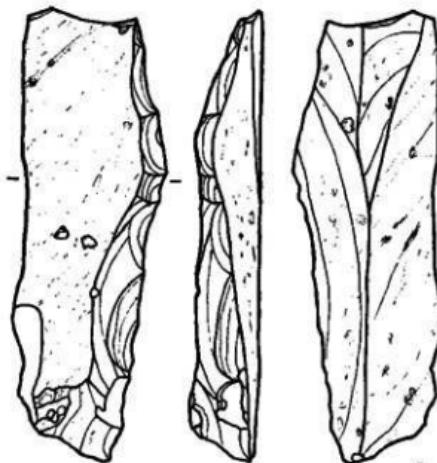
(實大)



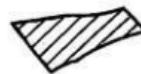
(实大)



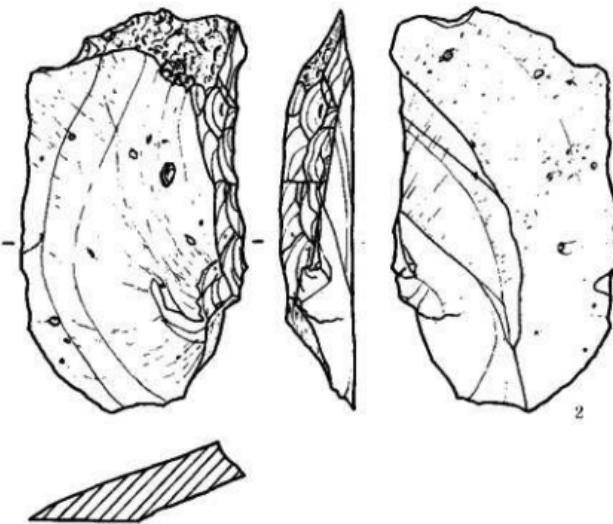
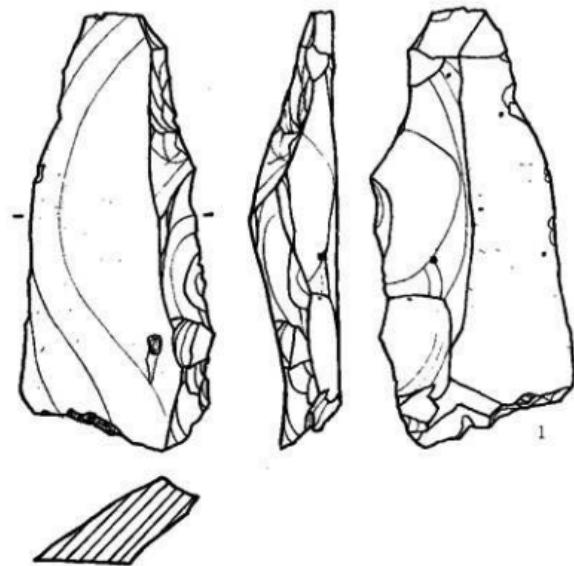
1



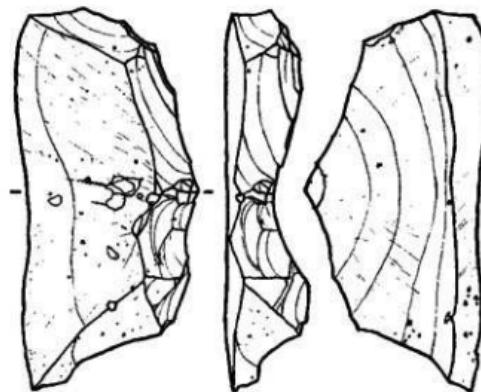
2



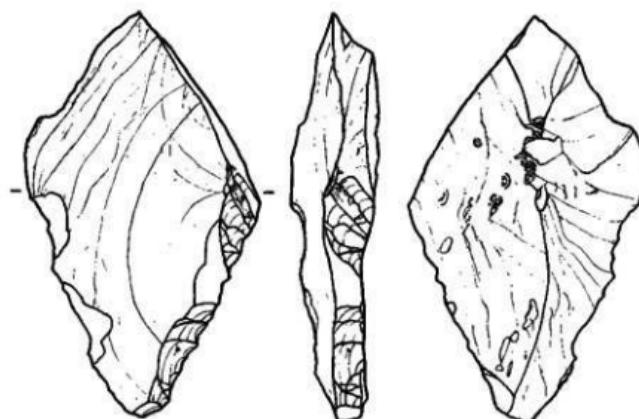
(放大)



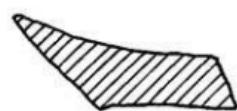
(実大)



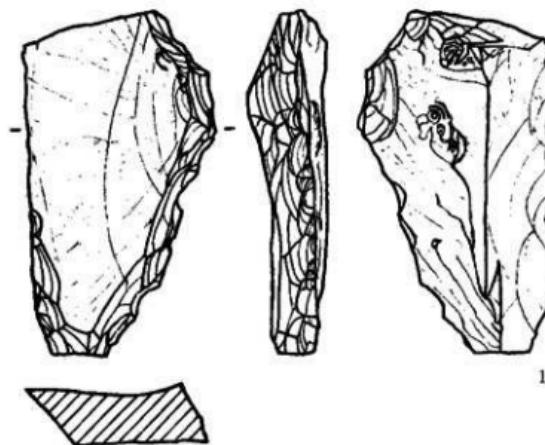
1



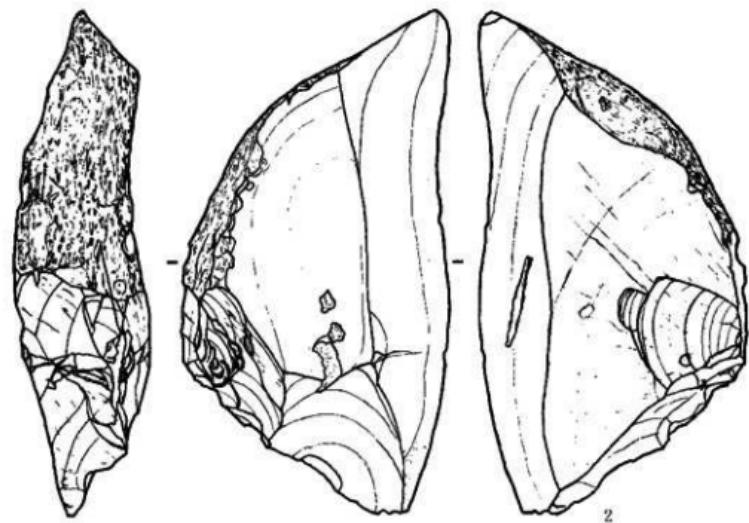
2



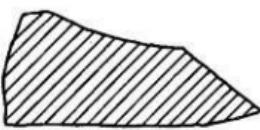
(実大)



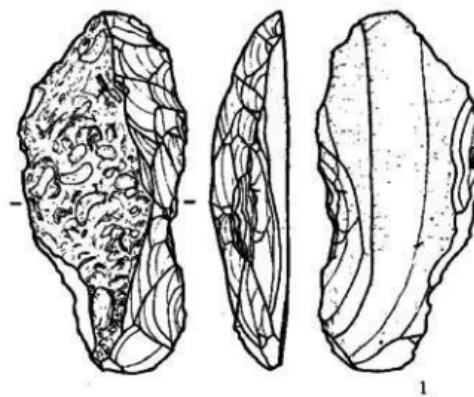
1



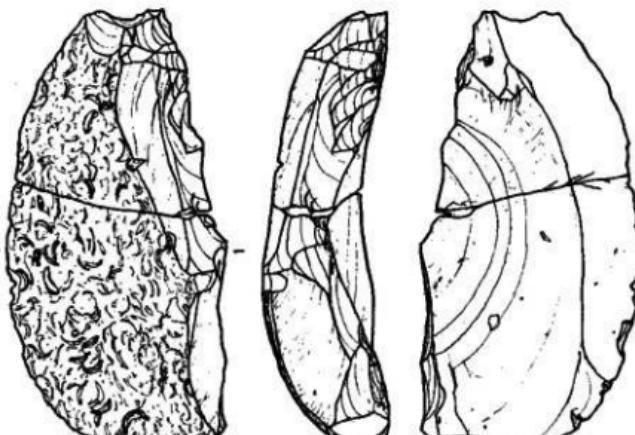
2



(実大)

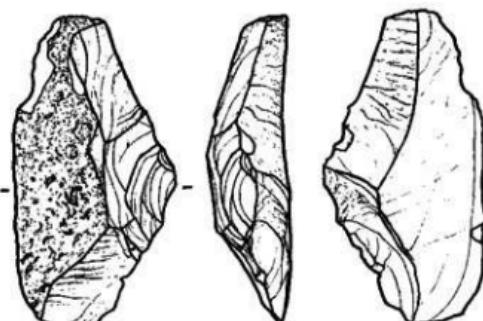


1

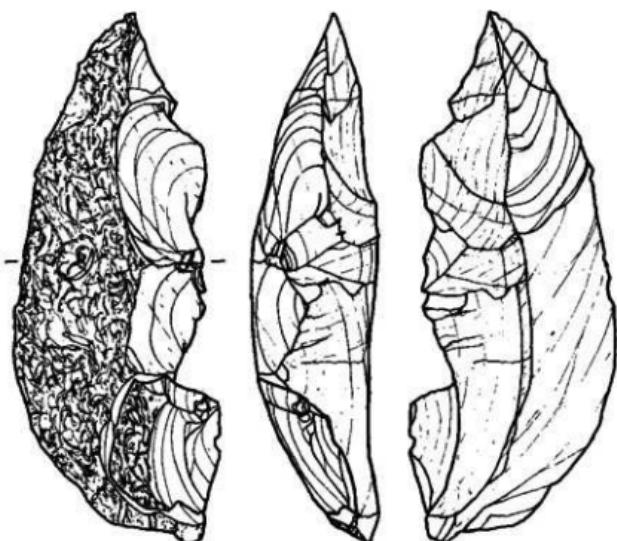
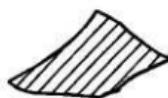


2

(実大)



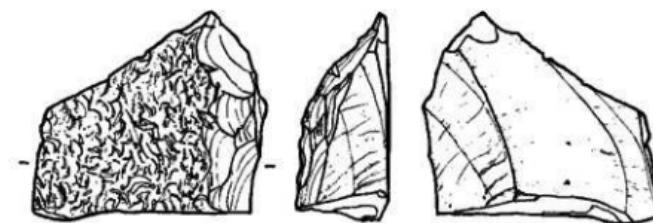
1



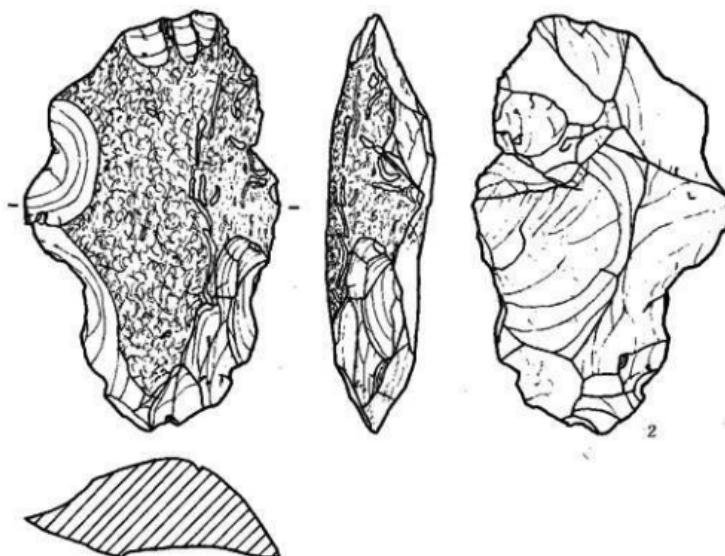
2



(実大)

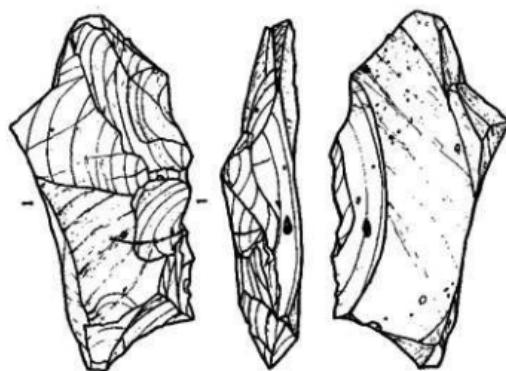


1

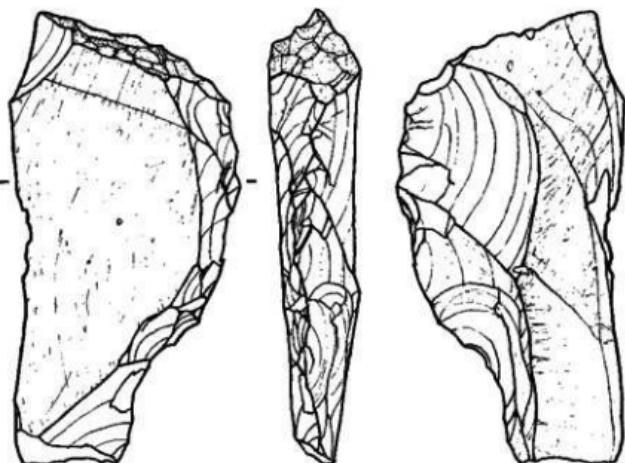
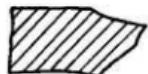


2

(実大)



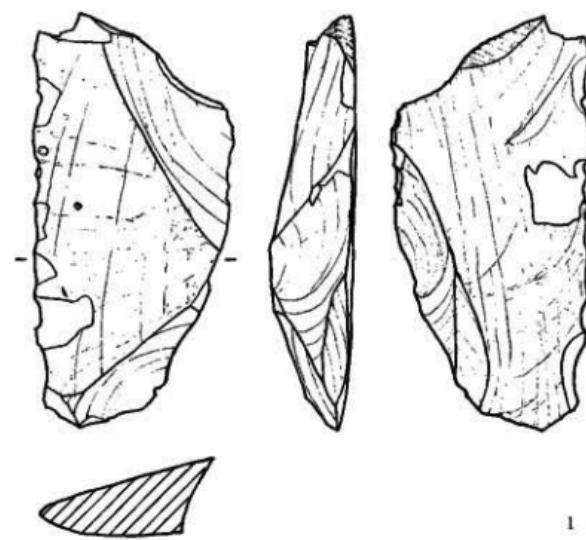
1



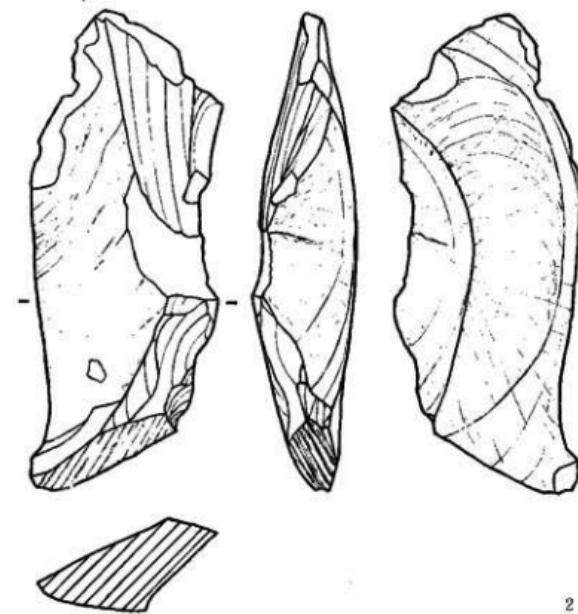
2



(实大)

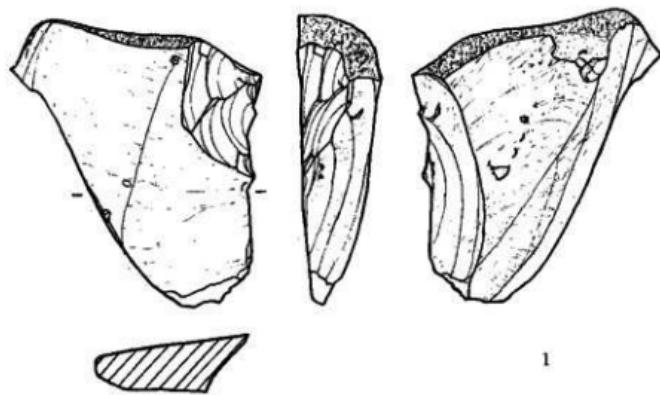


1

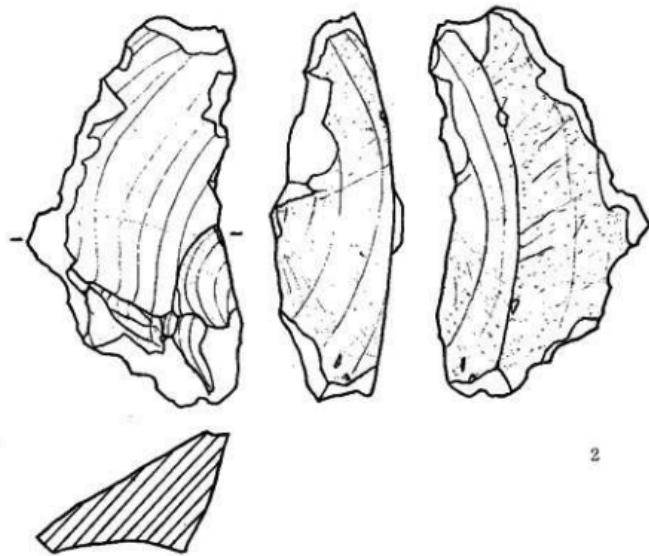


2

(实大)

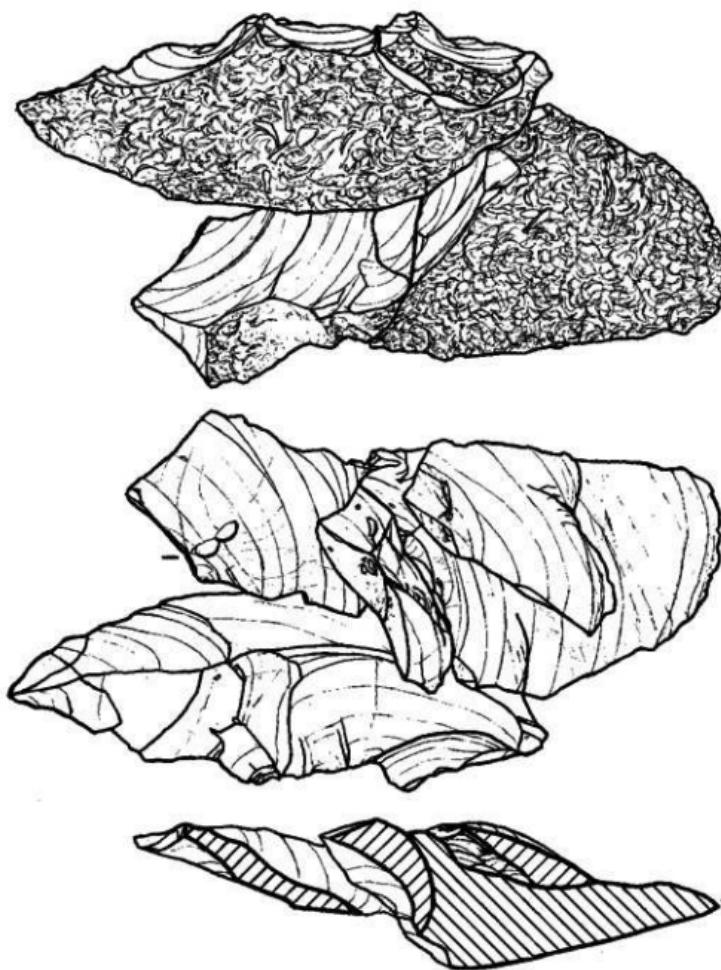


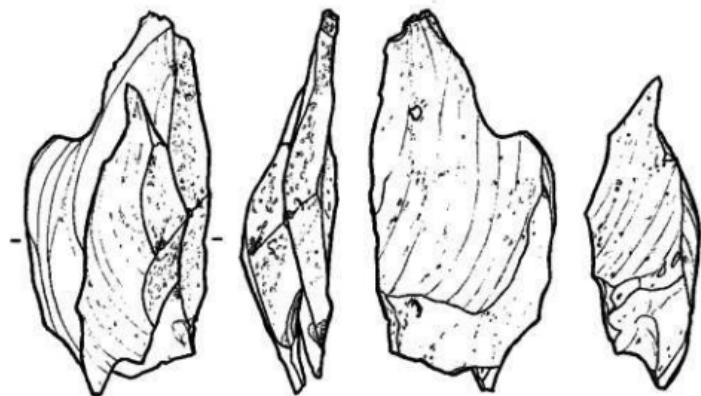
1



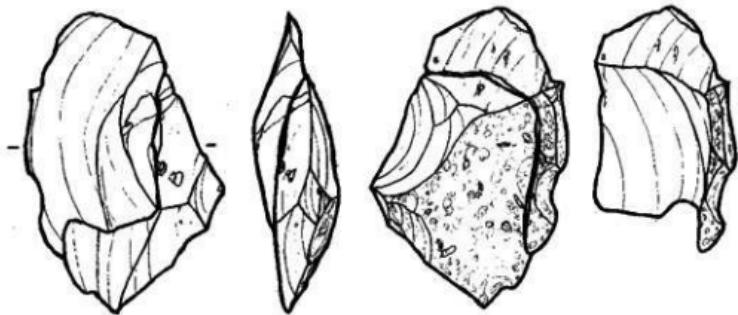
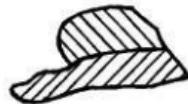
2

(実大)





1



2



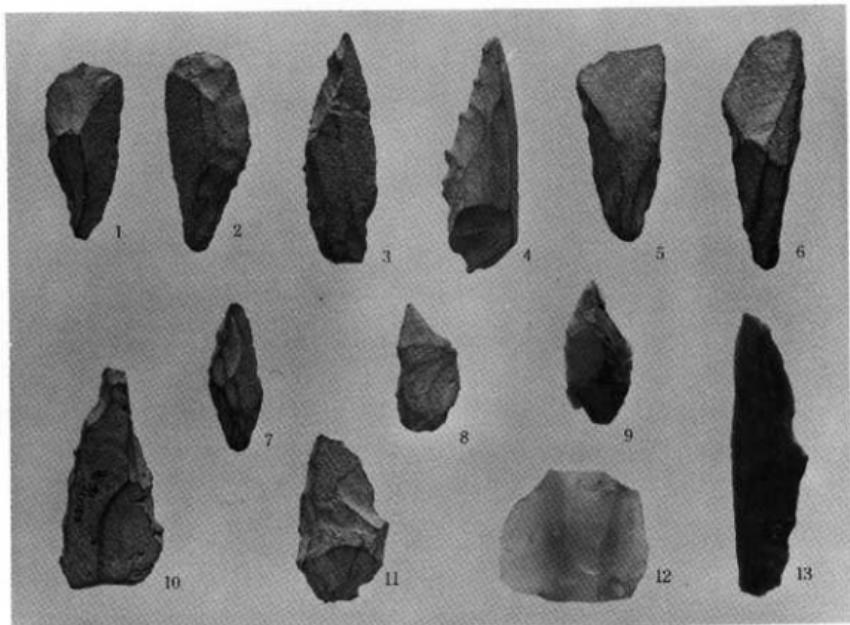
(実大)



a. 遺跡遠景

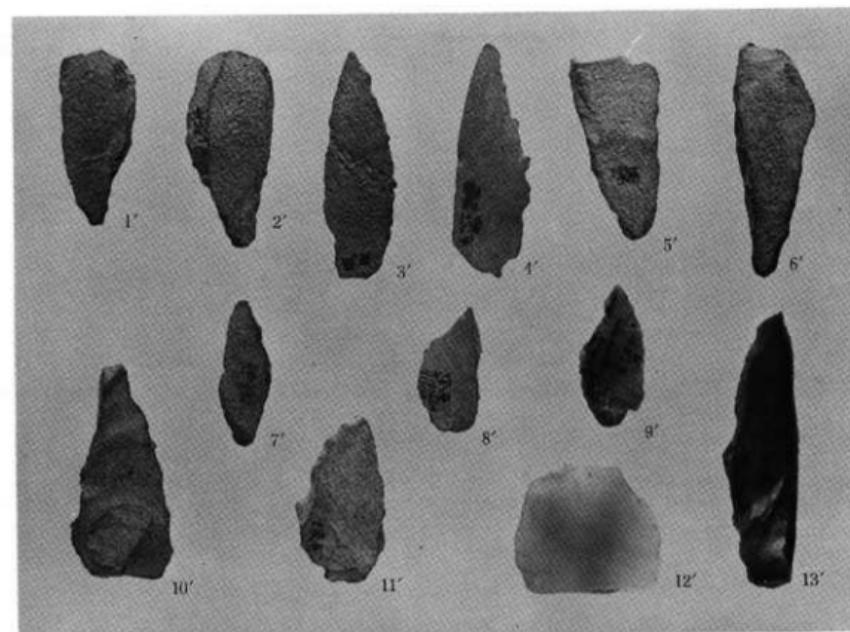


b. 遺物包含層

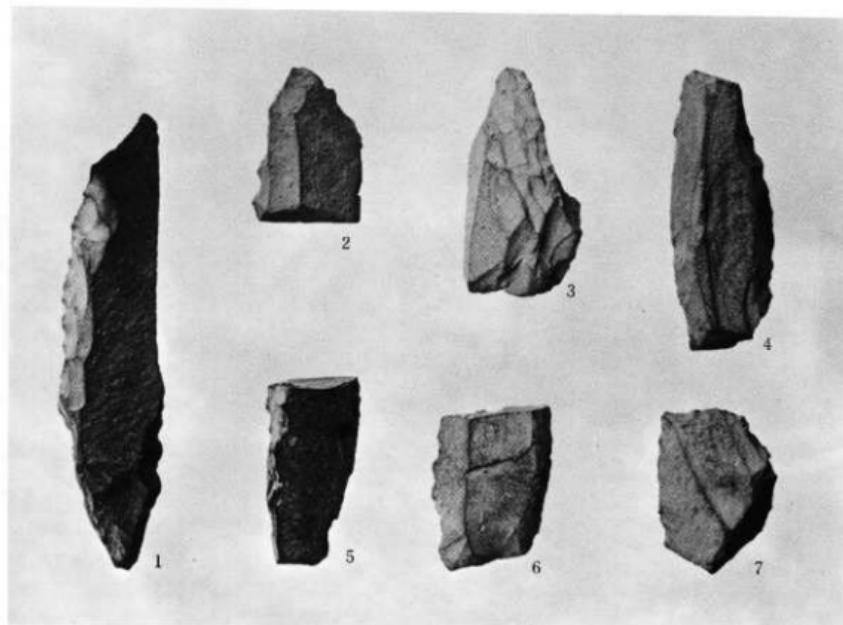


a.. ナイフ形石器 (1~9, 11, 13), 彫器 (10), 片 (12) (A面)

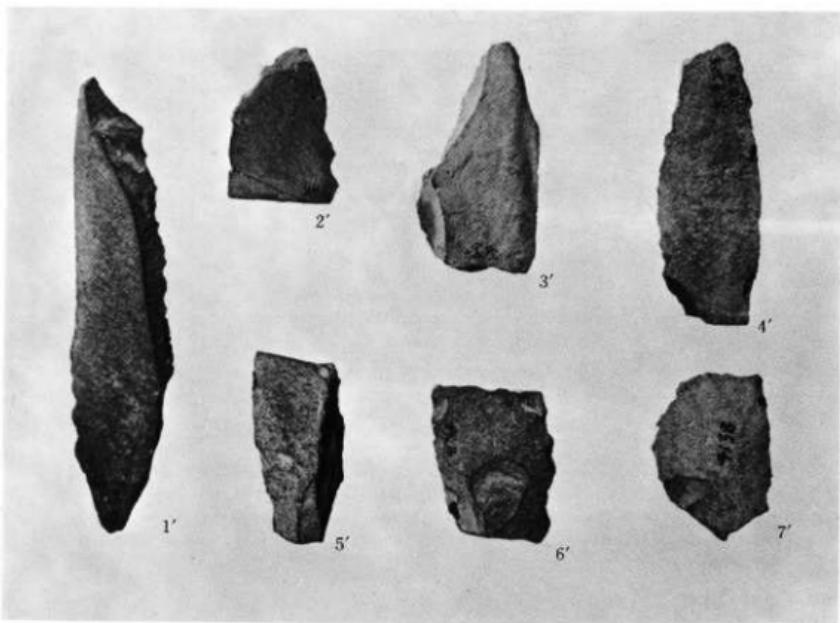
約1/4



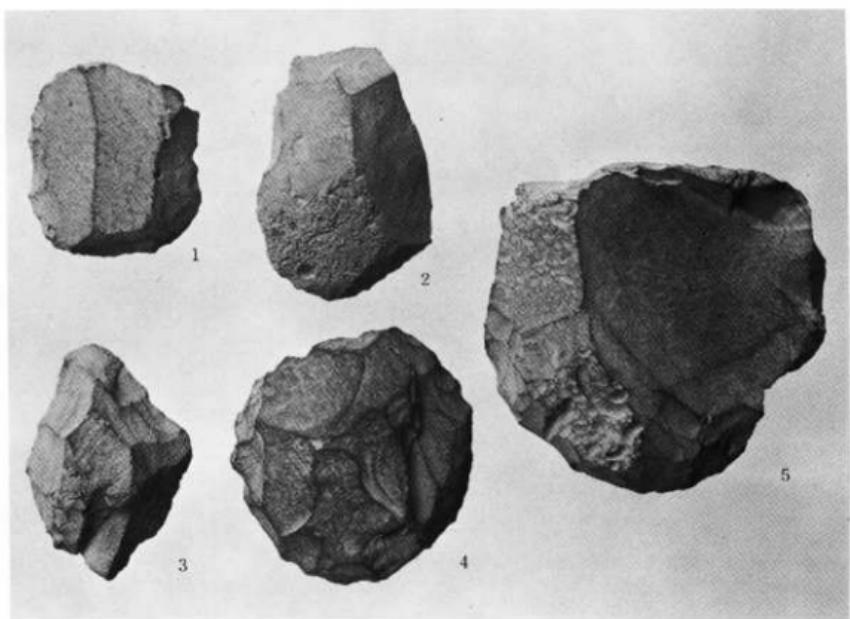
b. 同上 (B面)



a. ナイフ形石器 (A面)

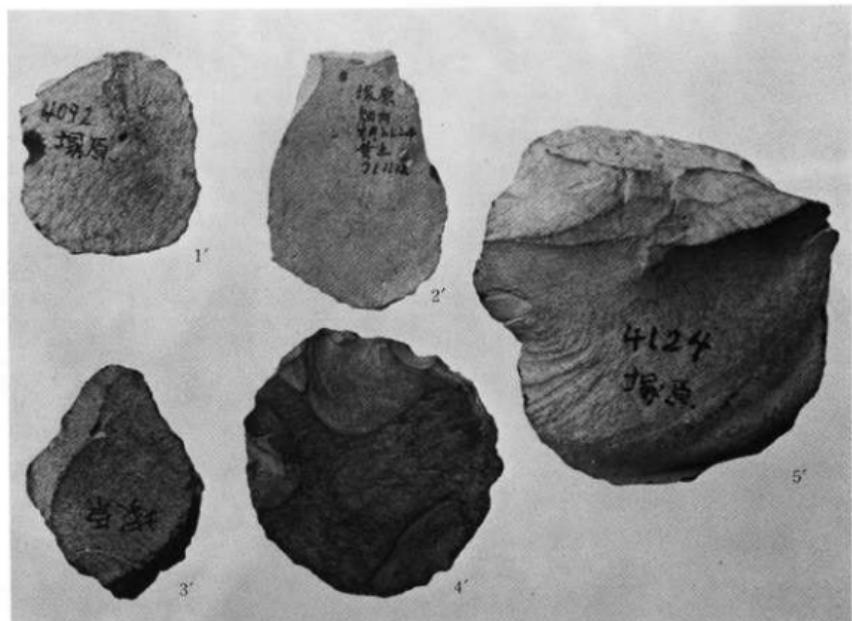
約 \times 

b. 同上 (B面)

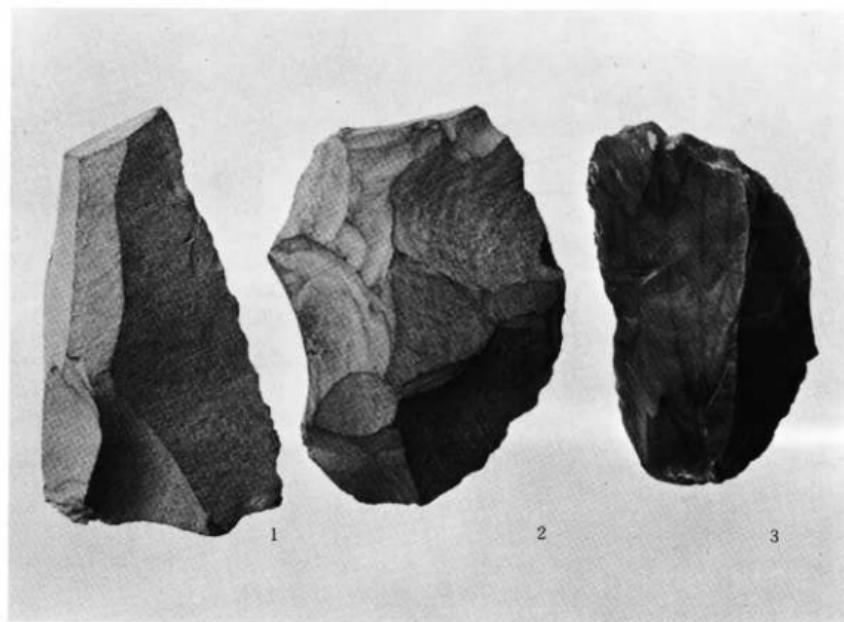


a. 搓器 (1, 2, 4, 5), 石核 (3) (A面)

約1/4

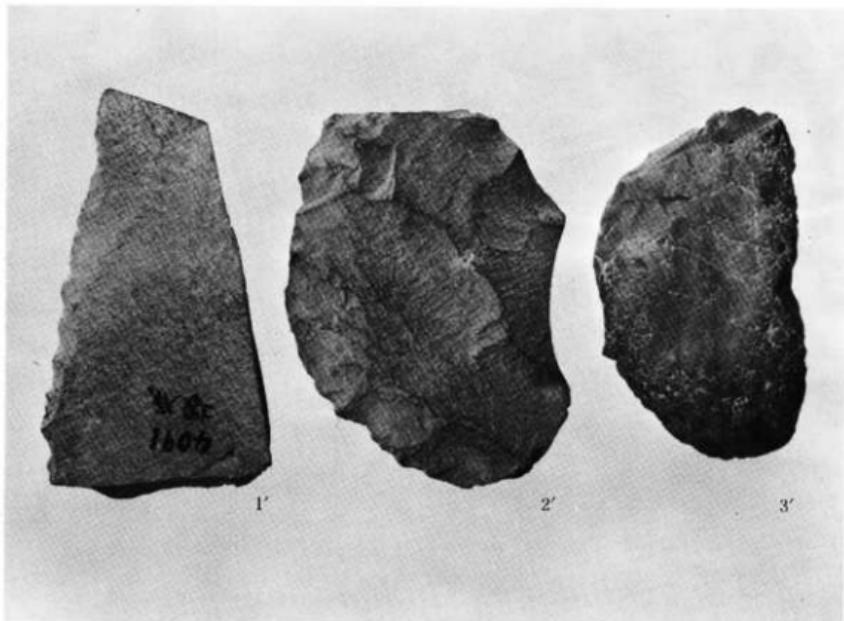


b. 同上 (B面)

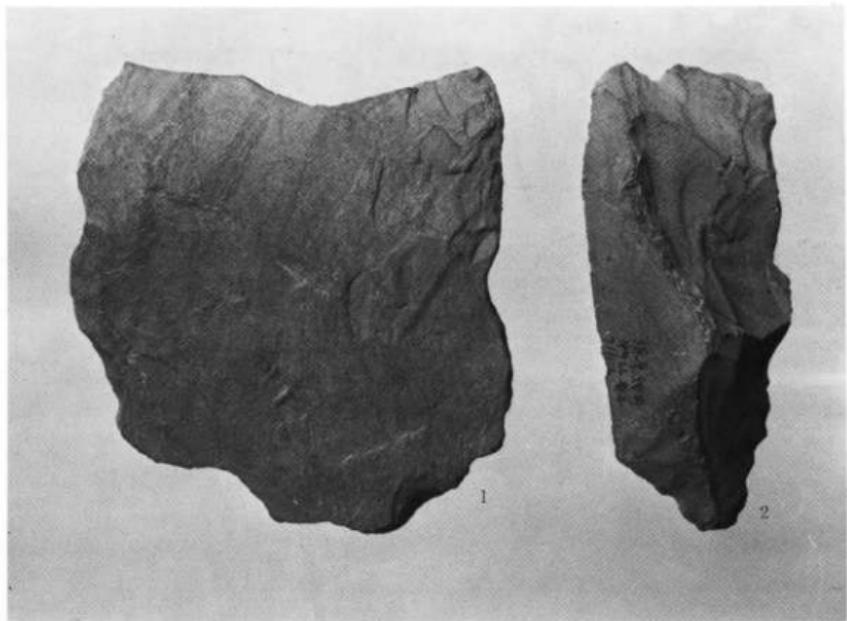


a. 削器 (1), 挖器 (2), 繩長剝片石核 (3) (A面)

約X

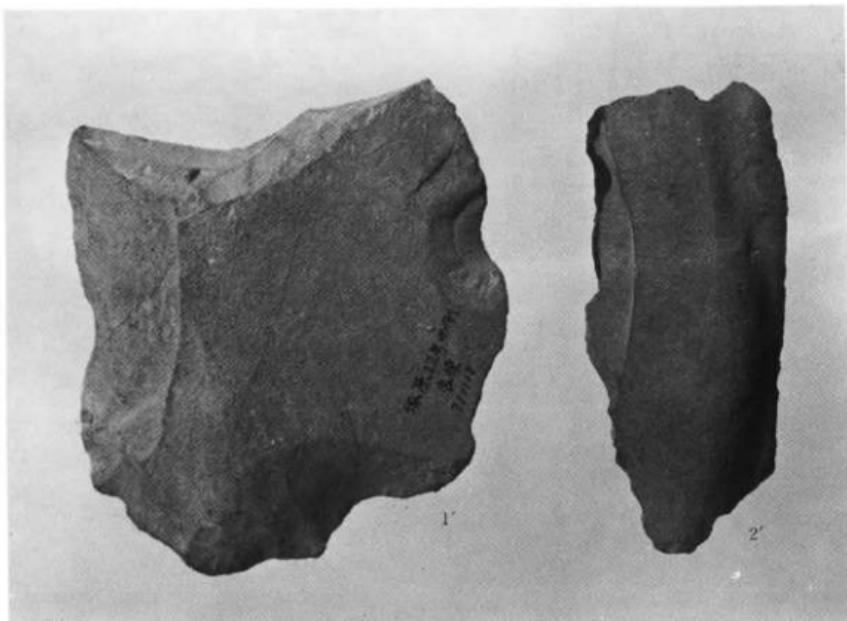


b. 同上 (B面)

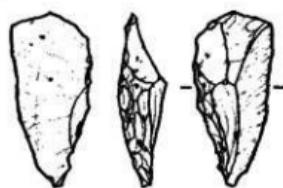


a. 翼状制片石核 (A面)

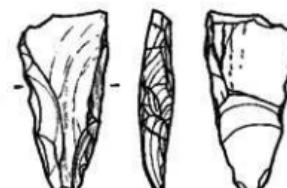
約光



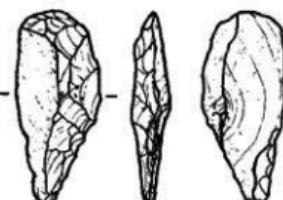
b. 同上 (B面)



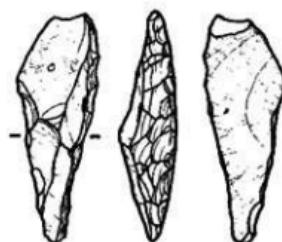
1



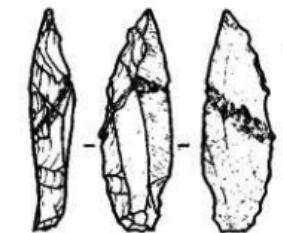
5



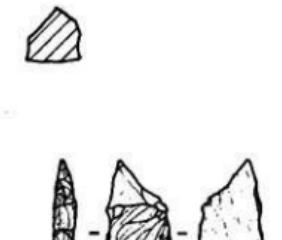
2



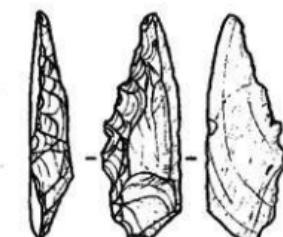
6



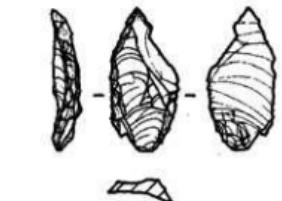
3



7

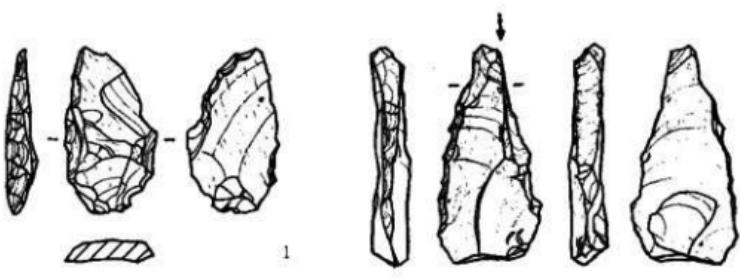


4



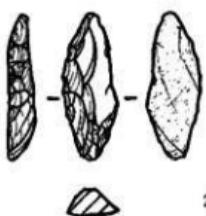
8

(実大)

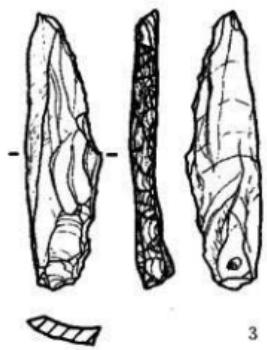


1

5



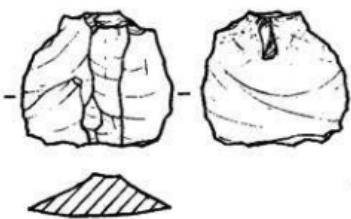
2



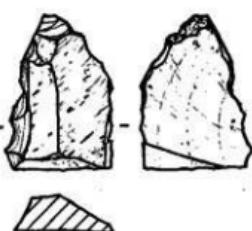
3



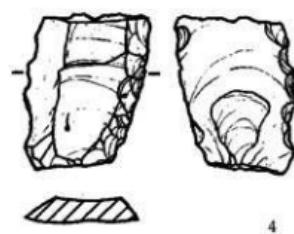
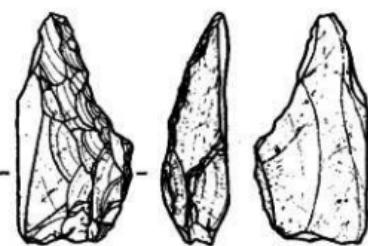
6



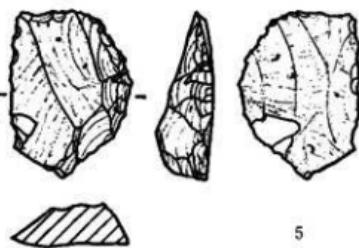
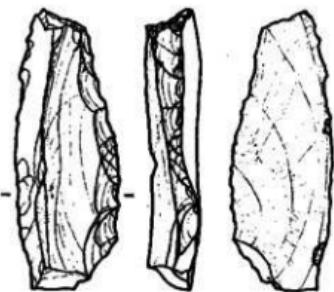
4



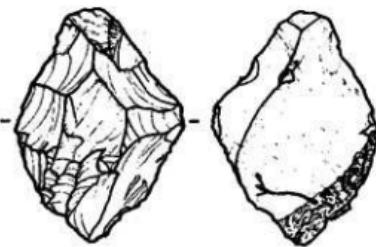
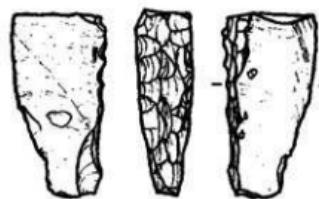
7



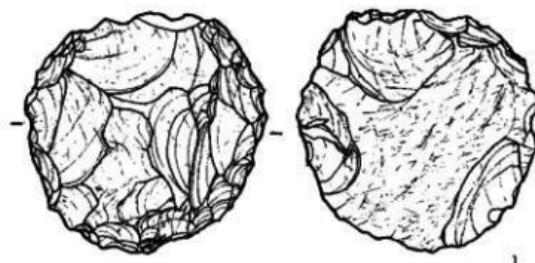
1



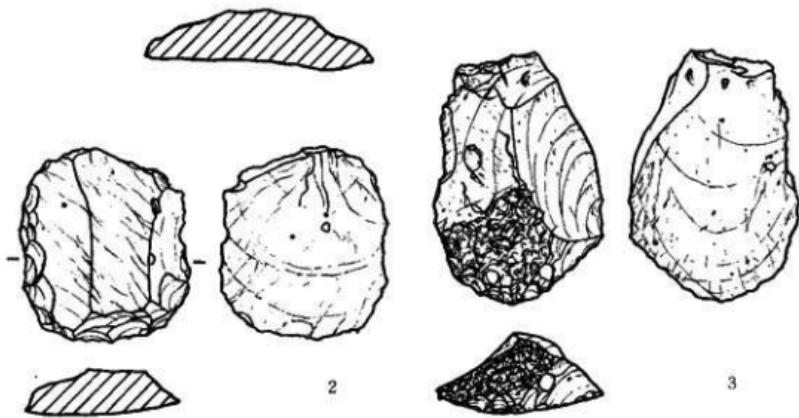
2



3



1

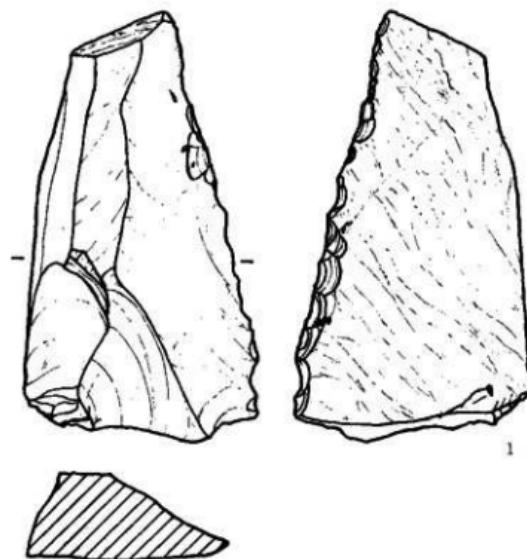


2

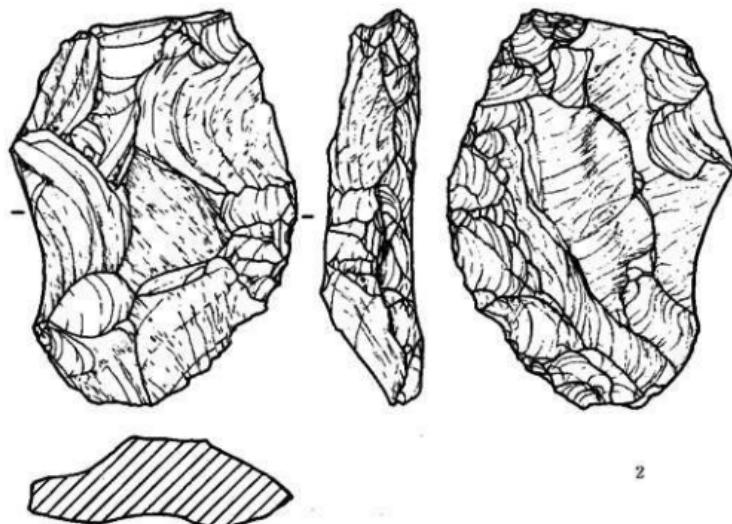
3

4

(実大)

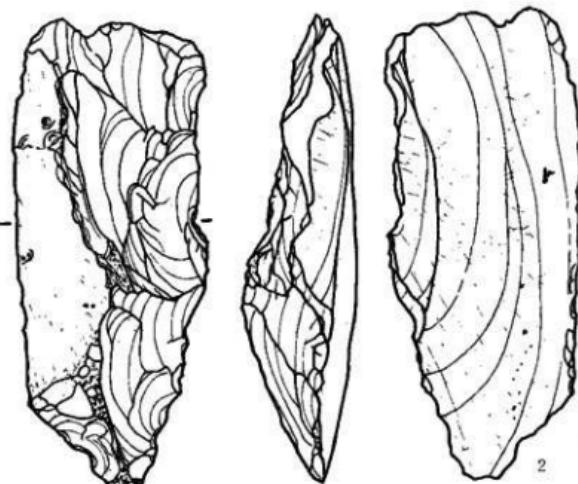
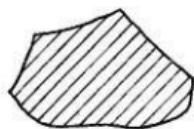
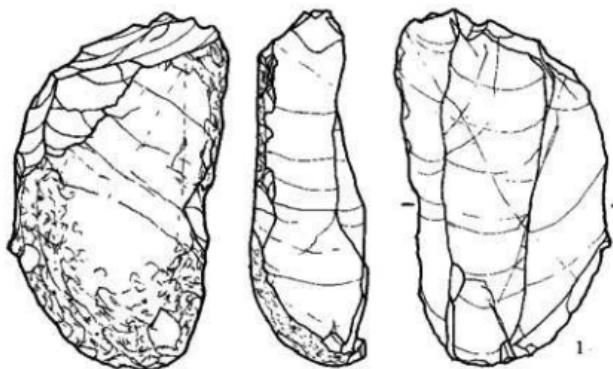


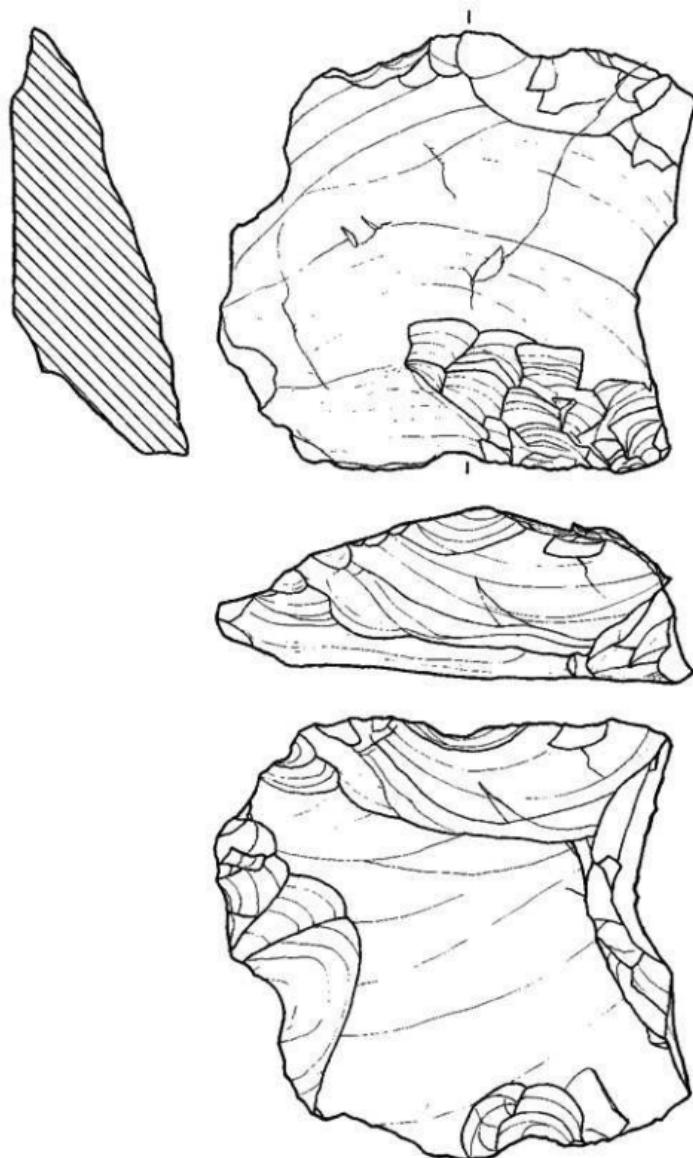
1



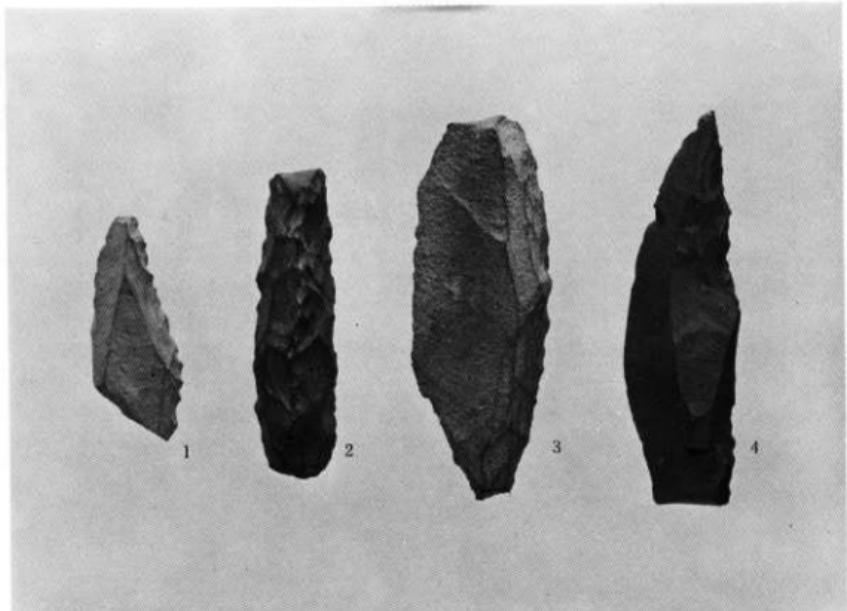
2

(実大)



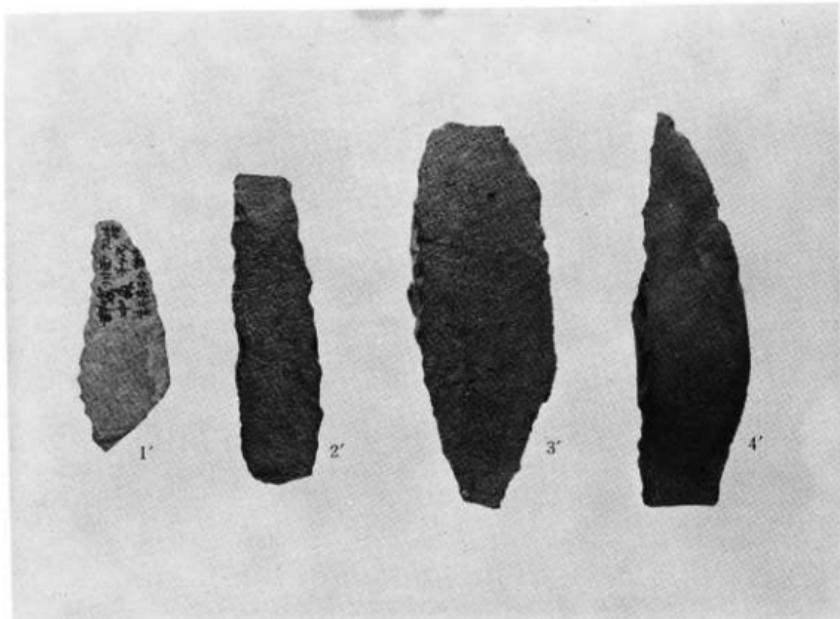


(实大)

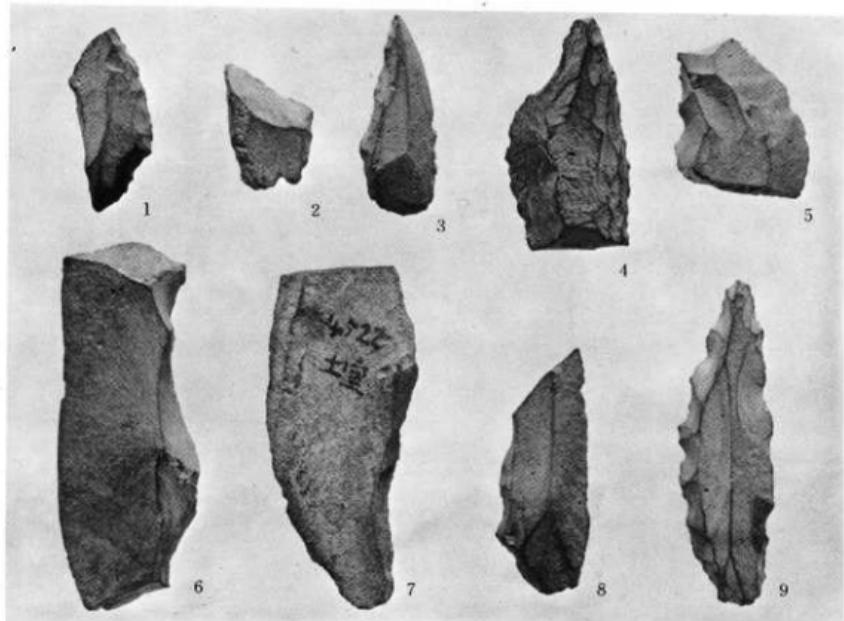


a. ナイフ形石器 (1, 3, 4), 舟底形尖頭器 (2) (A面)

約1/2



b. 同上 (B面)

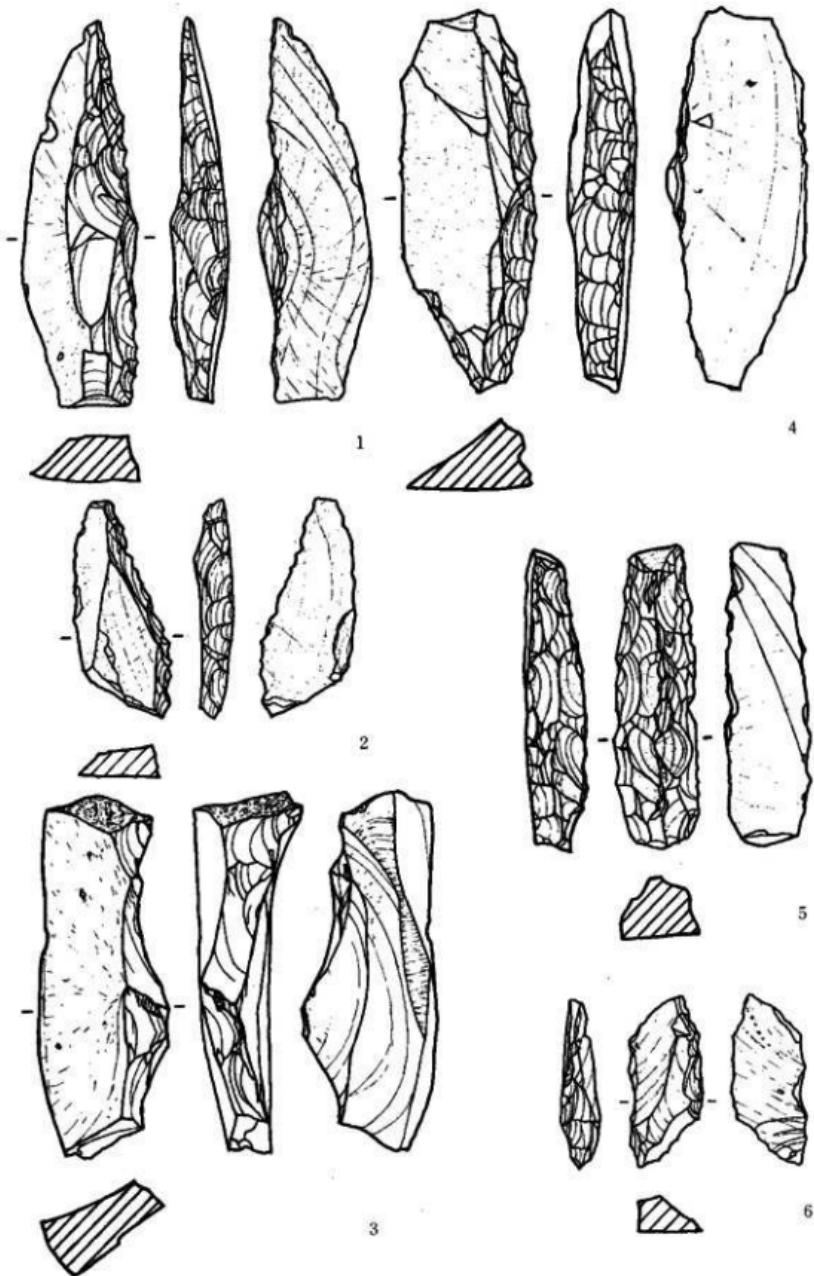


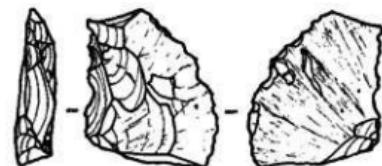
a. ナイフ形石器 (1~5, 8, 9), 褐状剥片 (6, 7) (A面)

約5

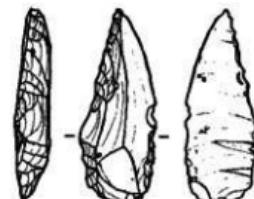


b. 同上 (B面)

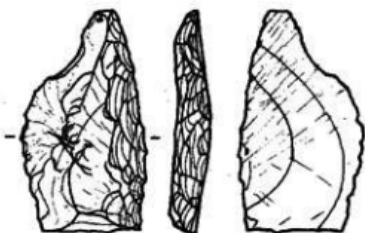




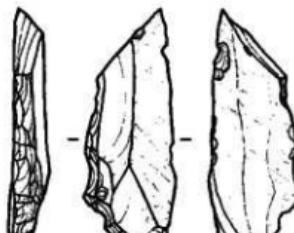
1



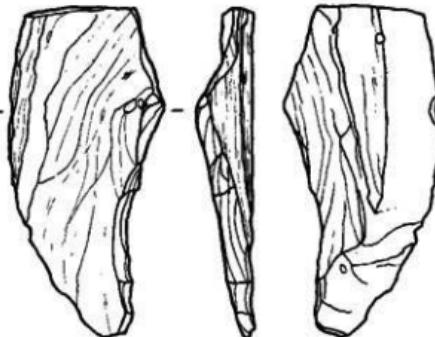
5



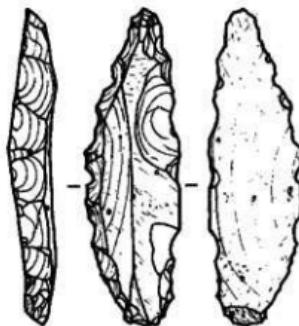
2



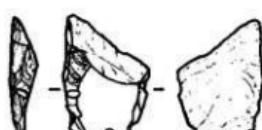
6



3

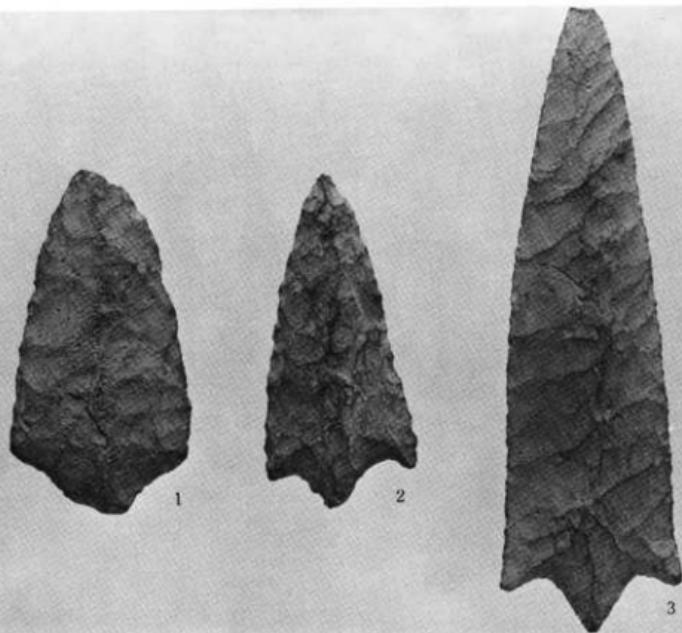


7



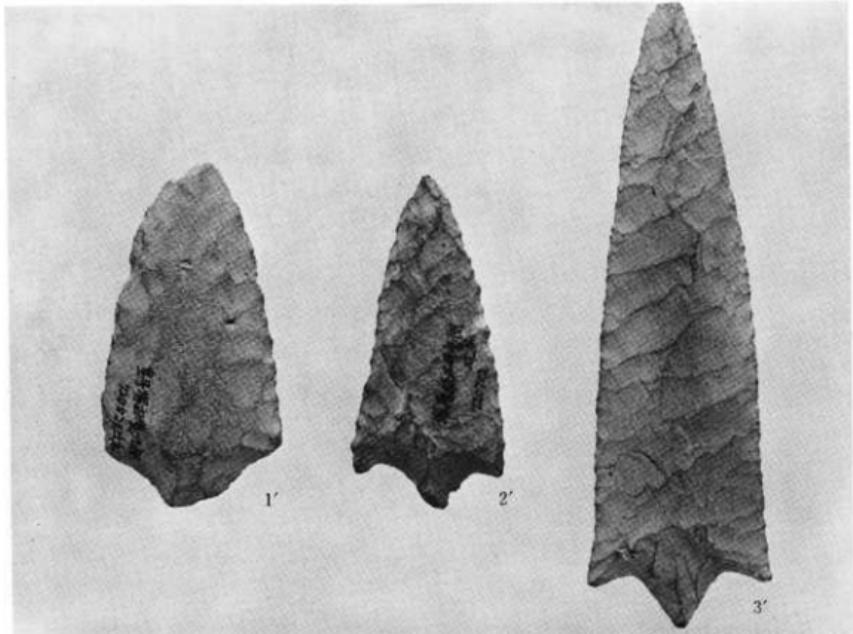
4

(実大)

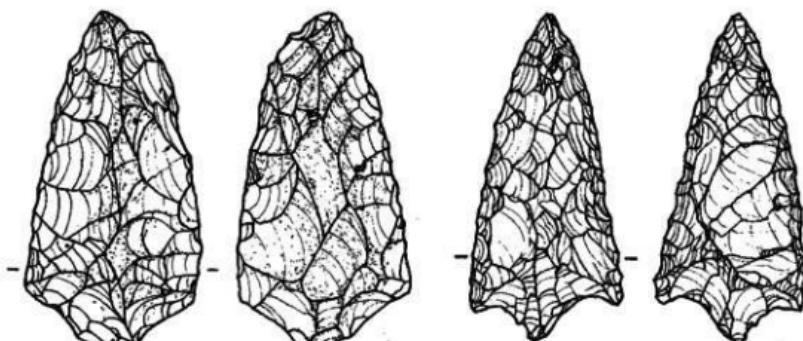


a. 有舌尖頭器 (A面)

約 1/4



b. 同上 (B面)

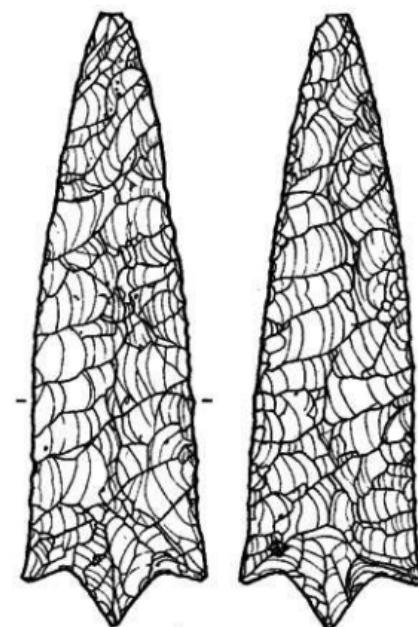


1

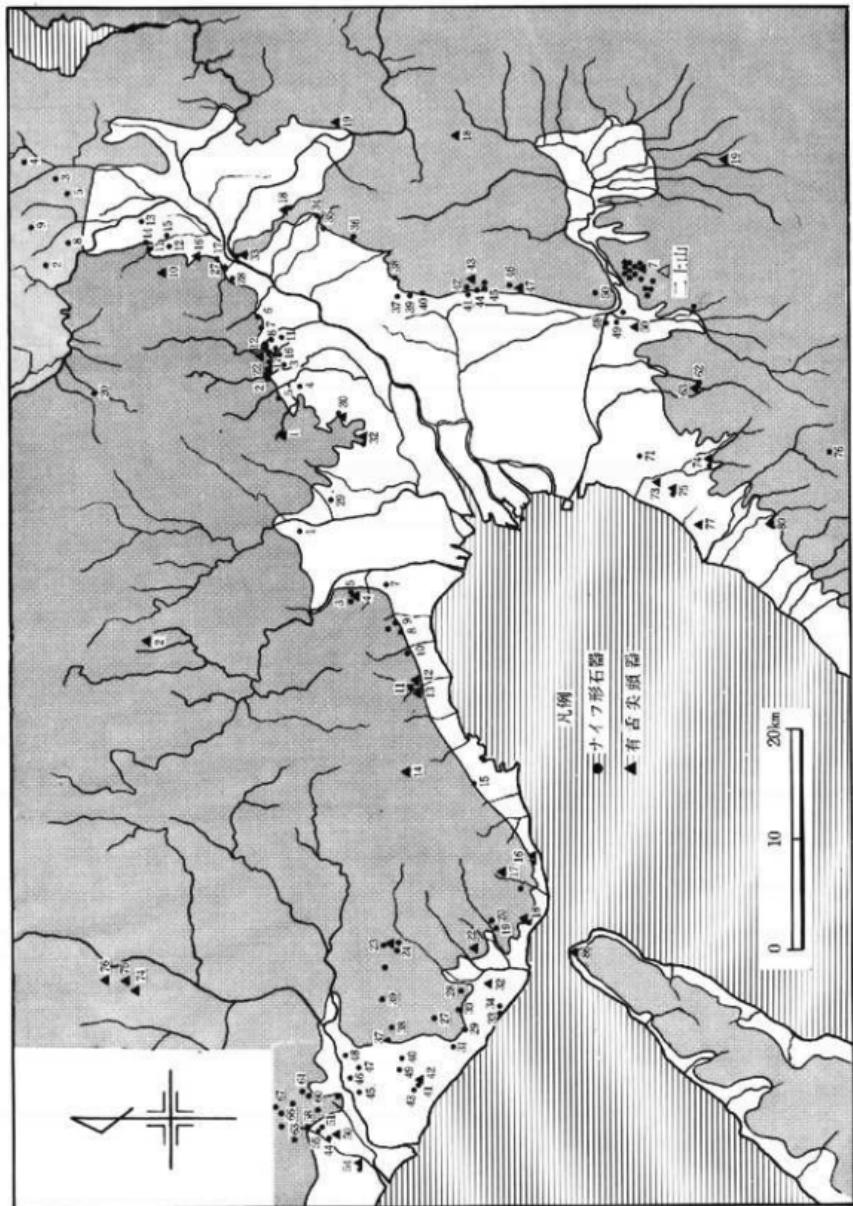
2

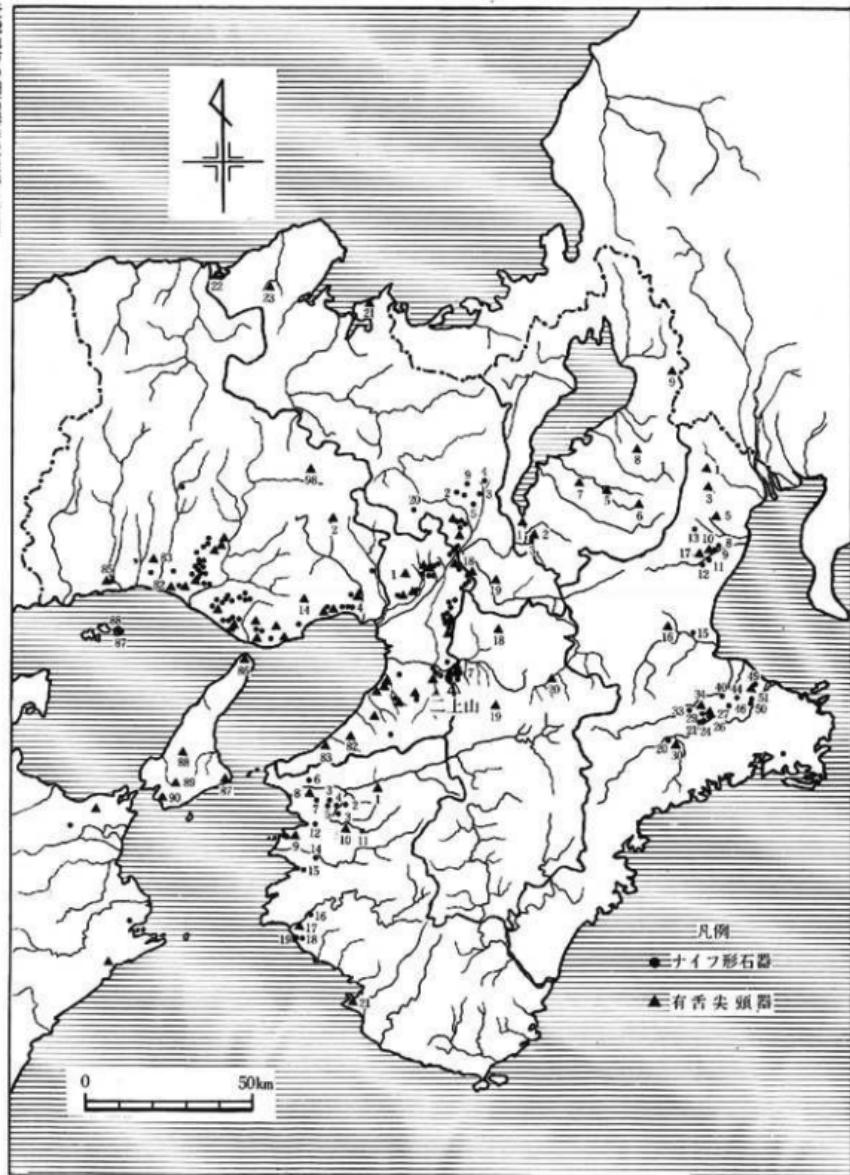


(实大)



3





(遺跡番号は、近畿地方旧石器時代地名表の府県別の番号である。)

近畿地方旧石器時代文献目録

凡　例

1. 本目録は近畿地方（時に近隣他府県のも含む）の旧石器時代に関する文献を集成したものである。採録の範囲は、明治22年以降昭和50年12月現在までである。
2. 配列の基準は、原則として時代順とした。
3. 個々の著書・論文を記載するのは、下記の順に従った。
 - (A)著書の場合——著者名・著書名・出版年次
 - (B)論文の場合——著者名・論文名・雑誌名・巻号数・出版年次
4. 単行本・雑誌名は『　』を附して、論文名「　」と区別した。
5. 本文中で〔著者名・発表年〕と表記した参考文献は、同一年に同一著者が2つ以上発表した場合にのみ、A・B・Cとよびわけ、本文献目録では末尾に記し、対照できるようにした。
6. 本目録作製に当って、必要な書物の借覧・検索・複写には、原口正三先生をはじめ、石神怡・田代克己・堀江門也・松下晴子・松本豊胤・真野修等の諸氏に特にお世話になった。記して厚く感謝したい。

明治22年（1889）

- ・山崎直方「河内に於ける石器時代遺跡の発見」（『東京人類学会雑誌』第39号、5月）
- ・　　「河内國に石器時代の遺跡を発見す」（『　　』第40号、6月）

明治24年（1891）

- ・山崎直方「雜報」（『東京人類学会雑誌』第59号）

明治25年（1892）

- ・山崎直方「河内に於ける石器の新発見地」（『東京人類学会雑誌』第73号、4月）
- ・　　「京摺地方古跡指明図に就て」（『　　』第80号、11月）

明治29年（1896）

- ・足立文太郎「人類学頃談」（『東京人類学会雑誌』第119号、2月）

明治31年（1898）

- ・浜田耕作「考古材料」（『東京人類学会雑誌』第147・148号、6月・7月）

明治32年（1899）

- ・浜田耕作「和泉に於ける石器」（『東京人類学会雑誌』第156号、3月）

明治33年（1900）

- ・浜田耕作「南河内地方に於ける石器時代遺跡と古墳」（『東京人類学会雑誌』第174号、9月）

明治34年（1901）

- ・清野謙次「河内國南河内郡国府村石器時代遺跡に就きて」（『考古界』第1編第2号、7月）

明治35年（1902）

- ・原田正彦「河内の遺物」（『東京人類学会雑誌』第191号、2月）

大正6年（1917）

- ・喜田貞吉「南河内郡古代遺跡に就いて」（『大阪府史蹟調査委員会報』第4号、3月）
- ・大阪毎日新聞記事「三千年前の人骨」（『大阪毎日新聞』、6月8日）
- ・　　「石器時代遺跡の學術的發掘收獲」（『　　』、6月9日）
- ・浜田耕作「河内國府の石器時代の遺跡（上）・（下）」（『大阪朝日新聞』、6月9日・10日）
- ・岩井武後「石器時代遺跡調査1)～2)」（『大阪毎日新聞』、7月26日～8月19日）
- ・大阪毎日新聞記事「又も三千年前の人骨發掘」（『　　』、8月13日）
- ・鳥居龍藏「有史以前の日本1)～10)」（『　　』、8月28日～9月7日）
- ・　　「畿内の石器時代1)～9)」（『　　』、9月17日～27日）
- ・本山彦一「開会の辭（8月1日浜寺講演会にて）」（『人類学雑誌』第32卷第9号、9月）

- ・鳥居龍藏「開拓されたる大和國(同会にて)」()
- ・ ゆ 「畿内の石器時代に就て」()
- ・ ゆ 「再び思ふ事を」()
- ・岩井武俊「紀和河泉諸国に於てなせし事ども」()
- ・大阪毎日新聞記事「河内國府遺跡調査1)~20・(補遺)」
(『大阪毎日新聞』10月15日~11月8日・22日)
- ・鳥居龍藏「河内國府の新発掘に就て(1)~(9)」(『東京日日新聞』、11月22日~30日)
- ・小金井良精「河内國南河内郡道明寺村大字国府字乾の石器時代遺跡より発掘せる人骨」
(『人類学雑誌』第32卷第12号、12月)

大正7年（1918）

- ・梅原末治「昨年の史学地理学界(考古学)」(『史林』第3卷第1号、1月)
- ・小金井良精「日本石器時代人に上犬歯を抜き去る風習ありしことに就て」
(『人類学雑誌』第33卷第2号、2月)
- ・鈴木文太郎「肥後森貝塚河内導明寺等にて発掘せる人骨に就て」
(『人類学雑誌』第33卷第3号、3月)
- ・大阪毎日新聞記事「石器時代研究の新学説」(『大阪毎日新聞』、4月24日)
- ・鳥居龍藏「有史以前の日本」、7月
- ・浜田耕作「河内國府石器時代遺跡発掘報告」
(『京都帝国大学文科大学考古学研究報告』第2冊、7月) A
- ・鈴木文太郎「河内國府肥後森等にて発掘せる人骨に就いて報じ併せて石器時代の住民に及ぶ」
(『京都帝国大学文科大学考古学研究報告』第2冊、7月)
- ・松村瞭(『雑報』)京都文科大学考古学研究報告第2冊(『人類学雑誌』第33卷第8号、8月)
- ・岩井武俊「河内國府第4回発掘調査1)~18」(『大阪毎日新聞』、8月1日~9月5日)
- ・喜田貞吉「河内國府石器時代遺跡発掘報告を読む」(『史林』第3卷第4号、10月) A
- ・ ゆ 「河内國府遺跡最古の住民」(『歴史地理』第32卷第4号、10月) B
- ・浜田耕作「京都大学考古学研究報告書に就いて」(『歴史と地理』第2卷第4号、10月) B
- ・喜田貞吉「古代アイヌ族の墳墓」(『歴史地理』第32卷第6号、12月) C

大正8年（1919）

- ・梅原末治「昨年の史学地理学界(考古学)」(『史林』第4卷第1号、1月)
- ・ ゆ 「昨年の考古学界」(『考古学雑誌』第9卷第6号、2月)
- ・大阪毎日新聞記事「衣縫の遺跡発掘」(『大阪毎日新聞』、4月8日)
- ・ ゆ 「発掘人骨の切こみ歯の研究」(『 』、4月10日)
- ・喜田貞吉「河内國石器時代遺跡発掘の一種の土器」(『民族と歴史』第1卷第6号、6月)
- ・大野雲外「河内國府発見耳飾石環に就いて」(『 』、第2卷第2号、8月)
- ・小金井良精「日本石器時代人の歯牙を変形する風習に就て」
(『人類学雑誌』第34卷第11号・12号、11月・12月)

大正9年（1920）

- ・梅原末治「大正8年の考古学会の回顧」（『考古学雑誌』第10卷第6号、2月）
- ・大串菊太郎「津波貝塚及國府石器時代遺跡に対する二・三の私見」
（『民族と歴史』第3卷第4号、3月）
- ・浜田耕作・辰馬悦蔵「河内国府石器時代遺跡第2回発掘報告」
（『京都帝国大学文学部考古学研究報告』第4冊、9月）
- ・長谷部言人「河内国府石器時代人骨調査」（　　・　　）
- ・浜田耕作「遺物遺跡から見た上代の近畿地方」（『京阪文化史論』、11月）

大正10年（1921）

- ・梅原末治「大正9年の我が考古学会」（『考古学雑誌』第11卷第7号、3月）

大正11年（1922）

- ・中川泉三編『近江蒲生郡志』巻毫、3月
- ・清野謙次「考古漫録（一）」（『民族と歴史』第7卷第3号、3月）
- ・　　・「　　・（五）」（『　　・』第8卷第2号、8月）
- ・梅原末治『鳥取県下に於ける有史以前の遺跡』（『鳥取県史蹟勝地調査報告』第1冊、11月）

大正12年（1923）

- ・小金井良精「日本石器時代人の埋葬状態」（『人類学雑誌』第38卷第1号、1月）
- ・梅原末治「手斧発見の石器と両大塚古墳」（『京都府史蹟勝地調査会報告』第4冊、6月）

大正14年（1925）

- ・清野謙次「日本原人の研究」、4月
- ・鳥居龍藏『有史以前の日本』（新版）、5月A
- ・浜田耕作「考古学上及美術史上より觀たる大阪地方」（『大阪文化史』、8月）
- ・鳥居龍藏「人類学上より見たる我が上代の文化」、10月B

大正15年（1926）

- ・小金井良精『人類学研究』、2月
- ・中川泉三編『近江栗田郡志』巻毫、3月
- ・清野謙次・宮本博人「國府石器時代人骨の人類学的研究」
（『人類学雑誌』第41卷第8号、8月）
- ・山口高等学校歴史教室『山口高等学校歴史教室陳列品目録』9月

昭和3年（1928）

- ・小金井良精「人類学上より見たる日本民族」（『人類学雑誌』第43卷第4号、3月）
- ・清野謙次「人類起源論」、4月
- ・島田貞彦「有史以前の日本」（『滋賀県史蹟調査報告書』第1冊、4月）

- ・東京帝国大学『日本石器時代遺物発見地名表(第5版)』10月

昭和4年（1929）

- ・中川泉三編『近江愛智郡志』第1巻、4月

昭和5年（1930）

- ・直良信夫「河内国府発見の縄紋式土器片」（『人類学雑誌』第45巻第9号、9月）
- ・浜田耕作「河内導明寺附近に就て」（『大阪史談会報』第6号、9月）
- ・中谷治宇二郎「日本石器時代文献目録」10月

昭和6年（1931）

- ・樋口清之「大和二上石器製造遺跡研究(レジュメ)」（『上代文化』第4・5合併号、2月）
- ・直良信夫「播磨国西八木海岸洪積層中発見の人類遺品1・2」
（『人類学雑誌』第46巻第5号、6号、5月・6月）
- ・鳥居龍藏「直良氏播磨発見の所謂旧石器時代の石器に就いて」（『上代文化』第6号、7月）

昭和7年（1932）

- ・太田陸郎「神戸市の史前遺跡」（『考古学』第3巻第2号、5月）
- ・大山柏「歐州旧石器編年の過程」（『史前学雑誌』第4巻第2号、7月）
- ・清野謙次「日本古代の住民に就て」（『日本学術協会報告』第7巻第4号、11月）

昭和8年（1933）

- ・大山柏「日本旧石器文化存否研究」（『史前学雑誌』第4巻第5・6号代冊、3月）
- ・貫井力太郎「日本洪積期の人類生活」（『歴史科学』第2巻第7号、9月）

昭和9年（1934）

- ・大山柏「日本石器時代の生業生活」（『改造』第16巻第1号、1月）
- ・喜田貞吉「多紀郷土史話・序」（福原潜次郎「多紀郷土史話」、10月）
- ・清野謙次「日本民族—日本人種論の変遷—」（『岩波講座東洋思想』、11月）

昭和10年（1935）

- ・浜田耕作「日本原始文化」（『岩波講座日本歴史』、1月）A
- ・末永雅雄「本山考古室要録」2月
- ・寺村寅二郎「国府人上肢骨の研究」（『人類学雑誌』第50巻第3附録、3月）
- ・寺村寅二郎「国府人下肢骨の研究其一」（『人類学雑誌』第50巻第4附録、4月）
- ・寺村寅二郎「国府人下肢骨の研究其二」（『人類学雑誌』第50巻第5附録、7月）
- ・寺村寅二郎「国府人四肢管状骨横断面の研究」（『人類学雑誌』第50巻第6附録、6月）
- ・寺村寅二郎「四肢骨に於ける人類学的計測値の総合的比較より觀たる国府石器時代人」
（『人類学雑誌』第50巻第4号、4月）

- ・直良信夫「日本旧石器時代研究の昨今」(『考古学』第6卷第2号、7号、2月・7月)
- ・浜田耕作「石蹴の思出話」(『ドルメン』第4卷第6号、6月) B
- ・清野謙次「僕の考古史」(　　・　　)
- ・清野謙次・金関丈夫「日本石器時代人種論の変遷」11月
- ・小牧実繁「旧石器時代に関する知識の伝流」(『立命館35周年記念論文集』文学篇、11月)
- ・浜田耕作「考古学教室の思い出」(『京都帝国大学文学部30周年史』、11月) C

昭和11年（1936）

- ・樋口清之「大和竹之内石器時代遺跡」1月
- ・中野勇他「(座談会)日本石器時代文化の源流と下限を語る」(『ミネルヴァ』創刊号、2月)
- ・直良信夫「日本の最新世と人類発達史」(『ミネルヴァ』第1卷第4号、5月)
- ・禪津正志「原始日本の人類とその系譜」(『歴史学研究』第6卷第11号、11月)

昭和12年（1937）

- ・直良信夫「亜細亞の旧石器時代観見」(『歴史公論』第6卷第1号、1月)
- ・中山英司「河内国国府の石器時代人に就いて」
(『東京人類学会日本民族学会聯合大会第2回記事』、3月)
- ・清野謙次「踏まぬ影」5月
- ・三沢章「日本考古学の発達と科学的精神」
(『唯物論研究』第11卷第60号・62号、10月・12月)

昭和13年（1938）

- ・大場磐雄「伊勢国鹿児の縄文式遺物」(『史前学雑誌』第10卷第1号、1月)
- ・八幡一郎「先史時代の交易」(『人類学・先史学講座』第2巻、6月)
- ・三森定男「日本先史文化に関する諸問題」(『考古学論叢』第7輯、6月)

昭和15年（1940）

- ・藤野勝弥「河内鷹ノ巣山遺跡」(『考古学』第11卷第3号、3月)
- ・紅野芳雄「考古小録」4月
- ・福原潜次郎「攝津武庫郡甲山北五ヶ山石器製作場遺跡について」
(『考古学雑誌』第31卷第1号、12月)

昭和16年（1941）

- ・小林行雄「縄文式石器資料追補」(『考古学』第12卷第1号、1月)

昭和17年（1942）

- ・梅原末治他「中河内郡孔舎衝村日下遺跡」
(『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告』第12輯、3月)

昭和18年（1943）

- ・小林行雄・藤岡謙次郎「石器類」
（『大和磨古弥生式遺跡の研究』京都帝国大学文学部考古学研究報告第16冊、4月）
- ・貞良信夫「淡路吹上砂丘の遺跡」（『近畿古代文化叢考』、10月）

昭和19年（1944）

- ・清野謙次「日本人種族変遷史」2月
- ・末永雅雄「宮窓の遺跡」（『奈良県史蹟名勝天然記念物調査会報告』第15冊、3月）
- ・立命館大学地理学同好会編「生駒山脈」4月

昭和22年（1947）

- ・清野謙次「日本歴史のあけばの」
- ・貞良信夫「日本に於ける旧石器時代文化」（『あんとろばす』第2巻第2号、9月）
- ・豊元国「日本の細石器文化」（――・――）

昭和23年（1948）

- ・長谷部言人「明石市附近西八木最新世前期堆積出土人類腰骨（石膏形）の原始性に就いて」
（『人類学雑誌』第60巻第1号、7月）
- ・貞良信夫「日本にいた原人の骨」（『科学画報』第37巻第11・12号、12月）
- ・浅田芳郎「ニッポンナントロブス・アカシエンシエスに就て」
（『播磨郷土文化』第2号、12月）

昭和24年（1949）

- ・島田清「所謂『明石原人』発掘現場を見学して」（『志佐波』第2巻第2号、2月）
- ・高井冬二「所謂ニッポンナントロブスの産出層について」
（『人類学雑誌』第60巻第3号、4月）
- ・渡辺仁「ニッポンナントロブス層の自然破碎疊」（――・――）
- ・長谷部言人「日本民族の成立」（『新日本史講座』原始時代、6月）

昭和25年（1950）

- ・杉原莊介「岩宿の旧石器」（『科学朝日』第10巻第7号、7月）
- ・渡辺直経「明石西郊含化石層に於ける骨の保存可能性」
（『人類学雑誌』第61巻第4号、10月）
- ・貞良信夫「日本で洪積世人骨を発見」（『科学朝日』第10巻第12号、12月）

昭和26年（1951）

- ・貞良信夫「仮石人類の遺骨をたずねて」（『早稻田学報』復刊第5巻第7号、7月）
- ・長谷部言人「日本人の祖先」12月

昭和27年（1952）

- ・直良信夫「栃木県葛生発見洪積世人類の遺骸」（『人類学雑誌』第62巻第3号、3月）
- ・増田精一・直木孝次郎「（1951年の歴史学界—回顧と展望—）古代（考古学）」
（『史学雑誌』第61編第5号、5月）

昭和28年（1953）

- ・鳥居龍藏「ある老学者の手記」1月
- ・増田精一「（1952年の歴史学界—回顧と展望—）古代（考古学）」
（『史学雑誌』第62編第5号、5月）
- ・清野謙次「（増補版）人類の起源」8月
- ・杉原莊介「日本における石器文化の階梯について」（『考古学雑誌』第39巻第2号、8月）
- ・藤原光輝「大阪関係考古学著書論文目録」（『ヒストリア』第6号・7号、3月・8月）

昭和29年（1954）

- ・直良信夫「日本旧石器時代の研究」（『早稲田大学考古学研究報告』第2号、1月）
- ・杉原莊介「日本原始時代の理解」（『歴史教育』第2巻第3号、3月）A
- ・八幡一郎「（研究の趨勢）縄文式文化遺跡調査の大勢」（『日本考古学年報』2、4月）
- ・曾野寿彦・吉田章一郎「（1953年の歴史学界—回顧と展望—）考古学」
（『史学雑誌』第63編第5号、5月）
- ・芹沢長介「関東及中部地方に於ける無土器文化の終末と縄文文化の発生とにに関する予察」
（『駿台史学』第4号、9月）
- ・清野謙次「日本考古学・人類学史」上巻、9月
- ・鎌木義昌「瀬戸内における無土器文化の存否について」
（『日本考古学協会第14回総会発表要旨』、10月）
- ・杉原莊介「日本石器文化の段階」
（『地質学研究連絡委員会第4紀小委員会日本支部連絡紙』第1号、12月）B
- ・相沢忠洋他「（座談会）わが国の旧石器問題」（『西郊文化』第10輯、12月）

昭和30年（1955）

- ・清野謙次「日本民族の生成」（『歴史教育』第3巻第3号、3月）
- ・八幡一郎「（研究の趨勢）先縄文式文化」（『日本考古学年報』3、4月）
- ・清水潤三・吉田章一郎「（1954年の歴史学界—回顧と展望—）先史・原史」
（『史学雑誌』第64編第5号、5月）
- ・松本清張「石の骨」（『別冊文芸春秋』第48号、10月）
- ・八幡一郎「（研究の趨勢）先縄文式文化」（『日本考古学年報』4、12月）

昭和31年（1956）

- ・杉原莊介「縄文文化以前の石器文化」（『日本考古学講座』第3巻縄文文化、2月）A
- ・松本俊吉「石器時代文化の展開」（『二上村史』、3月）

- ・鎌木義昌「岡山県鷺羽山遺跡調査略報」(『石器時代』第3号、3月) A
- ・加藤晋平・倉田芳郎「(1955年の歴史学界一回顧と展望ー)先史・原史」
(『史学雑誌』第65編第5号、5月)
- ・杉原莊介「日本の始源文化」(『岡説日本文化史大系』第1巻、7月) B
- ・芹沢長介「日本最古の文化」(『科学読売』第8巻第9号、9月) A
- ・杉原莊介「群馬県岩宿発見の石器文化」
(『明治大学文学部研究報告 考古学』第1冊、9月) C
- ・鈴木敏雄「伊勢・志摩における縄文以前の文化」(『三重の文化』第5号、10月)
- ・武藤誠「遺物遺跡から見た古代の芦屋地方」(『芦屋市史』本編、11月)
- ・鎌木義昌「西日本無土器文化研究の概要」
(『日本考古学協会第18回総会研究発表要旨』、11月) B
- ・芹沢長介「日本に於ける無土器文化」(『人類学雑誌』第64巻第3号、1月) B

昭和32年 (1957)

- ・鎌木義昌「香川県井島遺跡—瀬戸内における細石器文化—」(『石器時代』第4号、3月) A
- ・岩野見司「伊勢・志摩における無土器文化」(　　+　　)
- ・杉原莊介「(研究の趨勢) 先縄文式文化」(『日本考古学年報』5、3月)
- ・末永雅雄他「日本文化の“あけぼの”二上山」(『朝日新聞』、3月8日夕刊)
- ・芹沢長介「無土器文化」(『考古学ノート』第1巻、4月) A
- ・戸沢充則・甘粕健「(1956年の歴史学界一回顧と展望ー)先史・原史」
(『史学雑誌』第66編第5号、5月)
- ・芹沢長介「日本における無土器文化の起源と終末についての覚書」
(『私たちの考古学』第4巻第1号、6月) B
- ・鎌木義昌「西日本の無土器文化—特に瀬戸内を中心として—」(　　+　　) B
- ・小野忠熙「本州島の西端地方における無土器文化の石器とその発見地(予報)」(　　+　　)
- ・戸沢充則「切出形石器をめぐる問題」(『貝塚』第68号、9月)
- ・増田重信「播磨福本遺跡の押型文土器」(『兵庫史学』第13号、9月)
- ・島五郎・山内清男・鎌木義昌「河内同府遺跡略報」
(『日本考古学協会第20回総会研究発表要旨』、10月)
- ・櫻原考古学研究所「二上山総合分布調査」

昭和33年 (1958)

- ・鎌木義昌「岡山県児島市鷺羽山遺跡」(『日本考古学年報』7、3月) A
- ・　　+　　「香川県香川郡井島鞍掛遺跡」(　　+　　)
- ・芹沢長介「(研究の趨勢) 無土器文化時代」(　　+　　)
- ・岡本勇・麻生俊編「日本石器時代総合文献目録」4月
- ・芹沢長介「(1957年の歴史学界一回顧と展望ー)先史・原史」
(『史学雑誌』第67編第5号、5月)
- ・森浩一・堀田啓一「大阪府大和川底出土の石器」(『古代学研究』第19号、8月)

- ・芹沢長介「旧石器時代の日本」(『自然』第13巻第10号、10月)
- ・山内清男・島五郎・鎌木義昌「河内国府遺跡調査略報」
(『日本人類学会日本民族学協会連合大会第12回記事』、10月)
- ・片山長三「枚方台地の先史遺跡」(『畿内歴史地理研究』、12月)

昭和34年（1959）

- ・角田文衛「無土器文化の名称について」(『古代文化』第3巻第1号、1月) A
- ・芹沢長介「(研究の趨勢) 無土器文化時代」(『日本考古学年報』8、3月) A
- ・鎌木義昌「香川県綾歌郡城山遺跡」(　　) A
- ・杉原莊介・吉田格・芹沢長介「東京都茂呂における関東ローム層中の石器文化」
(『駿台史学』第9号、3月)
- ・芹沢長介・中村一郎・麻生優「神山」3月
- ・直良信夫「人類発達史」4月
- ・松沢伸生「石器研究におけるテクノロジーの一方向」(『考古学手帖』第7号、4月)
- ・中野尊正・小林国夫「日本の自然」(『岩波新書』346、5月)
- ・鎌木義昌「細石器問題の進展(その3)」(『貝塚』第88号、5月) B
- ・高橋邦彦「讃岐の無土器文化についての覚え書より」(『愛媛考古学』第2巻第1号、5月)
- ・角田文衛「旧石器・中石器文化」(『世界史大系』1、5月) B
- ・芹沢長介「ローム層に潜む文化」(『世界考古学大系』1、6月) B
- ・小林行雄「國府遺跡」(『図解考古学辞典』、6月)
- ・芹沢長介「日本最古の文化と縄文土器の起源」(『科学』第29巻第8号、8月) C
- ・高桑礼・坂東新司「国分台の地形・地質と旧石器文化遺跡」
(『香川大学学芸学部研究報告』(第1部)第12号、8月)
- ・芹沢長介「新潟県荒屋遺跡における細石刃文化と荒屋形彫刻刀について」
(『第四紀研究』第1巻第5号、9月) D
- ・西川宏・杉野文一「岡山県玉野市宮田山西地点の石器」(『古代吉備』第3号、10月)
- ・堀田啓・「大阪府四条畷町岡山出土の石器」(『古代学研究』第21・22号、11月)
- ・鎌木義昌「香川県城山遺跡出土の石器」(『古代学』第8巻第3号、12月) C
- ・川畑辺「国分台の無土器文化石器」(『文化財協会報』第4号)
- ・榎家惣衛「国分台の無土器文化について」(『讃岐公論』第39卷)

昭和35年（1960）

- ・芹沢長介「細石器問題の進展(その4)」(『貝塚』第96号、1月) A
- ・大井晴男「(1959年度の日本考古学界) 無土器文化」(『貝塚』第97号、2月)
- ・京都大学文学部「京都大学文学部博物館考古学資料目録第1部」3月
- ・直良信夫「日本の誕生」4月
- ・鈴木尚「骨」5月
- ・上野佳也「(1959年の歴史学界一回顧と展望) 先史・原史
(『史学雑誌』第69編第5号、5月)

- ・榎木本之丞「東京都溜瀬遺跡」(『人類学雑誌』第68巻第1号、5月)
- ・松沢源生「石器研究におけるテクノロジーの一方向(II)」(『考古学手帖』第12号、5月) A
- ・芹沢長介「石器時代の日本」6月 B
- ・片山長三「北河内のプレ繩文遺跡と遺物」(『河内地方史』1、6月)
- ・鎌木義昌「日本列島の生成」「先繩文文化の変遷」「打製石器にみる生活技術」
(『図説世界文化史大系』第20巻、7月)
- ・小林行雄「國のまほろば」(『風土記日本』3近畿篇、10月)
- ・松沢源生「長野県諏訪北蹄場石器群」(『第四紀研究』第1巻第7号、10月) B
- ・鹿間時夫「石になったものの記録」(角川新書)11月
- ・安井良三「龜岡地方のあけぼの」(『龜岡市史』上巻、11月)
- ・杉原莊介・戸沢光則「先土器時代の日本」(『Acta Asiatica』第1号)

昭和36年（1961）

- ・芹沢長介「無土器文化」(『日本歴史』第152号、2月) A
- ・小林達雄「有舌尖頭器」(『歴史教育』第9巻第3号、3月)
- ・八幡一郎「(研究の趨勢)先繩文式文化の研究」(『日本考古学年報』9、3月)
- ・西田彦一「(生駒の遺跡)西斜面及び枚方台地」(『生駒山地の人文地理』、3月)
- ・梅本茂一「四日市の考古遺跡」(『四日市市史』、3月)
- ・末永雅雄「大阪地方の繩文文化」(『上方文化』創刊号、5月)
- ・芹沢長介「(1960年の歴史学界一回顧と展望)先史・原史」
(『史学雑誌』第70編第5号、5月) B
- ・高橋邦彦「坂出市与島町西方及東方遺跡の調査報告」
(『香川県文化財保護協会特別号』5)
- ・島山鼎『香川県考古学会報告』第1集

昭和37年（1962）

- ・芹沢長介「日本の旧石器文化と繩文文化」(『古代史講座』第2巻、2月) A
- ・島五郎「大阪府国府遺跡出土の抜歯を伴う交叉研磨歯骨追加資料」
(『近畿古文化論叢』、3月)
- ・澄田正一「伊勢湾沿岸の御文帝神獻鏡について」(『近畿古文化論叢』、3月)
- ・西村正衛「(研究の趨勢)先繩文文化」(『日本考古学年報』11、3月)
- ・芹沢長介「旧石器時代の諸問題」(『岩波講座日本歴史』、1、4月) B
- ・角田文衛「岩宿文化研究の問題点」(『古代文化』第8巻第4号、5月)
- ・大井晴男「(1961年の歴史学界一回顧と展望)先史・原史(無土器文化)」
(『史学雑誌』第71編第5号、5月)
- ・藤森栄一・戸沢光則「茶臼山石器文化」(『考古学集刊』第1巻第4号、6月)
- ・滝沢浩「埼玉県市場坂遺跡略報」(『考古学手帖』第15号、7月)
- ・鎌木義昌「無土器文化・繩文文化」(『家島群島』、9月) A
- ・・・「無土器時代の岡山」(『岡山市史』古代編、10月) B

- ・国学院大学考古学会『無土器文化から縄文文化の確立まで』
 (『創立80周年記念若木祭展示目録』、11月)
- ・末永雅雄「国府遺跡」(『日本考古学辞典』、12月)
- ・奥義次「南勢に於ける無土器文化遺跡の概要」(『おじか』別冊)

昭和38年（1963）

- ・小林行雄「考古学史日本」(『世界考古学大系』第16巻、2月)
- ・鈴木尚「日本人の骨」(『岩波新書』477、2月)
- ・中川成夫「(学界展望)昭和37年の日本考古学界をかえりみて」
 (『歴史教育』第11巻第3号、3月)
- ・片山長三「先縄文（無土器）から縄文時代まで」(『交野町史』、3月)
- ・麻生櫻「(研究の趨勢) 無土器時代」(『日本考古学年報』10、3月)
- ・秋山泰「徳島県の無土器時代（旧石器時代）遺跡」(『徳島県史普及版』3月)
- ・芹沢長介「無土器時代の地方色」(『国文学解釈と鑑賞』第28巻第5号、4月) A
- ・江坂輝弥「(1962年の歴史学界一回顧と展望) 先史・原史
 (『史学雑誌』第72編第5号、5月)
- ・白滝団体研究会「白滝遺跡の研究」5月
- ・紅村弘「東海の先史遺跡」総括編、5月
- ・神戸女子商業高校歴史クラブ「大歳山」5月
- ・直良信夫「古代人の生活」7月
- ・芹沢長介「石のナイフで生活革命」(『太陽』第2号、8月) B
- ・加藤稔・佐藤祐宏「山形県越中山遺跡略報」(『石器時代』第6号、8月)
- ・樋口清之「日本人の起源」10月
- ・杉原莊介「(研究の趨勢)先縄文式文化時代」(『日本考古学年報』6、10月)
- ・奥義次「相可平山遺跡試掘調査略報」(『社旗』第2号)

昭和39年（1964）

- ・伊達宗泰「(学界の趨勢)先縄文文化」(『日本考古学年報』12、3月)
- ・坂詰秀一「(学界展望)昭和38年の日本先史考古学界」(『歴史教育』第12巻第3号、3月)
- ・服部貞蔵「狩と漁の生活」(『三重県史』、3月)
- ・柏倉亮吉編「山形県の無土器文化」3月
- ・戸沢充則「矢出川遺跡」(『考古学集刊』第2巻第3号、4月)
- ・末永雅雄「考古学の窓—日本古代文化を探る—」5月
- ・岡本勇「(1963年の歴史学界一回顧と展望)先史・原史
 (『史学雑誌』第73編第5号、5月)
- ・国学院大学考古学第1研究室「伊勢見山遺跡調査概報」5月
- ・近藤義郎「戦後日本考古学の反省と課題」(『日本考古学の諸問題』、6月)
- ・滝沢浩「尖頭器」(『考古学手帖』、第23号、7月) A
- ・小林行雄・佐原貞「紫雲出」9月

- ・滝沢浩「ナイフ形石器の機能について」(『下総考古学』第1号、10月) B
- ・四手井晴子・田代克己・西谷正「大阪府高槻市塚原遺跡発見の石器について」
(『古代学研究』第39号、12月)
- ・滝沢浩「本州における細石器文化の再検討」(『物質文化』第3号) C

昭和40年（1965）

- ・芹沢長介「無土器文化の編年について」(『考古学研究』第11卷第3号、1月) A
- ・早川正一・奥義次「三重県石神遺跡出土の石器群」(『考古学雑誌』第50卷第3号、1月)
- ・上田哲也他「播磨大中」2月
- ・角田文衛「日本旧石器時代研究の視角」(『歴史教育』第13卷第3号、3月)
- ・鎌木義昌「西日本の細石刃文化」(　　) A
- ・小林達雄「(学界展望)日本旧石器文化研究の動向」(　　)
- ・芹沢長介「(学界の趨勢)先繩文文化」(『日本考古学年報』13、3月) B
- ・大井晴男「日本の石刃石器群 "Blade Industry" について」(『物質文化』第5号、4月)
- ・戸沢光則「先土器時代における石器群研究の方法」(『信濃』第17卷第4号、4月)
- ・杉原莊介「先土器時代の日本」(『日本の考古学』I、5月)
- ・鎌木義昌「刃器文化」(　　) B
- ・鎌木義昌・高橋謙「瀬戸内海地方の先土器時代」(　　) C
- ・大井晴男「(1964年の歴史学界—回顧と展望—)先史・原史」
(『史学雑誌』第74編第5号、6月)
- ・近藤義郎「後氷期における技術的革新の評価について」
(『考古学研究』第12卷第1号、6月)
- ・近藤義郎「後氷期における新しい道具」(『世界歴史』第1卷、8月)
- ・杉原莊介「尖頭器石器文化の研究」(『明治大学人文科学研究所年報』第6号、10月)
- ・藤森栄一「旧石器の狩人」11月
- ・森浩一「日本列島と日本人の起源」(『和泉市史』第1巻、11月)
- ・小島俊次「奈良県の考古学」12月
- ・加古川東高等学校地歴部「山之上遺跡」(『ナイル』第12号)

昭和41年（1966）

- ・芹沢長介「最初の住民たち—旧石器時代—」(『日本人の原像』、1月) A
- ・藤井直正「先繩文・繩文文化」(『枚岡市史』第3卷史料篇1、3月) A
- ・村川行弘「朝日ヶ丘先土器遺跡」(『芦屋市文化財調査報告』第4集、3月) A
- ・漆正雄・井尻正二「日本列島第二版」(『岩波新書』589、3月)
- ・坂詰秀一「(学界の趨勢)先繩文時代」(『日本考古学年報』14、3月)
- ・大井晴男「(書評)杉原莊介編『先土器時代』」(『考古学研究』第12卷第4号、3月)
- ・渡辺誠「(学界動向)1965年における日本原始考古学界の動向」
(『歴史教育』第14卷第3号、3月)
- ・芹沢長介「新潟県中林遺跡における有舌尖頭器の研究」

(『東北大学日本文化研究所研究報告』第2集、3月)

- ・末永雅雄「狹山町出土の石器」(『狹山町史』第2巻史料篇、4月)
- ・藤本強「1965年の歴史学界一回顧と展望—先史・原史」
(『史学雑誌』第75編第5号、5月)
- ・藤井眞正「枚岡の文化財」(パンフレット) 6月B
- ・芹沢長介「日本の旧石器I)~(10」
(『考古学ジャーナル』第1号~第20号、昭和41年10月~昭和43年5月) C
- ・戸沢充則・杉原莊介・大塚初重「日本における細石器文化の研究」
(『明治大学人文科学研究所年報』第7号、9月)
- ・村川行弘「縄文式文化時代の尼崎」(『尼崎市史』第1巻、10月) B
- ・間壁蔵子「高梁川下流域の無土器時代遺跡」(『倉敷考古館研究集報』第2号、11月)
- ・寝屋川市役所「寝屋川市誌」11月
- ・岡本稔「淡路縄文式、弥生式遺跡遺物の分布」(『淡路地方史研究』第3号)

昭和42年 (1967)

- ・藤井眞正「原始時代の枚岡」(『枚岡市史』第1巻本編、1月)
- ・村川行弘「田能」2月
- ・片山長三「先土器時代」(『枚方市史』第1巻、3月)
- ・堅田直「弁天山B 4号墳」(『大阪府文化財調査報告』第17輯、3月)
- ・芹沢長介「日本における旧石器の層位的出土例とC14年代」
(『東北大学日本文化研究所研究報告』第3集、3月)
- ・日本考古学協会洞穴調査特別委員会「日本の洞穴遺跡」3月
- ・江坂輝彌「日本文化の起源」(『講談社現代新書』108、3月)
- ・麻生優「(学界の趨勢)先土器時代」(『日本考古学年報』15、3月)
- ・塙野博「(学界動向)昭和41年の日本考古学界」(『歴史教育』第15巻第3号、3月)
- ・芹沢長介「(1966年の動向)旧石器時代」(『考古学ジャーナル』第7号、4月) B
- ・杉原莊介「日本先土器時代の新編年に関する試案」(『信濃』第19巻第4号、4月) A
- ・芹沢長介「旧石器時代の終末と土器の発生」() C
- ・小林達雄「長野県西筑摩郡開田村柳又遺跡の有舌尖頭器とその範型」()
- ・菊地徹夫「(1966年の歴史学界一回顧と展望—)先史・原史
(『史学雑誌』第76編第5号、5月)
- ・杉原莊介「先土器時代を探る」(『日本歴史シリーズ』第1巻、5月) B
- ・龜井節夫「日本に象がいたころ」(『岩波新書』645、5月)
- ・澄田正一「伊勢湾沿岸に分布するサヌカイト(謎岐岩)について」
(『末永先生古稀記念古代学論叢』、10月)
- ・末永雅雄「石器文化」(『狹山町史』第1巻本文編、11月)
- ・小林行雄「女王国の出現」(『国民の歴史』1、12月)
- ・戸沢充則「先土器時代文化の構造」(『明治大学大学院紀要』第5集、12月)

昭和43年（1968）

- ・間壁貢子「香川県坂出市横石島採集の石器」（『倉敷考古館研究集報』第4号、1月）
- ・末永雅雄「考古学の窓」1月
- ・芹沢長介「（学界の趨勢）旧石器時代」（『日本考古学年報』16、3月）A
- ・S・A・セショーノフ（田中琢抄訳）「石器の用途と使用痕」
（『考古学研究』第14卷第4号、3月）
- ・佐原真「加茂遺跡」（『伊丹市史』第4卷史料篇1、3月）
- ・末永雅雄編「浜津加茂」（『関西大学文学部考古学研究室』第3冊、3月）
- ・井尻正二「化石」（『岩波新書』673、3月）
- ・大井晴男「日本先土器時代の研究における残された問題について」
（『歴史教育』第16卷第4号、4月）A
- ・桜井清彦「（学界展望）昭和42年の日本の考古学界」（　　・　　）
- ・芹沢長介「（1967年の動向）旧石器時代」（『考古学ジャーナル』第19号、4月）B
- ・佐藤達夫「（1967年の歴史学界一回顧と展望一）先史・原史」
（『史学雑誌』第77編第5号、5月）
- ・直良信夫「ものと人間の文化史・狩獵」9月
- ・袖岡正清・三上貞二「山城盆地における有舌尖頭器の資料」
（『古代文化』第20卷第8・9号、9月）
- ・岩野見司「三重県員弁郡照光寺西南遺跡出土の有舌尖頭器」（　　・　　）
- ・天羽利夫「徳島県鳴門市大麻町出土の有舌尖頭器」（　　・　　）
- ・大場範久「三重県出土の有舌尖頭器」（　　・　　）
- ・芹沢長介「石器」（『新版考古学講座』第1巻、10月）C
- ・藤森栄一「（材質研究）石器」（　　・　　）
- ・考古学史研究グループ「戦後日本考古学の論点」（『文化評論』第85号、10月）
- ・大井晴男「日本の先土器時代石器群の系統について」（『北方文化研究』第3号）B

昭和44年（1969）

- ・芹沢長介「日本の石器時代」（『科学』第39卷第1号、1月）A
- ・稻田孝司「尖頭器文化の出現と旧石器的石器製作の解体」
（『考古学研究』第15卷第3号、2月）
- ・藤沢一夫・堀江門也他「河南町東山所在遺跡発掘調査概報」3月
- ・大阪府教育委員会「大阪府文化財総合分布図」3月
- ・戸沢充則「第4紀と人類」（『地理』第14卷第3号、3月）
- ・郷土読本編さん委員会「無土器時代の遺跡」（『郷土枚方の歴史』、3月）
- ・江坂輝弥「（学界の趨勢）無土器時代」（『日本考古学年報』17、3月）
- ・伊藤玄三「（学界展望）昭和43年の日本考古学界」（『歴史教育』第17卷第4号、3月）
- ・三重県教育委員会「鳥羽・志摩地区遺跡地図」（『三重県埋蔵文化財調査報告書』1、3月）
- ・大井晴男「列島のあけぼの」（『日本文化の歴史』第1巻、4月）A
- ・芹沢長介「（1968年の動向）旧石器時代」（『考古学ジャーナル』第31号、4月）B

- ・小山静夫「(1968年の歴史学界一回顧と展望)先史・原史」
(『史学雑誌』第78編第5号、5月) A
- ・芹沢長介「先縄文文化」(『新版考古学講座』第3巻、5月) C
- ・田代克己「縄文文化以前の茨木」(『茨木市史』、6月)
- ・大羽利夫・立花博「徳島県吉野ヶ里遺跡採集の石器」(『古代学』第16巻第1号、8月)
- ・芹沢長介「石器」(『現代考古学』、8月) D
- ・清野謙次「河内国南河内郡道明寺村字国府遺跡」(『日本貝塚の研究』、9月)
- ・藤本篤「大阪地方のあけぼの」(『大阪府の歴史』、9月)
- ・岡田光義「大技印石器の発見」(『乙訓文化遺産』第4号、9月)
- ・今里幾次「1片の黒曜石片」(『加古川ロータリクラブ会報』第32号、9月)
- ・小野昭「ナイフ形石器の地域性とその評価」(『考古学研究』第16巻第2号、10月)
- ・山本慶一「鶴羽山遺跡採集の石器と土器」(『倉敷考古館研究集報』第6号、10月)
- ・芹沢長介「日本の旧石器時代」(『日本と世界の歴史』第1巻、10月) E
- ・大井晴男「日本における先土器時代の磨製石斧について」
(『考古学ジャーナル』第37号、10月) B
- ・赤松俊秀・山本四郎「原始・古代」(『京都府の歴史』、11月)
- ・大山柏「浜田博士の追憶—特に英國前期印石器と巨石問題—」
(『古代学』第16巻第2・3・4号、12月)
- ・小田静夫「日本先土器時代の様相—西南日本における細石器的性格への指向—」
(『人類学雑誌』第77巻第5・6号、12月) B

昭和45年（1970）

- ・斎藤忠「近代における日本考古学界の動向」(『歴史教育』第18巻第3号、3月)
- ・佐藤達夫「ナイフ形石器の編年的一考察」(『東京国立博物館紀要』第5号、3月)
- ・兵庫県教育委員会「荒神山遺跡調査概報」3月
- ・四手井晴子「滋賀県の有舌尖頭器他」(『古代文化』第22巻第3号、3月) A
- ・安達厚三「奈良県宇陀郡宇陀川底発見の有茎尖頭器」() A
- ・同志社大学考古学研究会「奈良県北葛城郡香芝町閏屋発見の有茎尖頭器」()
- ・置山雅昭「南河内発見の有茎尖頭器1例」()
- ・峯康保明「神戸市兵庫区下谷上出土の有茎尖頭器」()
- ・春成秀爾「日本旧石器時代研究史から学ぶもの(1)」(『考古学研究』第16巻第4号、3月)
- ・渡辺直経「長谷部言人と日本人の人類学」(『科学朝日』第30巻第3号、3月)
- ・杉原莊介・戸沢充則「西日本における先土器時代終末の研究」
(『明治大学人文科学研究所年報』第10号、3月)
- ・三重県文化財連盟「三重県遺跡地図」(『三重県埋蔵文化財調査報告』4、3月) A
- ・「」(『東名阪道路埋蔵文化財調査報告』() 5、3月) B
- ・加藤晋平・畠宏明・鶴丸俊明「エンドスクリイバーについて」
(『考古学雑誌』第55巻第3号、3月)
- ・山田木水「龜山地方郷土史」第1巻、3月

- ・大井晴男「いわゆる「有舌尖頭器」について」(『北海道考古学』第6輯、3月)
- ・林謙作「福井洞穴における細石刃技術とその東北アジア・北アメリカにおける位置づけ」
(上)・(下) (『考古学研究』第16巻第4号・第17巻第2号、3月・9月)
- ・谷田澄夫「吉備の夜明け」(『岡山県の歴史』、4月)
- ・芹沢長介「(学界の趨勢) 旧石器時代」(『日本考古学年報』18、4月) A
- ・安達厚三「石器の製作工程と機能に関する覚え書」(『古代文化』第22巻第5号、5月) B
- ・直良信夫「明石原人骨の思い出」(『考古学ジャーナル』第44号、5月)
- ・芹沢長介「兵庫県西八木出土旧石器の再検討」(『考古学研究』第17巻第1号、6月) B
- ・四手井晴子「京都市北嵯峨菖蒲谷池の石器」(『古代文化』第22巻第6号、6月) B
- ・平安博物館考古第1課編「日本旧石器時代文献目録1」(――)
- ・間壁忠彦・藤子「岡山の遺跡めぐり」(『岡山文庫』31、6月)
- ・間壁忠彦「玉野市の夜明け」(『玉野市史』、7月)
- ・安達房治「二万年の石器」(『神戸史談』227、7月)
- ・中原正光「和歌山県海南市「原野大池遺跡」発見の石器について」
(『和歌山史学』第12号、7月)
- ・安藤精一「和歌山のあけぼの」(『和歌山県の歴史』、8月)
- ・芹沢長介「明石原人文化の再検討」(『朝日新聞』9月11日夕刊)
- ・鶴磨正信・中村貞史「和歌山県出土の有舌尖頭器」(『古代文化』第22巻第9号、9月)
- ・山田良三「京都府井手町出土の有舌尖頭器」(――)
- ・山田耕司「香川県国分寺町西奥遺跡について」(『郵政考古』創刊号、9月)
- ・岡田光義「大枝旧石器の研究その1」(『乙訓文化遺産』第5号、9月)
- ・田辺昭三「土器以前の文化」(『京都の歴史』1、10月)
- ・述藤順昭・町田章「讃岐広島心経山の弥生遺跡」(『古代学』第17巻第2号、10月)
- ・小林達雄「日本列島に於ける細石刃インダストリー」(『物質文化』第16号、10月)
- ・G. クラーク・S. ビゴット・田辺義一・梅原達治訳「先史時代の社会」11月
- ・是川長「考古学上からみた三木地方(加古川流域を中心として)の古代」
(『三木市史』、11月)
- ・片山長三「交野台地の旧石器時代」(『交野町史』改訂増補一、12月) B
- ・加藤晋平「先土器時代の歴史性と地域性」(『郷土史研究講座』1、12月)
- ・天羽利夫「徳島県下出土のナイフ形石器・細石器」(『徳島県立博物館紀要』1)

昭和46年 (1971)

- ・大東市教育委員会「大東市そのむかしをたずねて」(リーフレット) 1月
- ・小野山節「堺周辺の旧石器時代」(『堺市史』続編第1巻、1月)
- ・小林行雄「石器文化起源論」(『論集日本文化の起源1 考古学』、2月)
- ・芹沢長介「旧石器時代の諸問題」(『考古学ジャーナル』第53号、2月)
- ・大阪府教育委員会「大阪府文化財分布図・地名表」3月
- ・富田好久「旧石器時代の池田地方」(『新版池田市史』概説篇、3月)
- ・佐原真「先土器時代」(『伊丹市史』第1巻、3月)

- ・水野正好・堀江門也他「国府遺跡発掘調査概要」
(『大阪府文化財調査概要1971-7』、3月)
- ・考古学研究会「新しい日本の歴史第1編原始社会」3月
- ・林謙作「(1970年の動向)旧石器時代」(『考古学ジャーナル』第55号、4月)
- ・戸沢充則「(学界の趨勢)先土器時代」(『日本考古学年報』19、4月)
- ・佐藤達夫「無土器文化の石器」(『日本歴史』第276号、5月)
- ・三上貞二「山城盆地における旧石器文化の終末・縄文文化の初頭に関する予察」
(『桃山歴史地理』第10号、5月)
- ・岡崎文喜「(1970年の歴史学界一回顧と展望)先史・原史」
(『史学雑誌』第80編第5号、5月)
- ・桜井教大・西尾宏「遺跡と遺物」(『交野町史』改訂増補二、6月)
- ・F. ポルド・芹沢長介・林謙作訳「旧石器時代」6月
- ・稻田孝司・小野昭「先土器時代研究の現状と課題」(『考古学研究』第18卷第1号、6月)
- ・八木哲浩・石田善人「歴史のあけぼの」(『兵庫県の歴史』、6月)
- ・大井晴男「先土器文化編年の時間的基準」(『考古学ジャーナル』第57号、6月)
- ・都出比呂志・四手井晴子「京都府乙訓地方の石器—資料篇—」8月
- ・小江慶雄・三上真二「京都市沢池遺跡」(『京都教育大学紀要』A39号、9月)
- ・横山英介「日本の前期旧石器時代における剥片剥離技術の実体と後期旧石器時代への
関連性についての予察」(『考古学研究』第17卷第2号、9月)
- ・小田静夫「台形石器について」(『物質文化』第18号、10月)
- ・八幡一郎「(座談会)現代の考古学」10月
- ・平安博物館考古第1課編「日本石器時代文献目録2」(『古代文化』第23卷第11号、11月)
- ・杉野文一「香川県豊島西端部の旧石器」(『古代吉備』第7集、11月)
- ・山田良三「京都府綾瀬喜多井手町の先史遺跡」(『立命館文学』第317号、11月)
- ・村川行弘「考古学上からみた芦屋」(『新修芦屋市史』本編、11月)
- ・市原輝士「讃岐のあけぼの」(『香川県の歴史』、12月)
- ・小林達雄・小田静夫他「野川先土器時代遺跡の研究」(『第四紀研究』第10卷第4号、12月)
- ・免山篤「大阪府高槻市土室の埴輪窯址」(『古代学研究』第62号、12月)
- ・三重県文化財連盟「三重の埋蔵文化財」(パンフレット)

昭和47年（1972）

- ・平安博物館考古第1課編「日本旧石器時代文献目録3」(『古代文化』第24卷第2号、2月)
- ・石神怡「国府遺跡発掘調査概要Ⅱ」(『大阪府文化財調査概要1971-3』、3月)
- ・秋枝芳「奈良県橿原市川西町発見の有舌尖頭器」(『古代学研究』第63号、3月)
- ・北野耕兵「五軒家・伏見堂遺跡」(『富田林市史』第4卷、3月)
- ・安達厚三「先土器時代」(『岐阜県史』通史編原始、3月)
- ・J. E. キダー・小山修三他「国際基督教大学構内Loc. 15の先土器文化」
(『人類学雑誌』第80卷第1号、3月)
- ・兵庫県教育委員会「特別地域埋蔵文化財遺跡分布地図及び地名表(第1分冊)」3月

- ・阪本直柔「先土器時代・縄文時代遺跡地名表(神戸編)」(『武陽史学』第5卷第2号、3月)
- ・亀井熙人「原始文化の成立と発展」(『鳥取県史』第1巻、3月)
- ・藤岡謙二郎編「洛西ニュータウン地域の歴史地理学的調査」3月
- ・園田香織編「和歌山市における古墳文化」3月
- ・国立科学博物館・朝日新聞社「日本列島その誕生から人間登場まで」4月
- ・平口哲夫「(1971年の動向)旧石器時代」(『考古学ジャーナル』第68号、5月)
- ・芹沢長介「(学界の趨勢)旧石器時代(先縄文時代)」(『日本考古学年報』20、5月)
- ・上野佳也「(1971年の歴史学界一回顧と展望)先土器・縄文文化期」
 (『史学雑誌』第81編第5号、5月)
- ・同志社大学旧石器文化講話会「大和国香芝町の先土器時代遺跡」(『青陵』第20号、5月)
- ・久野邦雄・秋枝芳「二上山麓出土の石器」(　　・　　)
- ・福井英治「田能遺跡発掘調査報告I(石器篇)」(『尼崎市文化財調査報告』第7集、6月)
- ・片岡翠「神宮寺式土器の再検討」(『考古学ジャーナル』第72号、8月)
- ・香川大学教育学部地理学研究室編「香川の地理」8月
- ・坪倉利正・釋龍雄「京都府奥丹後地方の有舌尖頭器」(『古代文化』第24巻第9号、9月)
- ・片岡翠「舞鶴市小橋川川床発見の有舌尖頭器」(　　・　　)
- ・京都新聞社「紀元前の日本人展」(パンフレット)9月
- ・高橋邦彦・森井正・六車恵一・松本豊胤「さぬきの遺跡」9月
- ・四手井晴子・木村孝雄・武山峯久「京都市広沢池・沢池の石器」
 (『古代文化』第24巻第10号、10月)
- ・桜井敏夫「考古学」(『四条畷市史』、10月)
- ・吉田義隆「(三重県)度会郡干城町カリコ遺跡発見の石器について」(『歩跡』第2号、11月)
- ・鈴木道之助「縄文時代草創期初頭の狩獵活動」(『考古学ジャーナル』第76号、12月)
- ・四手井晴子「石器」(『瓜生堂遺跡・資料篇』)
- ・紀伊風土記の丘資料館「日本の旧石器展—おおむかしの石器—」(パンフレット)
- ・芹沢長介「C-14年代と日本考古学」(『考古学と自然科学』第5号)
- ・薦科哲夫「サヌカイトの蛍光X線分析」(　　・　　)

昭和48年(1973)

- ・「茨木の歴史」編集委員会「茨木の歴史」1月
- ・堺江門也「鳴上郡衙跡発掘調査概要」(『大阪府文化財調査概要1972-1』、3月)
- ・原口正三編「祖先のあゆみ」3月
- ・芹沢長介「石器の語るもの」(『国文学』第18巻第3号、3月)
- ・志方町教育委員会「志方の文化財」3月
- ・加西市教育委員会「郷土のあけぼの一加西の石器文化ー」
 (『加西市文化財資料』第2号、3月)
- ・東宏「先土器時代」(『大東市史』、3月)
- ・山本昭「先土器時代」(『柏原市史』第2巻本編(I)、3月)
- ・交野市教育委員会「かたの一文化財を中心としたー」3月

- ・安藤政雄「関東地方における切出形石器を伴う石器文化の様相」
 (『鞍台史学』第32号、3月) A
- ・山本充久・山尾富美男・中西靖人『大阪府泉南郡阪南町自然田地区埋蔵文化財試掘調査報告書』(『大阪文化財センター調査報告Ⅰ』、3月)
- ・兵庫県教育委員会「特別地域埋蔵文化財遺跡分布地図及び地名表(第2分冊)」3月
- ・永山卯三郎編『(復刻)倉敷市史』(第1冊) 4月
- ・杉原莊介「長野県上ノ平の尖頭器石器文化」
 (『明治大学文学部研究報告考古学第3冊』、4月)
- ・梅原本治『考古学60年』5月
- ・芹沢長介・横山英介「(1972年の動向)旧石器時代」(『考古学ジャーナル』第81号、5月)
- ・今村敬爾「(1972年の歴史学界一回顧と展望)先史・原史」
 (『史学雑誌』第82編第5号、5月)
- ・原口正三「先土器時代」(『高槻市史』第6参考占編、6月)
- ・末永雅雄・藤井祐介「国府遺跡」(『日本古代遺跡便覧』、9月)
- ・中西靖人・辻内義浩『大阪府和泉市内田町及び唐園町所在埋蔵文化財試掘調査報告書』
 (『大阪文化財調査センター調査報告Ⅲ』、10月)
- ・山田耕司「高松市久米山発見の石器」(『郵政考古』第3号、10月)
- ・池田次郎「(日本人種論)解説」(『論集日本文化の起源5 日本人種論・言語学』、11月)
- ・安藤政雄「先土器時代の研究」(『明治大学大学院紀要』第11集(4)文学篇、12月) B

昭和49年 (1974)

- ・芹沢長介編『最古の狩人たち』(『古代史発掘Ⅰ』、1月) A
- ・星新一「祖父・小金井良精の記」2月
- ・佐藤達夫「旧石器時代」(『岡説日本歴史1 日本のあけぼの』、2月)
- ・宮成哲也他「昭和47・48年度高槻市文化財年報」3月
- ・秋枝芳「吹田市吉志部遺跡採集の石器について」(『吹田の歴史』第2号、3月)
- ・藤井祐介「朝日ヶ丘繩文遺跡発掘調査報告」(『芦原市文化財調査報告』第8集、3月)
- ・真野修「明石川流域の考古学研究現状と課題(1)」(『神戸古代史』創刊号、3月) A
- ・鎌木義昌「文化のあけぼの一無土器時代」(『兵庫県史』第1巻、3月)
- ・堀江門也「島上都街跡発掘調査概要Ⅳ」(『大阪府文化財調査概要1973』、3月)
- ・林謙作「繩文期の集団領域」(『考古学研究』第20卷第4号、3月)
- ・芹沢長介「(1973年の動向)旧石器時代」(『考古学ジャーナル』第94号、4月) B
- ・水野正好・泉本知秀「国府遺跡発掘調査概要Ⅲ」(『大阪府文化財調査概要1972-7』5月)
- ・松藤和人「京都市広沢池発見の石器」(『ブレリュード』18、6月) A
- ・藤岡謙二郎「旧石器研究への思い出と关心」(『青陵』第25号、6月)
- ・小野昭他「(討議)繩文期の集団領域(林謙作)」(『考古学研究』第21卷第1号、6月)
- ・松本正信・加藤史郎「土に埋れた文化財(姫路の先土器時代~古墳時代)」6月
- ・岡茂雄「本屋風情」7月
- ・中村善則「難岡山周辺の石器」(『神戸古代史』第1卷第3号、7月)

- ・兼康保明・真野修・落合重信「神戸・明石関係考古学文献目録」
(『歴史と神戸』第66号、7月)
- ・杉原莊介「日本先土器時代の研究」7月
- ・斎藤忠「日本考古学史」(『日本歴史叢書』34、8月)
- ・富田好久・亥野彌「文化のあけぼの」(『川西市史』第1巻、8月)
- ・同志社大学旧石器文化談話会
『ふたがみ—上山北麓石器時代遺跡群分布調査報告書—』9月
- ・鈴木公雄「集団」研究のための覚え書き」(『考古学研究』第21卷第2号、9月)
- ・真野修「明石川流域の考古学研究現状と課題(3)」(『神戸古代史』第1巻第4号、9月)B
- ・〃 「六甲山系南麓(神戸市街地)分布調査」() C
- ・江坂輝弥「(考古学者列伝)本山彦一」(『考古学ジャーナル』第100号、10月)
- ・芹沢長介「学史展望」() C
- ・平口哲夫「ナイフ形石器」()
- ・西垣晴次「文化のあけぼの」(『三重県の歴史』、10月)
- ・岡山県立博物館「岡山県の原始・古代」図録」10月
- ・志方町教育委員会「古代の志方(先土器時代~弥生時代)」
(『志方町遺跡調査報告・その1』、11月)
- ・山本雅靖「河内国府遺跡出土の弥生式土器」(『大阪文化誌』第1巻第3号、11月)
- ・直良信夫「100万年前の日本原人」(『歴史読本』第19卷第4号、11月)
- ・真野修「明石川流域の考古学現状と課題(4)」(『神戸古代史』第1巻第5号、11月) D
- ・松藤和人「国府型ナイフ形石器をめぐる諸問題」(『ブリュード』19、12月) B

昭和50年 (1975)

- ・橋本久・福井英治「かりとすなどり」(『宝塚市史』第1巻、1月)
- ・林謙作「縄文期の集団領域—捕論」(『考古学研究』第21卷第3号、2月)
- ・石神怡「大園遺跡発掘調査概要II」(『大阪府文化財調査概要1974-15』、3月)
- ・宮成哲也他「昭和49年度高槻市文化財年報」3月
- ・安田喜憲「縄文文化成立期の自然環境」(『考古学研究』第21卷第4号、3月)
- ・小野昭「先土器時代石材運搬論ノート」()
- ・和泉市教育委員会「和泉の文化財II」3月
- ・山本昭「玉手山出土の石器」(『柏原市史』第4巻史料編(I)、3月)
- ・関西大学考古学研究室「垂水遺跡第1次発掘調査概報」3月
- ・田辺昭三「淡路の遺跡概要(無土器~弥生)」(『武山遺跡発掘報告』、3月)
- ・野尻湖発掘調査団「野尻湖の発掘1962-1973」3月
- ・読売新聞記事「京に石器入 黒曜石の核発掘」(『読売新聞』3月8日)
- ・瀬川芳則「大昔からくわんかまで」4月
- ・中原正光「紀北の先土器文化—ナイフ形石器の広がりについて—」
(『歴史手帖』第3巻4号、4月)
- ・大阪市立博物館「淡路島の文化財」(『展覧会目録』第64号、4月)

- ・鎌木義昌「旧石器時代論」(『岩波講座日本歴史1』、5月)
- ・麻生優・加藤晋平・藤本強編『日本の旧石器文化』第2巻、5月
- ・岡村道雄「(1974年の動向)旧石器時代」(『考古学ジャーナル』第108号、5月)
- ・戸田哲也「(1974年の歴史学界一回顧と展望ー)先史・原史」

(『史学雑誌』第84編第5号、5月)

- ・山中一郎「彫器研究法」(『史林』第58巻第3号、5月)
- ・磯明男「野尻湖で発見された骨角器」(『神戸古代史』第2巻第1号、6月)
- ・近藤義郎「彫器とナイフ形石器」(『考古学研究』第22巻第1号、6月)
- ・都出比呂志「島本のあけぼの」(『島本町史』本文篇、7月)
- ・稻田孝司「原始社会の日本の特質」(『日本史を学ぶ1 原始・古代』、8月)
- ・寺田和夫「日本的人類学」8月
- ・佐原真「海の幸と山の幸」(『日本生活文化史Ⅰ 日本的生活の母胎』、9月)
- ・瀬戸内海歴史民族資料館『瀬戸内海地域先土器時代遺跡地名表』9月
- ・大阪市立自然史博物館『石器をうみだした山・二上山』10月
- ・神戸市立考古館『生活用具の歴史』(パンフレット) 10月
- ・枚方市文化財研究調査会『楠葉東遺跡見学のしおり』(パンフレット)

近畿地方旧石器時代地名表

凡　例

1. 本地名表は、近畿地方（京都・大阪・滋賀・兵庫・奈良・和歌山・三重）の旧石器時代の遺跡地名表である。
2. 所在地や標高・内容で不明なものは空白のまま残した。将来さらに補いたい。
3. ナイフ形石器（国）・（塚）はそれぞれ国府型ナイフ形石器・塚原型ナイフ形石器を指し示す。詳しくは第2部第Ⅱ章問題の所在についてを参照されたい。
4. 本地名表作製に当っては、石神怡・奥井哲秀・尾上実・田代克己・田淵卯作・都出比呂志・辻本充彦・中野貞郎・灰掛薰・藤沢一夫・藤田正篤・堀江門也・真野修・松藤和人・松下彰・松下晴子・松沢亜生等の諸氏に親切な御教示を得た。記して厚く感謝する。
5. まだ不備疎漏な点があるであろう。諸賢の御叱正と御教示によって一層完全なものとしたい。

(京都府)

No.	遺跡名	所 在 地	標 高	立 地	内 容	文 献 その他の
1	本 山	京都市北区上賀茂本山	約200m	山中	木葉形尖頭器	田辺1970
2	菖 蒲 池	・ 北橘崎菖蒲池谷	約180m	山地	ナイフ形石器(塚)、攝器刺片	四手井1970、二上1971
3	京 郡 郡 菓	・ 上京区京都御苑内	約50m	平地	石核	説亮新聞1975
4	ケシ山山頂	・ 京都市伏見区ケシ山山頂	178m	山頂	ナイフ形石器(国)	田辺1979
5	聚 密 墓 墓	・ 聚密町中町	約50m	平地	*	小江・二上1971
6	疊 水 川 底	・ 白川疊水川底	・	川底	石核?	赤松・山本1969
7	荒 山 町	・ 東山区清瀬寺荒山町	約170m	山中	木葉形尖頭器	田辺1970
8	広 洵 池	・ 右京区嵯峨広沢池下町	約50m	山地	ナイフ形石器(国)、翼状刺片、攝器、石核、刺片、その他	二上1971、四手井1972 松藤1975
9	沢 池	・ 聚密吉野町	約375m	山地	ナイフ形石器(國・塚)、翼状、刺片、彫器、櫛器、刺片、その他	二上1971、小江・二上1971 四手井1972
10	大 原 野 枝	・ 大原野馬鹿場	約150m	台地上	攝器、有舌尖頭器	鶴岡・二上1968、鶴岡・西山1970、二上1971、都出・四手井1971
11	大 江 東 長 町	・ 大江東長町	約70m	・	ナイフ形石器(國)、翼状刺片、彫器、櫛器、石核、大頭器、刺片、その他	都出1975
12	石 見	・ 石見	約45m	平地	刺片	都出1975
13	中 久 住	・ 南区中久世四丁目付近	約20m	・	縫割石刃、縫石核	都出・四手井1971
14	中 清 道	向日市物集集中海道	約30m	・	刺片	*
15	北 山	・ 向日北山	約40m	台地	ナイフ形石器(國)	*
16	下 海 印 寺	長岡京市下海印寺方丸	42~45m	丘陵上	縫石核、縫石器、櫛器、有舌尖頭器	二上1971、都出・四手井1971
17	山 崎 東	乙訓郡大山崎町	約35m	台地上	ナイフ形石器(國・塚)、縫形櫛器	二上1971、都出・四手井1971
18	金 右 衛 門 坂 内	綾瀬郡八幡町金右衛門坂内	・	丘陵上	ナイフ形石器(國)、翼状刺片、刺片	片山1958、都出1975
19	井 手	・ 井手町上井手開	約100m	台地	有舌尖頭器	梅原1923、山田1970、1971
20	南 修 條	龜岡市善我部町南條	・	山麓	削器?	安井1960
21	小 橋 川 庄	舞鶴市小橋川庄	約10m	丘陵上	有舌尖頭器	片岡1972
22	久 美 浜	熊野郡久美浜町	・	・	*	坪倉・釋1972
23	二 軒 家	中郡峰山町新治三軒家	約40m	丘陵上	*	*

(大阪府)

No.	遺跡名	所 在 地	標 高	立 地	内 容	文 献 その他の
1	奥	箕面市奥	・	台地上	有舌尖頭器	原山1973
2	安 威	茨木市安威	約90m	山上	翼状刺片	*
3	雜 体 陵 北	・ 太田	約40m	台地上	ナイフ形石器(國)、翼状刺片、同 石核、刺片	「茨木の歴史」編纂委員会 1973、辻本充彦氏教示
4	都	・ 上植植	約20m	平地	ナイフ形石器(國)、尖頭器	島井哲秀氏教示
5	宿 久 庄	・ 宿久庄	約50m	・	*	辻本充彦氏教示
6	伊 势 寺	高槻市奥天神町1丁目	50m	丘陵上	・、舟底形尖頭器	原山1973
7	慈 誠 寺 山	・ 月見町	60m	・	*	*
8	都 家 川 西 A	・ 川西町	15m	平地	・	瓢江1973、原山1973
9	・ B	・ *	17m	・	・、刺片	瓢江1974
10	・ C	・ *	・	・	*	瓢江1974
11	津 之 江 南	・ 津之江北町	10m	・	・、石核、刺片	高成1974
12	都 家 本 町	・ 都家本町	30m	・	(塚)、刺片	原山1973、辻本充彦氏教示
13	弁 天 山 A	・ 南平台	65m	丘陵上	有舌尖頭器	駿田1967、原山1973
14	・ B	・ *	57m	・	ナイフ形石器(塚)	辻本充彦氏教示
15	・ C	・ *	100m	・	翼状刺片 石核	*
16	宮 田	・ 宮田町3丁目	20m	平地	翼状刺片、叩き石、刺片	高成1975
16	水 室	・ 水室町2丁目	26m	・	*	辻本充彦氏教示
18	皇 子 墓	・ 5丁目	52m	谷間	有舌尖頭器	原山1973
19	關 馬 山 A	・ 上七宝2丁目	80m	丘陵上	ナイフ形石器(塚)	*
20	・ B	・ *	95m	・	・、刺片	辻本充彦氏教示
21	上 室	・ 1丁目	65m	・	・(国)、翼状刺片	原山1971
22	堺 原 A	・ 堀原3丁目	55m	台地上	・(国・塚)、櫛器、石核、圓器、刺片	四手井1964、辻本充彦氏教示
23	・ B	・ *	50m	・	有舌尖頭器	辻本充彦氏教示
24	都 家 今 城	・ 今城町	19m	平地	ナイフ形石器(國)、翼状刺片、石核他	原山1973、高成1974

(大阪府)

No.	遺跡名	所 在 地	標 高	立 地	内 容	文 献 その他の	
25	風 塚	高槻市郡家町	23m	平地	削器、剥片		
26	今 城 塚	*	21m	*	石核、。	田瀬卯作氏教示	
27	山 峠 西	三島郡島本町東大寺	約30m	谷間	ナイフ形石器(國)、剥片	都山1975	
28	庄 潤	*	約12m	平地	剥片	*	
29	宮 / 前	池山市宮ノ前	約25m	台地上	ナイフ形石器(國)		
30	新 声 屋 B	吹田市新芦屋町	約60m	丘陵上	剥片	田代克巳氏教示	
31	吉 志 部	*	25~30m	*	ナイフ形石器(國)、塙、剥片、有舌尖頭器	秋枝1974	
32	垂 水	*	約50m	*	*	人考古学研究室1975	
33	橋 集 東	枚方市楠葉	約30m	山麓	*	鷹川1985、枚方文化財調査会1975	
34	藤 阪 宮 山	*	約50m	台地上	ナイフ形石器、搔器、石核他	片山1958、1960、1963、1967	
35	津 田 三 フ 池	*	*	*	剥片	*	
36	神 宮 寺	守谷市守治神宮寺	約80m	山麓	*	*	
37	太 駒 墓	寝屋川市太駒	約30m	丘陵上	剥片	寝屋川市役所1960、片山1967	
38	打 上	*	約50m	*	剥器	片山1967	
39	岡 山	四条畠市岡山	約35m	丘陵上	ナイフ形石器(國)、剥片	堀山1959、片山1967、桜井1972、東1973	
40	更 良 川	*	*	川中	*	片山1970、東1973	
41	口 下 大 池	東大阪市口下町	*	台地上	*	藤井1966、1967	
42	日 下	*	約25m	*	*	*	
43	草 香 山	*	草香山	山中	有舌尖頭器	櫻原信1942、藤井1966、3	
44	坊 王 山	*	石切町	約80m	*	ナイフ形石器(塙)	
45	正 典 寺 山	*	*	台地上	*	藤井1966、6	
46	山 煙	*	四条町	約80m	*	*	
47	六 万 寺	*	六万寺	約100m	山腹	有舌尖頭器	
48	大 和 川 庄	藤井寺市船橋	約20m	川床	ナイフ形石器(國)、剥片	森・鶴見1968、松下峰子氏教示	
49	国 府	*	慈社町	約25m	台地上	*	森本1957、1959、石神1972
50	高 尾 山	柏原市高尾山	約250m	山上	*	藤野1940、立命地理学研究会1994	
51	勝 松 山	*	越ヶ岡1丁目勝松山	約70m	丘陵上	剥片	山本1973
52	菅 山	羽曳野市菅井	約20m	台地上	有舌尖頭器	秋枝1974	
53	曾 山 白 鳥	*	白鳥3丁目	約28m	*	舟底形細石核	尾上実氏教示
54	新池第1地点	*	成島ヨシヤ山	約70~80m	山腹	彫器、削器、翼状剥片、石核他	同志社1974
55	*	2 *	*	新林	約70~90m	丘陵斜面	ナイフ形石器(國)、翼状剥片、石核他
56	*	3 *	*	寺山	約75m	山腹	*
57	穴 ケ 谷	*	地蔵谷、穴ヶ谷	約60~90m	丘陵斜面	*	
58	幕 ノ 浦	*	幕ノ浦	丘陵上	剥器、搔器、石核他	*	
59	今 池	*	今池	約60m	山腹	*	
60	中 谷	*	中谷	100m	丘陵上	ナイフ形石器(國)、剥片、石核他	
61	春 口 山	*	*	約200m	山上	翼状剥片、研磨片、尖頭器	田代克己、板根和人氏教示
62	猪 山	南河内郡猪山町猪山	約85m	丘陵上	ナイフ形石器(國)、黑曜石片	水木1966	
63	東 池 尾	*	東池尻	65~70m	丘陵斜面	有舌尖頭器	堀山1970、北野1972
64	柏 墓	*	太子町春日柏峯	80~130m	*	彫器、削器、縱長剝片、石核他	同志社1974
65	穴虫跡第1地点	*	北山	130~190m	山腹	ナイフ形石器(國)、翼状剥片、石核他	*
66	*	2 *	*	*	*	*	*
67	*	3 *	*	*	*	尖頭器、翼状剥片、石核他	*
68	屯 雄 塚 第1地点	*	*	120~140m	丘陵斜面	ナイフ形石器(國)、翼状剥片、石核他	*
69	*	2 *	*	*	*	削器、石核他	*
70	東 山	河南町東山	約100m	丘陵上	ナイフ形石器(國)	藤沢1979	
71	古 古 鳥 木 本	堺市古鳥木本町	約25m	台地上	尖頭器	小野山1972	
72	陵 南	*	陵南町	約20m	*	剥片、尖頭器?	中村1975
73	四 ツ 池 付 近	浜寺船尾町	*	平地	有舌尖頭器	芹沢1966、3	
74	野 々 井	野々井町	約50m	丘陵上	ナイフ形石器(國)、剥片、有舌尖頭器	石神治氏教示	
75	大 國	高石市總井	約7m	平地	*	石神1974	
76	大 庄	和泉市鬼鬼町	約390m	丘陵上	*	森1965、和泉市教委1975	
77	伯 太 北	伯太町6丁目	約12m	平地	*	古石臼氏教示	
78	伯 太	*	*	*	剥片	坂根義氏教示	

(大阪府)

No.	遺跡名	所 在 地	標 高	立 地	内 容	文 献 その他の
79	大野池	和泉市尾井町大野池	約50m	丘陵上	有舌尖頭器	灰塚麻氏教示
80	西山	岸和田市岡山				大阪府教委1969
81	海岸寺	貝塚市平田	約50m	丘陵上	剝片	石神怡氏教示
82	新家	泉南市新家			有舌尖頭器	藤田正尾氏教示
83	三井五合山	泉南郡阪南町東鳥三井五合山			*	*

(滋賀県)

No.	遺跡名	所 在 地	標 高	立 地	内 容	文 献 その他
1	瀬山川中川	大津市瀬山川		川中	有舌尖頭器	中川1926、四季井1970
2	大谷河原	・ 田上里町瀬ケ谷河原南東		河原	*	四季井1970
3	田上高原	・ *		台地	ナイフ形石器(国)	*
4	比都佐	蒲生郡比都佐			異形局部磨製石鐵	島田1928
5	木村	・ 蒲生町木村田中	約120m	平地	有舌尖頭器	中川1922
6	山瀬	・ 日野町西大寺善王寺		山中	*	島田1928、四季井1970
7	高塚	・ 竜王町山面高塚		*	*	*
8	念佛寺	愛知郡八木莊村蚊野外		*	*	中川1929
9	高番	坂田郡伊吹町春照村		平地	異形石鐵	小林1941

(兵庫県)

No.	遺跡名	所 在 地	標 高	立 地	内 容	文 献 その他
1	加茂	川西市上加茂	約44m	台地上	ナイフ形石器(國)、舟底形尖頭器	末永1968、笠原1968、高田・吉野1974
2	香合新田	宝塚市香合新田	約390m	山中	有舌尖頭器	橋本・鶴井1975
3	五ヶ岳	・ 五ヶ岳	約150m	台地上	ナイフ形石器	福原1940
4	* 旭ガ岡	・ 仁川高丸		*	有舌尖頭器	橋本・鶴井1975
5	仁川	・ 仁川		*	*	藤沢一夫氏教示
6	苦楽園	西宮市苦楽園		*	石刃	村川1967
7	広田神社	・ 広田町	約30m	*	ナイフ形石器	*
8	朝日ヶ丘	芦屋市朝日ヶ丘町	約60m	*	*(國)、擬制石刃、有舌尖頭器?	村川1966、藤井1974
9	岩ヶ平	・ 岩園町岩ヶ平		*	*	紅野1940
10	会下山	・ 山芦屋町会下山	約170m	山上	*	村川1971
11	荒神山	神戸市東灘区吉古町荒神山	170~226m	*	異状剝片、剝片	石野他1970
12	東ノ平	・ 東ノ平		*	有舌尖頭器	太山1932
13	六甲村東部	・ 六甲村東部		*	*	*
14	下谷上	・ 兵庫区下谷上	約200m	山麓	*	著者1970
15	会下山	・ 会下山町	50m	丘陵上	ナイフ形石器(國)	安達1970
16	境川	・ 須磨区須磨浦通	40m	*	擬制刃器、尖頭器	太田1932
17	名谷	・ 垂水区名谷町中山	約120m	*	有舌尖頭器	真野1974、3
18	大歳山	・ 舞子町	30m	台地上	ナイフ形石器(國)、擬制石刃、有舌尖頭器	*
19	池下A地点	・ *	50m	丘陵上	異状剝片、剝片	真野修氏教示
20	* B*	・ *	*	*	剝片	*
21	鹿大付近	・ *	80m	*	*	村川1967
22	青谷	・ 玉津町	*	*	有舌尖頭器	真野1974、3
23	金棒池	・ 神出町	130m	*	ナイフ形石器(國)、細石核、有舌尖頭器	*、中村1974
24	轟岡山麓	・ *	140m	山麓	*	真野修氏教示
25	青谷池	・ *	120m	丘陵裾	剝片	*
26	拍手ガ池	・ *	135m	*	石核(國)、ナイフ形石器(國)、剝片	*
27	因幡池	・ 岩間町	65m	丘陵上	ナイフ形石器(國)、剝片	*
28	上喰池	・ 平野町	40m	丘陵裾	*	真野1974、3
29	鳥ヶ谷	明石市魚住町	80m	山上	*(國)、*(國)	*
30	喰ガ池	・ *	30m	丘陵裾	*(國)、剝片	真野1974、3
31	寺山	・ *	35m	丘陵上	*(國)、*(國)	*
32	野々池	・ 鳥羽野々池	25m	*	有舌尖頭器	著者1970
33	水白	・ 大久保町	10m	*	ナイフ形石器(國)、剝片	真野1974、3

(兵庫県)

No.	地名	所在地	標高	立地	内容	文献 その他	
34	松の内	明石市大久保町	10m	丘陵上	ナイフ形石器(国)、剝片 人骨? 鐘型?	真野1974, 3	
35	西八木	。	。	丘陵上	ナイフ形石器(國)、剝片	高良1931	
36	和田上池	加古郡稻美町	55m	丘陵	。 (國)、 *	真野1974, 3	
37	琴ヶ池	。	15m	丘陵	。 (國)、 *	*	
38	溝ヶ池	。	15m	丘陵	。 (國)、 *	*	
39	風呂谷池	。	70m	丘陵	。 (國)、 *	*	
40	野原池	。	六分。	。	細核片、剝片	*	
41	漬目池	播磨町	15m	台地上	ナイフ形石器(國)、剝片	上田他1965、足川1970	
42	狐塚ガ池	。	15m	。	有舌尖頭器	足川1970	
43	山之上	加古川市平岡町	15m	丘陵	ナイフ形石器(國)、剝片	前吉川東高校1965、足川1970	
44	新種池	西神吉町新種池	10m	丘陵上	ナイフ形石器(國)、剝片	藤木1974、足川1970	
45	日岡山	大野町日岡山	35m	。	。 (國)、 鐘石核、黒雲母片	高野1974, 3、足川1970	
46	城山	。	30m	。	剝片	*	
47	里池	。	15m	丘陵側	。 (國) *	*	
48	宮山	。	25m	丘陵上	。	*	
49	上の池	。	25m	。	。	真野修氏教示	
50	中西池	西神吉町	10m	。	有舌尖頭器	*	
51	大瀬池	。	20m	山裾	ナイフ形石器(國)、剝片	*	
52	平荘池	平荘町	40m	。	。	*	
53	西堀山	。	40m	山頂上	。	*	
54	奄美山	高砂市伊保町奄美山	92m	山頂	。	有舌尖頭器 藤木1974	
55	横山	A 伊南郡志方町横山	約20m	丘陵	尖頭器?	志方町教委1973、1974	
56	横山	B 。	約25m	。	ナイフ形石器、椎核片、細核片、有舌尖頭器	*	
57	投松	。	約30m	谷間	。	1974	
58	岡山	。	約25m	丘陵	。	1973, 1974	
59	西唯松	。	約50m	。	対状刻片、剝片	*	
60	広尾二塚	。	20~24m	谷間	ナイフ形石器(國)、剝片	*	
61	。	東	。	約30m	台地上	尖頭器、剝片	*
62	。	後池	。	約38m	谷間	対状刻片	*
63	大沢	。	約35m	丘陵	ナイフ形石器、剝片	*	
64	西山新池	。	約24m	谷間	。	*	
65	七ツ池A 地点	。	約48m	。	。 (國) * 剥器	1973, 1974	
66	B	。	約58m	。	石核? 剝片	*	
67	C	。	約66m	。	。 剥器	1973, 1974	
68	D	。	約36m	。	石核 *	*	
69	逆池	加西市玉野町逆池	約80m	台地上	ナイフ形石器(國)、対状刻片、椎器、細石器	加西市教委1973	
70	善坊池	。	約60m	山麓	。	*	
71	龜倉池	。	約70m	山斜面	。	*	
72	皿池	琵琶町皿池	76m	台地上	ナイフ形石器(國)、剝片	*	
73	駒ヶ池	。	60m	。	。	*	
74	繁昌池	。	87m	丘陵上	有舌尖頭器	*	
75	津池	。	87m	。	ナイフ形石器(國)、剝片、有舌尖頭器	*	
76	高岡	加東郡津野町高岡	87m	。	有舌尖頭器	*	
77	福本	。	約300m	台地上	擬長搔器	増田1957	
78	青山上池	。	約30m	山麓	ナイフ形石器(國)、剝片	松本・加藤1974	
79	長池	。	。	。	。	藤木1974	
80	手柄山	。	40m	丘陵上	。	松本・加藤1974	
81	國文寺台	。	15m	段丘上	ナイフ形石器(國)	*	
82	八重東山	。	15m	山麓	有舌尖頭器	*	
83	八代芝崎山	。	150m	山腹	尖頭器	*	
84	大堀塙	。	20m	山腹	ナイフ形石器(國)、剝片	*	
85	碇岩	。	約30m	。	。 (國)、 剝片、有舌尖頭器	藤木1974	
86	岩屋	。	。	丘陵上	有舌尖頭器	大阪市博1975	
87	真野谷	洲本市山東町佐見真野谷	。	谷間	。	藤木1974、大阪市博1975	
88	真緋坪	三原郡赤穂町播磨安住寺	。	。	。	*	

(兵庫県)

No.	遺跡名	所在地	標高	立地	内 容	文献 その他
89	長原	三原郡南淡町長原		平地	有舌尖頭器	鎌木1974、大阪市博1975
90	小倉	* * 阿方		山麓	*	*
91	田ノ浜第1地点	飾磨郡家島町男鹿島	約60m	台地上	ナイフ形石器(塚)	鎌木1962
92	七ノ島	* *	約15m	*	*	*
93	太島 西部	* * 太島	約35m	山頂	尖頭器	*
94	東部	* *	約21m	*	ナイフ形石器(塚)、削器、石核、黒曜石片	*
95	桂島	* *	約20m	台地上	削器	*
96	西ヶ島	出石郡但東町			尖頭器	鎌木1974
97	石ヶ堂	養父郡養父町石ヶ堂			*	*
98	和田	多紀郡篠山町和田	約200m	平地	有舌尖頭器	中野卓郎氏教示

(奈良県)

No.	遺跡名	所在地	標高	立地	内 容	文献 その他
1	屯籠峯第3地点	北葛城郡春芝町中山赤谷	80~100m	谷間	ナイフ形石器(筒)、穿状刮片、石核他	同志社1974
2	滝ヶ谷	* * 丹尻滝ヶ谷	82~90m	尾根上	尖頭器、穿状刮片、石核他	*
3	サカイ	* * ハヤシ・サカイ	80~90m	台地	槌石、石核、刮片他	*
4	桜ヶ丘第1地点	* * 穴室・シラタ・赤坂	66~80m	丘陵上	ナイフ形石器(筒)、穿状刮片、石核他	*
5	*	* * 赤土平	70~90m	尾根端部	削器、刮片、石核他	*
6	*	* * *	約97m	尾根上	刮片他	*
7	鶴峯莊第1地点	* * * 小坊	約82m	丘陵上	ナイフ形石器(筒)、穿状刮片、石核他	*
8	*	* * * 二ト山	70~74m	台地上	削器、搔器、穿状刮片、石核他	*
9	*	* * * 三木	110m	丘陵上	ナイフ形石器(筒)、穿状刮片、石核他	*
10	*	* * * 上山	約74m	段丘上	綫長刮片、石核他	*
11	*	* * * 千坊	約76m	尾根上	削器、穿状刮片、石核他	*
12	*	* * * 二ト山	80~90m	丘陵上	穿状刮片、石核他	*
13	シル谷	* * シル谷・三木	100~130m	尾根上	槌石、穿状刮片、石核他	*
14	黒岩	* * 開屋黒岩	90m	谷筋	綫長刮片、石核他	*
15	山戻峯第1地点	* * 六虫	117~121m	丘陵	ナイフ形石器(筒)、穿状刮片、石核他	*
16	*	* * *	122m	*	* 削片、石核他	*
17	*	* * *	100~120m	*	槌石、綫長刮片、石核他	*
18	平城宮址	奈良市佐紀町	約70m	平地	有舌尖頭器	松沢直生氏教示
19	川内	橿原市川西町	約80~90m	丘陵上	*	秋枝1972
20	宇陀川川底	宇陀郡宇陀川底	川底	*	*	安達1970

(和歌山県)

No.	遺跡名	所在地	標高	立地	内 容	文献 その他
1	鈴河	那賀郡新河町荒見字中藤399	約65m	山麓	有舌尖頭器	島原・中村1970
2	井ノ口	* 貴志川町井ノ口	約50m	平地	ナイフ形石器	中原1975
3	尺谷	* * 尺谷池	約60m	山麓	*	*
4	平池	* * 平池	約50m	平地	*	紀伊風土記の丘1972、中原1975
5	山東大池	和歌山市永山山東大池	約60m	山麓	*	*
6	開郷	* 國部			*	*
7	輪綱寺谷	* 輪綱寺谷			*	*
8	鳴神	* 噴神其妻付近			有舌尖頭器	島原・中村1970
9	下津	瀬草郡下津町上字馬ノ谷	約40m	小丘	*	*
10	山烟	* 野上町山烟	約120m		*	紀伊風土記の丘1972
11	三尾川	* 美里町三尾川			ナイフ形石器	*
12	轄川	海南市轄川			*	*
13	原野大池	* 原野661	約60m	山麓	穿状刮片、石核、刮片	中原1970
14	徳川	有田郡古座町徳川			ナイフ形石器(筒)、刮片	紀伊風土記の丘1972
15	上生池	* 海波町			*	中原1975
16	松瀬	高郡川辺町松瀬			(塚)	安藤1970、紀伊風土記の丘1972
17	大田	御坊市大田			石核、刮片	*

(和歌山県)

No.	遺跡名	所在地	標高	立地	内 容	文 献 その他
18	野鳥 A	御坊市野鳥			刮器、刀器状銅片、石片	紀伊風上記の丘1972
19	・ B	・			ナイフ形石器、搔器、石核、銅片	・
20	野鳥 横川崎	・ 横川崎			・ (撲)	中原1975
21	白 津	西牟婁郡白浜町			有舌尖頭器	紀伊風上記の丘1972

(三重県)

No.	遺跡名	所在地	標高	立地	内 容	文 献 その他
1	照光寺西南	員弁郡大安町石碑南照光寺	約140m	台地上	有舌尖頭器	岩野1968
2	中大野	・ 中大野	約140m	・	・	大場1968
3	高塚	三重郡菰野町杉谷高塚	約100m	・	刮片石器	三重県文化財連盟1970
4	一色山	鈴鹿市朝明町保ヶ野	約50m	・	有舌尖頭器	山崎1891
5	中尾山	・ 小山町中尾山	約100m	川床	・	梅本1961
6	高瀬山	鈴鹿市高瀬町茶山	約40m	台地上	細石器	三重県文化財連盟1970
7	椿一宮	・ 椿一宮町	約105m	・	有舌尖頭器	・
8	加佐登	・ 加佐登町	約40m	・	細石器	・
9	津賀賀	・ 津賀町内山	約40m	山中	有舌尖頭器	大場1968
10	荒子	・ 広瀬町荒子		・	・	・
11	平野	・ 平野町尼ノ樺		台地上	細石器	三重県文化財連盟1970
12	西野	・ 国府町西ノ野		山中	・	・
13	長沢	・ 鈴峯町長沢			有舌尖頭器	大場1968
14	名越	龜山市山村町名越			・	・
15	東出	久居市木村甲東出1924-外	約20m	台地上	石核	鈴木1956、岩野1957
16	西窓	・ 西窓			有舌尖頭器	大場1968
17	新川	松阪市田村新川		台地上	搔器	三重県文化財連盟1970
18	若谷	・ 上川河岸見谷		平地	・	・
19	北波留	飯南郡飯南町波留		台地上	・	・
20	上菅	多気郡大台町菅原地				・
21	下野	・ 下野橋ケ野		台地上	刮片石器	・
22	橋原	・ 橋原塙和中北方			縦形搔器、刃器他	・
23	茶園宮	・ トモロコシ			搔垂器	・
24	新山	・ 新田			石刃、搔器	・
25	出張	・ 出張333		台地上	ナイフ形石器(撲)、石器類多数	吉田1972
26	ヶ野	・ 新田岡ガ野			搔器	三重県文化財連盟1970
27	宮野	・ 宮野			ナイフ形石器(撲)、搔器、刮片、有舌尖頭器	大場1968
28	太閤広	・ 勢和村太人湖広			・	・
29	三ヶ野	・ 三ヶ野			・	服部1964
30	石神	・ 二ヶ野石神	約20m	段丘上	有舌尖頭器、打製石斧、搔器、刮片他	淀川1963、1967、早川・奥1965
31	丹生	・ 丹生			・	大場1968
32	笠松	・ 笠松		平地	石器類	三重県文化財連盟1970
33	藤山中学校	・ 片野藤山中学校			尖頭器	・
34	大曾	・ 丹生大曾4894		平地	石核、尖頭器、有舌尖頭器	大野1968
35	池の谷	・ 池の谷			有舌尖頭器	大場1968
36	野尻	・ 野尻1786			尖頭器	三重県文化財連盟1970
37	柳浦	・ 柳浦2271		平地	・ 搔器	・
38	西沖	・ 西沖9394			・	・
39	松広	・ 松広			有舌尖頭器	大場1968
40	弥山	・ 多氣町相可弥生		台地上	石刃、尖頭器、搔器	三重県文化財連盟1970
41	相可牛山	・ 牛山			ナイフ形石器(撲)、搔器、縦長剣	奥1963
42	東ノ谷	・ 笠森ノ谷			片、尖頭器、有舌尖頭器	三重県文化財連盟1970
43	サンド	・ 山中サンド			・	・
44	ナゴタ	・ ナゴタ			・	・
45	池ノ谷	・ 野中池の谷			縱形搔器、複指形搔器	・
46	ナ	・ 成川ナ			石核、石刃、搔器	・

(三重県)

No.	遺跡名	所在地	標高	立地	内 容	文 献 その他
47	茶 白 山	度会郡玉城町中条茶臼山		石刀核 石核		大場1968
48	妙 法 寺	・ 妙法寺		台地上		三重県文化財連盟1970
49	カ リ コ	・ 世古カリコ	約15m	丘陵端	ナイフ形石器(環)、石核、剥片石器等	青田1972
50	岩 出	・ 岩出		台地上	*	*
51	ア レ キ リ	・ 中角アレキリ		*	*	*
52	ヨ ナ ゴ の 浜	・ 南勢町		平地	石斧	三重県文化財連盟1970
53	大 矢	志摩郡磯部町下文部郷大矢		台地上	尖頭器、搔器	*
54	里 中	・ 飯浜尾崎			搔器	*
55	長 嵐	・ 下文郷長嵐			*	*
56	大 矢 社 田 社	・ ・ 大崎1409		台地上	ナイフ形石器	*
57	木 津	・ 追間木津		*	・ 搔器、尖頭器	*
58	井 之 広	・ 夏草井之広		*	細石核、搔器、石刀	*
59	大 清 戸	・ 阿児町大清戸	約10m	山中	ナイフ形石器(環)、細石核、搔器、石刃	鈴木1956、岩野1957
60	次 郎 六 郎	・ 大工町船越次郎六郎		*	細石核形搔器	岩野1957
61	当 茂 地 A	・ 当茂地		*	剥片石器	三重県文化財連盟1970
62	・ B	・ *		*	細石器	*
63	登 茂 東 薩	・ 船越登茂山		*	細石核、尖頭器	鈴木1956、岩野1957
64	岸 间 山	鈴鹿市岸间町云雀山			細石器	三重県文化財連盟1970

高槻市文化財調査報告書第8冊

津之江南遺跡発掘調査報告書

——三島地方の旧石器時代について——

1976年3月

発行者 高槻市教育委員会
高槻市桃園町2番1号

印刷者 日本写真印刷株式会社